

2024年度
病院年報



社会医療法人財団 白十字会

白十字病院



「社会医療法人財団白十字会 シンボルマーク」

hakujujikaiの頭文字のhを未来に羽ばたく羽のようにデザインし、市民の皆様や患者様を表す3つの丸を優しく見守っています。

羽の中心には、白十字を置き、私たち職員の職業精神の基本であり、誇りを表しています。

hは、heart（ハート・心）、hospitality（ホスピタリティ・親切なおもてなし）、human（ヒューマン・人間らしさ）、health（ヘルス・健康）を表し、健康に寄与する私たち白十字会職員の統一した意思を象徴しています。

「さらなる成長」

2024 年度は新病院移転・分院 4 年目の年であり、新たな stage に移る準備が整った年となりました。やっとあの“コロナ禍”から解き放たれましたが、代わりに物価高騰が進み、公定価格である診療報酬では対応できず経営苦を強いられました。これまで準備してきた医師の働き方改革により、医師の時間外労働規制が年の上限 960 時間という A 水準でスタートしました。また、“コロナ禍”で途絶えていました白十字病院地域医療連携“感謝の夕べ”を 5 年ぶりに開催することができ、82 施設 120 名の登録医を中心に地域の医療機関の皆様にご参加いただきました。日頃の感謝や情報交換、意見交換が行われ、より一層親睦を深める機会となりました。病院忘年会も 5 年ぶりに開催され、日頃から懸命に地域医療を支えている職員たちへの感謝を込めた場として企画されました。約 500 人が集合し、職員同士の慰労、労い、笑顔と歓声が溢れました。

木村廣志先生（腎臓内科）が 4 人目の副院長に就任し、主に外来統括、保険診療査定対策を担当し成果を出しました。総合診療科を開設して最勝寺佑介先生迎え入れ、高齢者医療を強化するための基盤作りが始まりました。更に消化管外科、泌尿器科にてロボット支援下手術を開始、救急センターに救急救命士 3 名を採用配属するなど、診療体制の充実が図られました。地域における一つの役割である“健康なまちづくり”のため地域貢献推進会議（白十字会福岡地区）が発足され、地域交流サロンいしまるしえを利用した活動が活発となってきました。

このように診療体制は安定し、年間スローガン「福岡市西部・糸島 33 万人の医療は我々が護ります」の下に医療実績は手術件数、救急車受け入れ件数、初診紹介患者数、新規入院患者数、病床稼働率等において過去最高となりました。しかし、まだ体制不足、機能不十分が残り、患者さんの受け入れ要請に応えきれないことがありました。病床は 282 床と限りがあるので、患者受け入れの需要に十分に應えるためには更に病院の仕組みを改善し機能を上げる努力が必要です。

今後も、白十病院は地域医療支援病院として、盤石な多職種協働と地域医療連携の土台の上に“高度専門医療”、“救急医療”、“在宅療養後方支援”、“健康なまちづくり”を 4 本柱として、福岡市西部～糸島地域の連携医療機関の皆様と共に地域医療に貢献できるよう鋭意努力して参ります。

ここに 2024 年度（令和 6 年度）の白十字病院の様々な実績・業績を年報としてまとめました。白十字病院の成長がお分かり頂けることと思います。是非、ご一読ください。

2025 年（令和 7 年）4 月

社会医療法人財団 白十字会 白十字病院

病院長 瀧野 泰秀

目次

はじめに	1
1. 病院概要	4
基本理念・基本方針	4
名称・開設者・管理者・所在地・病床数	4
標榜診療科	4
専門外来	4
センター	4
学会認定・教育施設	4
診療内容	5
専門診療施設	5
社会医療法人財団 白十字会 組織図	6
社会医療法人財団 白十字会 福岡地区 組織図	7
職種別人員数	8
2. 2024年度 白十字病院のあゆみ	9
3. 各種センター紹介	14
脳卒中センター	14
糖尿病センター	16
消化器内科・内視鏡センター	17
乳腺センター	17
透析センター	17
肝胆膵センター	18
心臓・弁膜症センター	19
4. 診療統計	21
2024年度 2週間以内サマリー作成率	21
2024年度 ICD10大分類別 入院患者数 年推移	22
年齢階級別退院患者数	23
診療情報提供（カルテ開示）件数	23
救急医療関連実績	24
救急車受入れ台数年次推移	24
2024年度 曜日別救急搬送件数	25
2024年度 性別・年齢別の救急搬送件数	26
2024年度 救急隊別搬送数と入院率	27
総合診療科	29
内科系診療実績	32
糖尿病内科	32
脳・血管内科	33

消化管内科	35
肝臓・胆のう・膵臓内科	36
腎臓内科	38
心臓血管内科	39
呼吸器内科	41
放射線科	42
病理診断科	43
外科系診療実績	45
外科	45
乳腺外科	47
整形外科	49
形成外科	50
脳神経外科	51
泌尿器科	54
眼科	55
麻酔科	57
歯科・歯科口腔外科	58
心臓血管外科	60
5. 看護部	66
6. 感染制御部	72
7. 薬剤部	73
8. 放射線技術部	76
9. 臨床検査技術部	78
10. 臨床工学部	82
11. 眼科技術部	88
12. リハビリテーション部	90
13. 栄養管理部	96
14. 事務部門	98
入院動態患者数（退院を含む）	98
入院静態患者数	98
1日平均外来患者数	98
診療報酬に対する査定率	99
入院患者診療単価	99
外来患者診療単価	99
2024年度 主要医療機器・環境設備等導入一覧	100
15. 安全管理部	101
16. 患者支援センター	104

17. TQMセンター	108
18. 各種委員会	111
2024年度 活動報告	112
19. 資格取得奨励支援制度利用状況	127

1. 病院概要

■ 基本理念・基本方針

1) 基本理念

患者さん・利用者さんが1日も早く社会に復帰されることを願います。

2) 基本方針

- ・患者さん・利用者さんの権利を尊重し、快適な療養・生活環境を提供いたします。
- ・地域医療機関との連携に努め、市民のニーズに合ったサービスを提供することにより、社会に貢献いたします。
- ・職員の総和をもって、納得の医療・介護サービスを推進し、地域から信頼され、愛される施設を作ります。
- ・最新の知見と設備を導入し、日進月歩の医療・介護に正面から取り組みます。
- ・社会人として白十字会職員として、信頼される人格を持った責任ある人間を育成いたします。
- ・すべての職員はかけがえのない人財であり、職員にとって価値ある職場であるよう努力いたします。

■ 名称・開設者・管理者・所在地・病床数

地域医療支援病院、基幹型臨床研修病院、救急告示病院、開放型病院、へき地医療拠点病院
(財) 日本医療機能評価機構認定施設、内科専門医研修プログラム基幹施設

名 称：社会医療法人財団 白十字会 白十字病院

開設者：社会医療法人財団 白十字会 理事長 富永 雅也

管理者：瀧野 泰秀

所在地：福岡県福岡市西区石丸4-3-1

病床数：許可病床数 282 床 [ICU 病床 12 床、一般病床 225 床、地域包括ケア病床 45 床]

■ 標榜診療科

内科、糖尿病内科、脳・血管内科、脳神経内科、腎臓内科、人工透析内科、肝臓内科、消化器内科、
心臓血管内科、内分泌内科、呼吸器内科、放射線科、精神科、外科、消化器外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、
肛門外科、乳腺外科、呼吸器外科、心臓血管外科、血管外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、形成外科、
眼科、救急科、麻酔科、リハビリテーション科、臨床検査科、病理診断科、歯科、歯科口腔外科 以上 33 診療科

■ 専門外来

もの忘れ外来、睡眠時無呼吸症候群外来、弁膜症スクリーニング外来、腎療法選択外来、PD 外来、
肩関節外来、膝・股関節外来、肺がん外来

■ センター

脳卒中センター、心臓・弁膜症センター、肝胆膵センター、糖尿病センター、内視鏡センター、透析センター、
乳線センター、救急センター、手術センター、高度画像センター、創傷治癒センター 以上 11 センター

■ 学会認定・教育施設

日本糖尿病学会認定教育施設
日本病態栄養学会認定病態栄養専門医研修認定施設
日本透析医学会専門医認定施設
日本腎臓学会認定教育施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本消化管学会胃腸科指導施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
日本脳卒中学会認定研修教育施設
日本神経学会専門医制度准教育施設
日本外科学会外科専門医修練施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本脳神経外科学会専門研修プログラム連携施設
日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設

日本乳癌学会認定施設
日本脈管学会認定研修関連施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定関連施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本病理学会研修登録施設
日本口腔外科学会認定准研修施設
日本有病者歯科医療学会研修施設
日本診療放射線技師会医療被ばく低減施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
日本医学放射線学会画像診断管理認定施設
日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設
日本病態栄養学会栄養管理・NST 実施施設
マンモグラフィ検診施設画像認定施設
臨床研修指定病院 (医科・歯科)

■ 診療内容

診療科目		内容
内科	糖 尿 病	糖尿病、糖尿病合併症、低血糖症、肥満、代謝性疾患、内分泌疾患
	脳・血管	虚血性脳血管障害（脳梗塞、一過性脳虚血発作）、中枢神経感染症、頸動脈狭窄症など
	消 化 管	消化管疾患一般、消化管悪性腫瘍、消化管良性腫瘍、消化管出血、炎症性腸疾患、消化管感染症、消化管異物
	肝 胆 膵	肝臓、肝臓癌治療、肝機能障害の診断、ウイルス性肝炎の治療、食道・胃静脈瘤治療、肝硬変治療、腹部超音波検査
	腎 臓	腎臓、腎生検、保存期腎臓病治療、血液透析、腹膜透析、ブラッドアクセス手術、シャントPTA、腎臓リハビリテーション
	心 臓 血 管	心臓カテーテル検査、経皮的冠動脈インターベンション、高速回転式経皮的冠動脈形成術、恒久ペースメーカー植え込み術、下肢血管造影、下肢血管内治療、運動負荷心電図、ホルター心電図、長時間心電図、動静脈血管エコー検査、（経食道）心エコー検査、心筋シンチグラフィ、心肺運動負荷試験（CPX）、心臓リハビリテーション、終夜睡眠ポリグラフ（PSG）検査、心筋生検、心嚢ドレナージ、カテーテルアブレーション、心臓電気生理学的検査
	呼 吸 器	気管支喘息、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、間質性肺炎、肺癌、呼吸器感染症など呼吸器疾患全般
	総 合 診 療	原因不明の症状、多症状・多臓器、紹介先不明症例（外来診療）
外科		食道、胃・十二指腸、大腸、小腸、虫垂、肛門、肝臓、胆嚢、胆管、膵臓、ロボット支援内視鏡手術、腹腔鏡下手術、胸腔鏡下手術、ERCP（胆・膵内視鏡）、PTBD（胆道経皮的治療）、ヘルニア、腹部救急疾患、癌化学療法、癌終末期医療
乳 腺 外 科		乳腺疾患、乳癌検診
整 形 外 科		スポーツ障害、膝関節疾患、肩関節疾患、外傷（骨折・脱臼）、骨粗鬆症、変形性関節症、関節鏡手術、膝骨切り手術、人工関節手術
形 成 外 科		瘢痕、ケロイド、熱傷、顔面外傷、褥瘡、皮膚腫瘍、爪疾患、手の外傷、眼瞼下垂、手根管症候群、皮膚潰瘍
脳 神 経 外 科		未破裂脳動脈瘤、くも膜下出血（脳動脈瘤破裂）、脳出血、脳動脈瘤解離、脳動静脈奇形、脳梗塞、モヤモヤ病、頸動脈狭窄症、脳腫瘍、頭部外傷、頸椎症、椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、手根管症候群、殿皮神経障害、肘部管症候群、足根管症候群、腰痛、手足の痺れ、特発性正常圧水頭症
心 臓 血 管 外 科		心臓弁膜症手術（低侵襲心臓手術：MICS手術含む）、冠動脈バイパス手術、胸部・腹部大動脈瘤手術、ステントグラフト手術、閉塞性動脈硬化症（外科手術、血管内治療）、下肢静脈瘤
泌 尿 器 科		尿路結石症（ESWL・TUL・PNL）、腎癌、腎盂癌、尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣癌、尿路感染症、前立腺肥大症、ロボット支援内視鏡手術、内視鏡的手術、腹腔鏡下手術、尿路変向、前立腺生検、尿失禁
眼 科		糖尿病網膜症、白内障、緑内障、ぶどう膜炎、網膜色素変性症、加齢黄斑変性、網膜剥離、眼循環、角膜・結膜疾患、屈折矯正コンタクトレンズ、ドライアイ、神経眼科、全身性眼疾患、眼感染症、ロービジョン外来、角膜疾患
放 射 線 科		CT、MRI、RI、IVR、放射線診断
歯 科 口 腔 外 科		口腔外科、基礎疾患のある方の歯科治療、歯科心身症

■ 専門診療施設

施設名	担当責任者
脳卒中センター	脳神経外科 井 上 亨
心臓・弁膜症センター	心臓血管外科 江 石 清 行
肝胆膵センター	外科 谷 博 樹
糖尿病センター	糖尿病内科 岩 瀬 正 典
内視鏡センター	消化管内科 井 浦 登志実
透析センター	腎臓内科 平 野 直 史
乳腺センター	乳腺外科 松 尾 文 恵

社会医療法人財団 白十字会 組織図

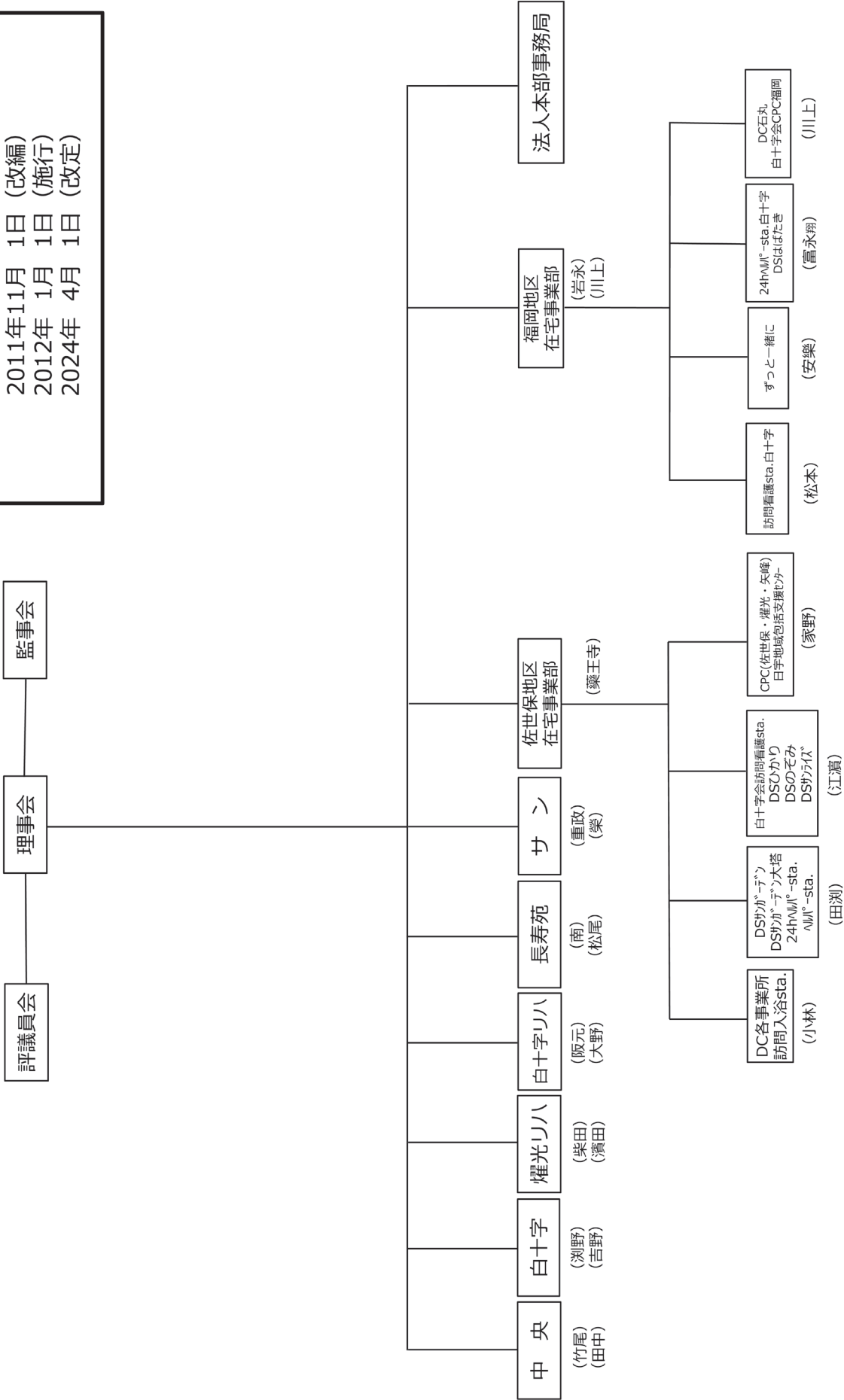
2024 年 4 月 1 日

社会医療法人財団白十字会組織図 (施設)

2011年11月 1日 (改編)

2012年 1月 1日 (施行)

2024年 4月 1日 (改定)





■ 職種別人員数

2024 年 4 月 1 日

(白十字病院)

職 種	常 勤		非常勤		職 種	常 勤		非常勤	
	男	女	男	女		男	女	男	女
医 師 (歯科医師含む)	66	20	51	16	理 学 療 法 士	14	8	0	1
診 療 看 護 師	3	0	0	0	リハビリ助手	0	1	0	1
看 護 師 放射線・検査 (バ)・含む	33	266	0	26	作 業 療 法 士	5	10	0	0
准 看 護 師 検査 (バ) 含む	0	0	0	3	言 語 療 法 士	2	4	0	2
ケアスタッフヘルパー	4	10	3	15	臨 床 工 学 技 士	14	4	0	0
介 護 福 祉 士	1	5	1	2	臨床工学部助手	0	0	0	1
リハビリ 秘書	0	0	0	1	視 能 訓 練 士	1	2	0	0
外来アシスタント	0	2	0	26	救 急 救 命 士	3	0	0	0
安全・感染看護師	0	3	0	0	M・S・W	1	8	0	0
薬 剤 師	8	11	0	1	事 務 員	14	58	0	40
薬 剤 師 助 手	0	0	0	6	事務員 (在宅)	0	0	0	0
検 査 技 師	10	15	0	1	施設課 (車輛)	5	0	0	0
臨床検査技術部 アシスタント	0	0	0	3	S E	5	2	0	0
放 射 線 技 師	12	6	0	0	病棟クランク	0	2	0	11
歯 科 衛 生 士	0	4	0	0	施設課 (設備)	2	0	0	0
歯 科 助 手	0	0	0	1	清 掃 作 業 員	0	0	0	0
管 理 栄 養 士	2	8	0	0	厨 房 助 手	0	0	0	0
ケアマネジャー	1	0	0	0	調 理 師	1	0	0	0
合 計	140	350	55	101	合 計	67	99	0	56
白十字病院合計	868 名 (常勤		656 名 ・ 非常勤		212 名)				
総 合 計	1,215 名 (常勤		969 名 ・ 非常勤		246 名)				

(在宅事業部)

(訪問看護 ST)

職 種	常 勤		非常勤		職 種	常 勤		非常勤	
	男	女	男	女		男	女	男	女
ケアマネージャー	1	7	0	0	看 護 師	0	11	0	1
社 会 福 祉 士	0	0	0	0	理 学 療 法 士	1	1	0	0
社会福祉主事任用	0	0	0	0	作 業 療 法 士	2	0	0	0
介 護 福 祉 士	7	10	0	3	事 務 員	0	1	0	0
ケアスタッフヘルパー	1	3	0	3					
看 護 師	0	2	0	0					
准 看 護 師	0	0	0	0					
事 務 員	1	2	0	0					
合 計	10	24	0	6	合 計	3	13	0	1
在宅事業部合計	40 名		(常勤 34 名 ・ 非常勤 6 名)		訪問看護 ST 合計	17 名		(常勤 16 名 ・ 非常勤 1 名)	

2. 2024 年度 白十字病院のあゆみ

2024 年

4 月 1 日	入社式 新入職員研修
9 日～10 日	1 年次研修（新入職員研修） 〔診療報酬改正 施設基準届出〕 報告書管理体制加算（新規） 看護職員夜間配置加算（地域包括ケア病棟入院料注 8）（変更） 連携充実加算（変更） 麻酔管理料 I（変更）
5 月 1 日	クールビズ開始
8 日	理事長勉強会
10 日	ダビンチ手術開始
13 日～22 日	職員健診
15 日	第 125 回西区医師会学術講演会・啐啄会共同開催（第 19 回） 講演『泌尿器ロボット手術の最前線』 講師：福岡大学医学部 腎泌尿器外科学講座 主任教授・診療部長 羽賀 宣博 先生
17 日	いしまるしえ健康づくり教室（栄養管理部）
21 日	いしまるしえ「つながるカフェ（認知症カフェ）」
24 日	いしまるしえ健康づくり教室（歯科衛生部）
25 日	第 15 回白十字駅伝大会
31 日	いしまるしえ健康づくり教室（リハビリテーション部） 〔診療報酬改正 施設基準届出〕 腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）（新規）
6 月 10 日	法人内認定資格者授与式
12 日	いしまるしえ健康講座「もしもの時に役立つ社会保障制度」（患者支援センター）
26 日	いしまるしえ「つながるカフェ（認知症カフェ）」 〔診療報酬改正 施設基準届出〕 特定集中治療室管理料 5 早期離床・リハビリテーション加算（新規） 急性期看護補助体制加算 25 対 1（看護補助者 5 割以上）（新規） 100 対 1 夜間看護補助加算（新規） 夜間看護体制加算（新規） 看護補助体制充実加算（新規） 慢性腎臓病透析予防指導管理料（新規） がん薬剤療法体制充実加算（新規） 外来・住宅ベースアップ評価料（I）（新規） 入院ベースアップ評価料 60（新規） 腹腔鏡下直腸切除・切断術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）（新規）

7 月	安全・安心いっぱい月間
5 日	ピュアキッズ「七夕会」
6 日	医療安全・感染対策・個人情報合同研修会 防犯対策研修会『患者も守るそして自分も守る～ペイシエントハラスメント対策』 講師：白十字病院 防犯対策室 室長 柴田 建一 個人情報保護研修会『要配慮個人情報漏えい等の報告義務』 講師：鴻和法律事務所 中村 伸理子 先生 感染対策研修会『食中毒の予防について』 講師：白十字病院 感染管理認定看護師 5 階北病棟 主任 入江 育美 『抗菌薬適正使用について』 講師：白十字病院 薬剤部 主任 八木 美里 医療安全研修会『組織で取り組む医療安全（組織文化）』 講師：九州大学病院 ARO 次世代医療センター 特任准教授／病院長補佐 鮎澤 純子 先生 保険診療に関する研修会『療養担当規則』 講師：白十字病院 事務部 事務次長 診療情報課課長 松元 潤
8 日～ 9 日	2 年次研修（フォローアップ研修）
10 日～ 11 日	3 年次研修（フォローアップ研修）
12 日	いしまるしえ健康づくり教室（栄養管理部）
17 日	第 126 回西区医師会学術講演会・哮喘会共同開催（第 20 回） 講演『大腸がんに対するロボット手術の現状との今後の展望』 講師：福岡大学医学部 消化器外科学教室 教授 長谷川 傑 先生
19 日	新任考課者研修（フォローアップ研修） いしまるしえ健康づくり教室（歯科衛生部）
25 日	第 2 回白十字病院 ICLS 指導者養成ワークショップ COVID-19 患者増加に対する他部署からの病棟業務応援開始
26 日	OJT 研修（OJT 前期研修） いしまるしえ健康づくり教室（リハビリテーション部）
27 日	ピュアキッズ「夏祭り」 〔診療報酬改正 施設基準届出〕 術後疼痛管理チーム加算（新規） 精神疾患診療体制加算（新規）
8 月 1 日	産業医による健康診断開始 開放型病院共同指導再開
16 日	新任考課者研修（初期研修）
22 日	いしまるしえ「つながるカフェ（認知症カフェ）」
23 日	新任考課者研修（初期研修）
24 日	いしまるしえ夏休み特別企画～第 2 弾～『みんな de めんたいこ作り』（レストラン部）
28 日	いしまるしえ健康講座「脱水」（脳卒中センター）
29 日	新任監督者研修（オンライン） 〔診療報酬改正 施設基準届出〕 病棟薬剤業務実施加算 1（新規） 特定集中治療室管理料 3 早期離床・リハビリテーション加算（辞退）

9月2日～8日	医療安全・感染対策・個人情報合同研修会（e-ラーニング）
6日	第1回白十字×福大救命救急医療合同研修会
7日	ユマニチュードレベルアップ研修
11日	福岡市環境局立ち入り検査
12日	管理者研修①
13日	管理者研修②
	COVID-19 患者増加に対する他部署からの病棟業務応援終了
	いしまるしえ健康づくり教室（栄養管理部）
17日	中途採用者研修会
	白十字会グループ職員の介護相談窓口開設
18日	第6回理事長勉強会
20日	いしまるしえ健康づくり教室（歯科衛生部）
21日	いしまる祭り出店
25日	いしまるしえ「つながるカフェ（認知症カフェ）」
27日	いしまるしえ健康づくり教室（リハビリテーション部）
	〔診療報酬改正 施設基準届出〕
	周術期薬剤管理加算（新規）
10月8日～17日	特定業務従事者健康診断
10日	石丸小学校3年生総合学習で来院
10日～31日	セーフティマネジメント大会（e-ラーニング視聴）
18日	いしまるしえ「つながるカフェ（認知症カフェ）」
22日	防火避難訓練
28日～29日	1年次研修（フォローアップ研修）
30日	監督者研修①
	いしまるしえ健康講座「高齢者の食事のポイント」（脳卒中センター）
31日	監督者研修②
	ピュアキッズ「ハロウィン」
	〔診療報酬改正 施設基準届出〕
	麻薬管理料Ⅰ（変更）
	後発医薬品使用体制加算1（辞退）
	急性期一般病棟入院料1（新規）
	地域包括ケア冒頭入院料2（新規）
	入退院支援加算1（新規）
	外来腫瘍科学療法診療料1（新規）
	神経学的検査（変更）
	看護処遇改善評価料56（変更）
	間歇スキャン式持続血糖測定器使用（選定療養）（新規）
	特定集中治療室管理料5早期離床・リハビリテーション加算（新規）
	診療録管理体制加算2（辞退）

11月 1 日	白十字会ワークフローシステムの導入
12日	OJT 研修 (OJT 後期研修)
13日	福岡市西保健所立入検査 リーダー研修 (初級)
14日	リーダー研修 (中級) いしまるしえ健康講座「介護技術 (ケア技対応) ; 民生委員対象」(在宅事業部)
15日～12月15日	第2回感染対策研修会 (e-ラーニング受講)
16日	いしまるしえ「つながるカフェ (認知症カフェ)」
18日	新任考課者研修 (フォローアップ研修)
20日	第127回西区医師会学術講演会・啖啄会共同開催 (第21回) 講演『当院における放射線技術部の関わり～知られざる診療放射線技師の姿～』 講師：放射線技術部 課長 川口 高志 先生 放射線技術部 係長 山口 広之 先生
23日	ICLS 研修
29日	いしまるしえ健康講座「おうちで始める薬膳料理」(栄養管理部)
30日～12月 1 日	ユマニチュード入門コース 〔診療報酬改正 施設基準届出〕 後発医薬品使用体制加算 1 (新規)
12月	安全・安心いっぱい月間
11日	いしまるしえ健康講座「脳卒中のリハビリ」(脳卒中センター)
20日	病院忘年会
21日	医療安全&臨床倫理研修会 講演『DNAR の倫理』 講師：宮崎大学付属病院 臨床倫理部長 宮崎大学大学院医学獣医総合研究科教授 板井 孝一郎 先生
24日	いしまるしえ「つながるカフェ (認知症カフェ)」
25日	永年勤続表彰式 ピュアキッズ「クリスマス会」 〔診療報酬改正 施設基準届出〕 感染対策向上加算 1 (新規) 腹腔鏡下腎悪性腫瘍切除術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合) (新規) 看護処遇改善評価料 54 (辞退)

2025 年

1 月 6 日	コードホワイト運用開始
15日	第128回西区医師会学術講演会・啖啄会共同開催 (第22回) 講演『CKD 重症化予防のための医療連携』 講師：副院長／腎臓内科部長 木村 廣志 先生
17日	アビスパ福岡「ROOT PROJECT」奈良選手来院
19日	いしまるしえ「つながるカフェ (認知症カフェ)」
20日	2年目考課者研修
29日	施設基準に係る適時調査
31日	新任考課者研修①

2月1日	新任考課者研修②
5日	考課者説明会
6日	ピュアキッズ「節分」
8日	考課者説明会
13日	いしまるしえ「つながるカフェ（認知症カフェ）」
16日	エコウオーク
23日	ICLS 研修
25日	OJT 研修（新指導者研修）
28日	第7回理事長勉強会 〔診療報酬改正 施設基準届出〕 病棟薬剤業務実施加算2（新規） 感染対策向上加算2連携強化加算サーベイランス強化加算（辞退） 画像診断管理加算2（変更） 病床が200床以上の病院等について受けた初診・再診の実施（変更）報告書（辞退） 病床が200床以上の病院等について受けた初診・再診の実施（変更）報告書⇒ 地域医療支援病院分（新規） 神経学的検査（変更）
3月2日	いしまるしえ健康講座「白リハ体験ツアー」（白十字リハビリテーション部）
4日～7日	考課者説明会
7日	第27回救急医療研修会
8日	エコウオーク
12日	いしまるしえ「つながるカフェ（認知症カフェ）」
13日	いしまるしえ健康講座「頭皮ケア」（在宅事業部）
14日	ピュアキッズ「お別れ遠足」
17日	理事長交代式
18日	不在者投票
19日	第129回西区医師会学術講演会・啐啄会共同開催（第23回） 講演1『要介護高齢者における誤嚥性肺炎の実態～摂食咀嚼嚥下機能と栄養状態について～』 講師：歯科・歯科口腔外科 部長 嶋村 知記 先生 講演2『「GLIM 基準」とは～白十字病院 NST の取り組みについて～』 講師：栄養管理部 部長 島井 里佳 先生
28日	個人情報書類破棄
24日	第46回いい仕事人表彰式
31日	「白十字会オリジナル QUO カード」の配布終了 〔診療報酬改正 施設基準届出〕 乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（新規）

3. 各種センター紹介

● 脳卒中センター

脳卒中センター長 井上 亨

脳卒中センターは、脳神経外科医、脳神経内科医、脳血管内治療医、看護師、リハビリスタッフ、管理栄養士、薬剤師、歯科衛生士、医療ソーシャルワーカーなどの多職種体制により、脳卒中疾患（脳梗塞、一過性脳虚血発作、くも膜下出血、脳出血）および脳腫瘍、頭部外傷、脊椎脊髄疾患、末梢神経疾患など各科と連携をとりながら24H/7Dで治療を行っています。当センターは日本脳卒中学会より一次脳卒中センター（Primary Stroke Center：PSC）の認定を受けていましたが、2022年には実績を認められPSCコアセンターに認定されました。また、これまでの4南脳卒中専用の病棟（Stroke Unit：SU）に加えて、2023年8月には念願の脳卒中専用のICU（Stroke Care Unit：SCU）が開設しました。当センターは日本脳卒中学会研修教育施設にも認定されており、西区・糸島地区における脳卒中診療において中心的な役割を担っています。

脳卒中が疑われる患者さんに対しては、緊急頭部CT・MRI撮影が可能です。さらに、看護部、放射線部、臨床検査部、臨床工学部その他の部門と協力して脳卒中スクランブル体制を敷いており、脳梗塞超急性期患者に対して24H/7Dでrt-PA静注療法、脳血栓回収療法が可能です。手術が必要な脳出血に対しては、神経内視鏡を用いた低侵襲手術を行い早期にリハビリテーションを開始しています。くも膜下出血に対しては、従来の開頭脳動脈瘤クリッピング術に加え、カテーテルを用いた脳動脈瘤コイル塞栓術を行い良好な成績を上げています。2022年11月からは、医師・メディカルスタッフ専用の脳卒中担当医師への直通電話「白十字病院脳卒中センターホットライン」の運用が開始されました。

入院患者さん・家族に対しては、脳卒中クリニカルパスを導入すると共に、脳卒中リハビリテーション認定看護師が脳卒中教室を開催し再発予防に努めています。また、PSCコア施設に義務化された脳卒中相談窓口を設置し、脳卒中患者に対するシームレスな医療・福祉連携の充実を目指しています。

当センターの特記すべきことは、脳卒中の機能予後を大きく左右する急性期リハビリテーションにおいて、従来のリハビリに加えてロボットスーツHAL®を使用した最先端のリハビリを行なっていることです。センター所属の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がHAL®チームを結成、毎朝の脳卒中センター症例カンファレンスに参加して重症度を把握した上でリハビリ専門医の指導のもと行っています。回復期においても、隣接する白十字リハビリテーション病院に転院しHAL®を使用したリハビリを継続することが出来ます。また、SCU・SUでは、院内の栄養対策チームや褥創対策チームと連携し患者さんの早期回復に努めています。

最後に、当センターは福岡大学病院脳神経外科教室、救急救命センターと密に連携し全身合併症を有する患者さんに対しても最善の治療を提供しています。西区・糸島地区における脳卒中診療において、地域医療連携、病棟連携、先進的チーム医療に取り組み、白十字リハビリテーション病院などとの垂直統合で脳卒中患者さんの早期在宅復帰を推進します。

【脳卒中スクランブル】

急性期脳卒中体制

予後を大きく改善しうる主幹動脈瘤による超急性期脳卒中に対して、tPAや血栓回収療法を行うため、特に下記例ではスクランブル体制を発動し、各部署で迅速に対応します。

脳卒中スクランブル

□ 最終発症時刻 < 4.5h以内 の下記に該当する場合

A: tPAモード (tPA使用の可能性あります)

□ 片麻痺
□ 元のADL自立 **すべてを満たす**

B: 血栓回収モード (血栓回収を行う可能性もあります)

Aに加えて、**いずれかを満たす**



共同偏倚
両方の眼球が一緒に内れている



半側空間無視
50cm手前で指4本をさす
片側が見えないので
指の数は正確に回答できない



失語
めがね/とけい
と言えない

※ 最終発症時刻24h以内は血栓回収療法の適応の可能性があるので、迷ったら下記担当に相談下さい

SCU PHS 18090 (090-7166-8912)

- ・ 平日日勤 : 脳・血管内科
- ・ 夜間/休日 : SCU当直

文責: 脳血管内治療科 実

【脳卒中ホットライン】

白十字病院

2023年1月1日よりホットラインの番号が変わります

脳卒中

脳卒中に関する患者さんのご紹介・ご相談迅速に対応します

白十字病院 脳卒中センター ホットライン

なないろ はくじゅうじ

090-7166-8912

ホットライン受付時間 平日 9:00-17:00
SCU開設に合わせ24時間対応(2023年4月開設予定)
お気軽にご相談ください。

医師・メディカルスタッフ専用の脳卒中センター担当医への直通電話です。
社会医療法人財団 白十字会 白十字病院 〒819-8511 福岡県福岡市西区石丸4-3-1
TEL:092-891-2511(TEL)/FAX:092-881-4491 ホームページ <https://www.fukuoka.hakujyukai.or.jp/>

脳卒中片麻痺
リハビリテーションのための
単関節HAL使用マニュアル

単関節 HAL

チームに配属されました！
どうする!!

福岡大学脳神経外科の専任教授
白十字病院脳卒中センター長
井上 亨

白十字病院

【単関節 HAL チームに配属されました！ どうする！！】

2024年12月1日発行



単関節膝 HAL を使用した座位訓練

白十字病院と白十字リハビリテーション病院のスタッフで制作しました！

「脳卒中センタースケジュール」

・ 脳卒中センター症例カンファレンス (月 - 金)	毎朝
・ 脳神経外科回診 (月) 脳神経内科回診 (木) 脳卒中リハビリ回診 (月)	1 回/週
・ 脳血管内治療症例検討会 (水)	〃
・ 脳卒中症例合同カンファレンス (福岡大学脳神経外科教授) (木)	〃
・ 脳卒中 HAL®リハビリテーションカンファレンス (金)	〃
・ 脳卒中 Journal Club (金)	〃
・ 脳卒中センターミーティング (多職種合同) (水)	1 回/月

● 糖尿病センター

糖尿病センター長 岩瀬 正典

I：構成員

医師 6 人（1 人非常勤） 看護師 6 人 管理栄養士 10 人 理学療法士 5 人 薬剤師 4 人
臨床検査技師 4 人 視能訓練士 1 人
福岡糖尿病療養指導士 24 人 日本糖尿病療法指導士 3 人

II：診療実績

外来（糖尿病センター）

患者数 1,185 人（1 型糖尿病 74 人、インスリン治療 267 人、糖尿病地域連携 32 人）
看護師 療養支援 1,216 人 新患指導 122 人 外来教育パス 107 人
自己注射指導 72 人 血糖自己測定指導 18 人
持続血糖モニタリング デクスコム 25 人、リブレ 22 人、リブレプロ 1 人
フットケア 142 人、フットチェック 63 人
管理栄養士 個人栄養指導 1,018 人、療養支援 620 人
糖尿病内科からの消化管内視鏡検査（上部、下部）依頼件数 272 件

入院（主に 6 北病棟）

患者数 300 人（糖尿病教室参加 41 人） 他科コンサルト 4,119 人
糖尿病ケトアシドーシス 8 人、高血糖高浸透圧症候群 3 人、低血糖昏睡 9 人
管理栄養士 個人栄養指導 141 人

III：研究業績

各部門をご参照ください。

IV：現状と展望

- 1) 2024 年度は外来や入院患者数、療養支援件数は前年度並みであった。高齢糖尿病患者の増加に伴い糖尿病教室に参加可能な患者が減少傾向になる一方、高齢者救急で高血糖緊急症や低血糖昏睡が増加傾向になっている。今後 病診連携を強化することにより地域の高齢糖尿病対策を進めていきたい。
- 2) 2024 年度より法人内認定制度に「糖尿病療養指導者」が新設された。9 回の研修会を含む実習を行った。従来の福岡（L）と日本（J）の糖尿病療養指導士（CDE）に加えて法人内の糖尿病診療の底上げに大きく貢献することが期待される。
- 3) 新規の肥満症治療の注射薬が広まりつつあるが、同薬使用の施設基準が厳しく、福岡西部地区では当院のみが処方可能な状況である。今後、糖尿病センターにて肥満症患者の診療を行う必要があり、肥満症患者のための栄養指導、運動指導、薬剤指導などの体制整備を行う。

● 消化管内科・内視鏡センター

内視鏡センター長 井浦 登志実

当科は日本消化器内視鏡学会の指導医 2 名、専門医 1 名、学会員 1 名の医師が消化管疾患の診療に従事しております。地域の先生方に支えていただき、多数の患者さんをご紹介いただいております。2024 年度の診療実績としては、紹介件数は 853 件、上部消化管内視鏡検査は 2,068 例、下部消化管内視鏡検査は 1,329 例、早期胃癌の内視鏡的粘膜剥離術（ESD）は 21 例、大腸腫瘍の内視鏡的切除術（EMR、ポリペクトミー）は 510 例、内視鏡的止血術は 154 例、異物除去術は 22 例、胃瘻造設と交換は 42 例でした。新型コロナウイルス感染症は「5 類」に移行しましたが、当科では引き続き日本消化器内視鏡学会の提言に基づいた十分な感染防止対策を施しており、患者さんと、ご紹介いただいた先生方にご満足いただける医療を提供すべく努力しております。

● 乳腺センター

乳腺センター長 松尾 文恵

白十字病院移転後 4 年が経ち、乳腺センターでは 4 名の非常勤の先生方が加わり、益々精力的に手術や外来診療を行っております。2025 年 5 月からはラジオ波焼灼術も開始しました。また近隣の医療機関からのご紹介件数も増え、手術件数も増加傾向にあります。

医師・スタッフ共に女性のみで、各分野においてスペシャリストが集まり、患者さん一人ひとりに寄り添い治療を乗り越えるためのお手伝いを精一杯させていただきます。

● 透析センター

透析センター長 平野 直史

透析センターでは、腎臓病や透析治療に精通した医師や看護師、臨床工学技士、管理栄養士、薬剤師、理学療法士など専門スタッフを配置し、患者さんの透析治療を適切に管理し、安全性と効果を確保するために協働しています。

2024 年度血液透析導入は 45 名、シャント造設術 62 名でした。腹膜透析は 2024 年度 4 名導入し、7 名の患者さんが加療を継続されています。

現在、透析室のコンソールは 27 台です。当院維持透析患者さんに加え、他施設で維持透析中に合併症治療のため当院へ入院となる患者さんも、できる限り受け入れています（2024 年度 133 名）。シャントトラブルに対してのシャント PTA は、入院、外来含め 75 名となっています。重症患者さんに対しては ICU で HD または CHDF のいずれも実施可能で、その他敗血症に対するエンドトキシン吸着療法や潰瘍性大腸炎に対する顆粒球吸着療法、血漿交換などの急性血液浄化なども行っています。

運動・食事・精神的などの包括的なサポートプログラムとして透析中に運動を行う腎臓リハビリテーションを実施し、透析患者さんの生命予後や QOL（生活の質）などを改善する取り組みも行っています。多職種協働で今後もさらなる飛躍を目指します。

他施設の維持透析患者の合併症 133 名（2023 年度数 97 名）

泌尿器科	8 名（ 2）	肝臓内科	4 名（ 0）
脳神経外科	2 名（ 3）	腎臓内科	25 名（24）
整形外科	20 名（13）	消化管内科	15 名（ 3）
外科	12 名（ 3）	脳・血管内科	7 名（ 6）
乳腺外科	0 名（ 0）	心臓血管内科	25 名（18）
心臓血管外科	2 名（ 9）	糖尿病内科	0 名（ 3）
眼科	8 名（ 3）	呼吸器内科	1 名（ 3）
歯科口腔外科	0 名（ 3）	救急科	1 名（ 0）
形成外科	2 名（ 3）	内科総合	1 名（ 0）
その他	0 名（ 1）		

● 肝胆膵センター

肝胆膵外科部長・肝胆膵センター長 谷 博樹

胆石症に関連して発症する急性胆道炎（胆管炎・胆嚢炎）は、急性期に適切な診断と治療が必要であり、重症例は死亡する危険を伴います。白十字病院の胆石症センターは、地域の急性期医療の一端を担うものと自負し、昼夜を問わず胆石症および急性胆道炎と闘っています。

胆石は、肝臓でつくられる胆汁が固まったもので、胆汁が存在する胆管か胆嚢に発生します。3 cm を超えるものから、砂や泥の様に小さなものまで、大きさは様々です。胆石の治療は、結石が存在する場所が、胆管か胆嚢かで異なります。両方に結石が存在する場合は、一般的に胆管の治療を優先します。

胆管結石治療は、内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）を利用した内視鏡的治療を第一に行います。患者さんの負担が少ない低侵襲治療であり、90 歳以上の超高齢者も含めて安全に配慮しながら積極的に取り組んでいます。胆管の出口である十二指腸乳頭括約筋に切開（EST）やバルーン拡張（EPBD）を加え、結石を破碎除去（EML, EPLBD）します。必要に応じて胆管ステント（EBS）を留置します。

胆嚢結石治療は、手術による胆嚢摘出術であり、ほぼ全例に腹腔鏡手術を行っています。手術後の看護も含めて低侵襲治療を実践しています。クリニカルパスを使用することで標準的医療を安定して提供する一方、年齢や全身状態に応じた個別の最適な医療を提供しています。またチーム医療を実践し、より安全な医療環境の提供が出来るように努力しています。

当院の急性胆道炎診療は、すべて外科で行っており、診断・治療を単一の科で途切れず（seamless）、連続的（sequential）に行える利点を最大限に活用しています。また、診断・治療の精度向上、安全管理、コスト削減、入院期間短縮、合併症低減などに貢献して、若手外科医師の内視鏡および IVR 技術トレーニングにも役立っています。

肝臓や胆道癌、膵癌など悪性腫瘍に対しても精細に診断し、綿密な治療計画を立てます。この肝・胆・膵の領域は治療が困難であることが多く、手術は高難度で長時間におよび、合併症が深刻になることも少なくありません。合併症の少ない安全第一の手術を行いながら、高い根治性を目指しています。肝転移など遠隔臓器に転移がある進行症例は、手術適応がないと判断されることも少なくありません。そのときは、化学療法や放射線療法など適切な治療を提案しています。

胆石症センターは、新病院移転に伴い肝胆膵センターに名称変更しました。胆石症にとどまらず、肝胆膵領域の疾患により強く取り組む気持ちで決意しました。今後も地域の急性期医療に大きく貢献

できるように努力し、超高齢者にも安全で優しい治療を行います。日進月歩の医学に正面から取り組み、高水準の治療を展開します。

手術

臓器	手術術式	症例数	腹腔鏡数
肝臓	肝切除術（鏡視下）	6	(2)
	肝嚢胞天蓋切除術（鏡視下）	0	
胆嚢・胆道	胆嚢摘出術（鏡視下）	145	(144)
	胆管切除術	0	
	総胆管切開切石術（鏡視下）	1	
膵臓	膵頭十二指腸切除術	8	
	膵尾側切除術（鏡視下）	4	(3)
	バイパス術	1	(1)

特殊検査・治療

検査・治療	症例数
内視鏡的逆行性膵管胆道造影（ERCP）	267
・内視鏡的乳頭バルーン拡張術（EPBD）	0
・内視鏡的乳頭括約筋切開術（EST）	109
・内視鏡的逆行性胆管ドレナージ：チューブステント（EBS）	159
・内視鏡的逆行性胆管ドレナージ：金属ステント（SEMS）	9
・内視鏡的経鼻胆管ドレナージ（ENBD）	0
・内視鏡的機械碎石（EML）	16
・内視鏡的乳頭大口径バルーン拡張術（EPLBD）	0
経皮経肝胆嚢ドレナージ（PTGBD）	2
経皮経肝胆管ドレナージ（PTBD）	5
・胆管金属ステント（SEMS）	1

（重複あり）

● 心臓・弁膜症センター

心臓・弁膜症センター長 江石 清行

白十字病院の心臓・弁膜症センターは2021年の新病院開院に合わせて開設され、2024度で4年目を迎えました。心臓・弁膜症センターは心臓センターであり、その中心に弁膜症センターがあるという意味で、循環器疾患全般を対象としています。弁膜症は加齢とともに増え、高齢化の進む日本では入院が困難な心不全の患者さんが急増し、2018年には健康寿命を延ばし、医療・介護費の負担軽減を図ることを目的として「脳卒中・循環器病対策基本法」が成立し、循環器病センター、脳卒中センターを中心とした地域包括ケアシステムの構築が進められています。

センター長の私は長く心臓弁膜症の手術治療に従事し、人工物を用いない「弁形成術」と、身体に優しい「低侵襲手術 MICS」をライフワークとしてきました。心臓・弁膜症センターには、その他、不整脈治療や冠動脈のステント治療の名医、ステントグラフトの専門医、心臓専門の診療看護師など多くの専門プロフェッショナルが集まっています。2023年度からは心臓弁イメージングの第一人者も加わりました。外科スタッフ6名と内科スタッフ4名が中心となりました。手術室は大変広く、最先端の透視装置を備えたハイブリッド室や、数センチの心臓弁を140センチモニターに40倍以上に4K3D画像で構築し、あたかも巨大な心臓の中に入り込んで精緻な手術を行っているようなオー

ブアイシステムなど最先端の装置が準備されています。このシステムで行う MICS 心臓弁形成術はロボット手術を上回る低侵襲で、極めて精度の高い手術が可能となっています。



左) Sony-Olympus の 4 K 3 D ビデオ顕微鏡 ORBEYE システム 右) 手術風景

白十字病院ではさまざまな管理やリハビリを、専門的に研究・訓練している専門スタッフが大変充実しています。リハビリセンターの専門スタッフのおかげで、以前は痛みを我慢しながら体を緊張させていた患者さんが、術後すぐに緊張をほぐし、全身をリラックスすることができます。そうすると、みるみる患者さんは楽になり、笑顔が見られ、翌日には立ち上がり、食事、トイレ歩行などをスムーズに開始できます。

その他にも、患者さんたちの安全快適な回復のための温かなメンバーがチームワークよく働いています。これらの専門スタッフによる心臓・弁膜症センターのおかげで、心臓病の先端治療が安心して快適に受けられるようになっています。

県内及び県外から多くの患者さんが低侵襲で高質の僧帽弁形成術、大動脈弁形成術あるいは三尖弁形成術などの目的で来院してくださっています。狭心症、心筋梗塞の患者さんも多く受け入れられるようになりました。今後も地域の循環器診療に貢献できるよう、「弁膜症スクリーニング外来」も設置し Fax あるいはお電話一本で、いつでも対応できる体制にいたしました。また、センターの活動をインスタグラムでも紹介しておりますのでお目通しいただければ幸いです。

弁膜症スクリーニング外来

紹介状をお持ちの方	白十字病院 コールセンター（平日/8:30～17:00） フリーダイヤル：0120-19-8912
医療機関からのご予約	白十字病院 地域医療連携課（平日/8:30～17:00） TEL：092-834-2507（直通） FAX：092-891-2558



HAKUJUJI_HEART_VALVE_CENTER

Instagram
はじめました！

4. 診療統計

1. 年齢階級別退院患者数

2024年度の年齢階級別退院患者数は80代の方が多くを占めました。2024年度の平均年齢は73.3歳（前年より+0.1歳）、後期高齢者（75歳以上）は全体の57.5%（前年より+1.2%）を占め、年々高齢化が進んでいる傾向が表されます。90歳以上の方の入院も年々増えております。産科や小児科が標榜されていませんが、若年の症例も一定数入院しております。

2. サマリー

2024年度のサマリー作成率は98.95%で、2023年度より0.05%下回る結果となりましたが、診療録管理体制加算1の条件である、退院翌日から起算して14日以内の退院サマリー作成率90%以上は通年を通して満たしております。今後も定期的なカルテ監査を実施し、医師・秘書課の方々のご協力を頂きながら、引き続き高い作成率が維持出来るよう取り組んでいきます。

3. 疾病分類

2024年度の入院患者のICD-10大分類の集計は、前年度より142件増加しました。その中で最も増加した分類は、肺炎などが含まれる「第X章 呼吸器系の疾患」で115件増加しました。大きな要因として、誤嚥性肺炎の患者数の増加（昨年度より+36件）などがあります。

疾病分類に用いるICD-10コーディングはDPC制度により詳細な分類が求められます。当課では、留意すべきICD-10コード（部位不明・詳細不明コード）を減らすよう、毎月カンファレンスを行い適切なコーディングを行っています。この部位不明・詳細不明コードの使用率が全体の10%以上となりますとDPC対象病院の基準に違反することになってしまいますので、今後も慎重かつ正確なコーディングを行ってまいります。

当課で作成する統計データは上記の疾病統計を含んだDPCデータを用いて作成しております。今後もより正確な統計・分析ができるよう取り組みます。

4. カルテ開示

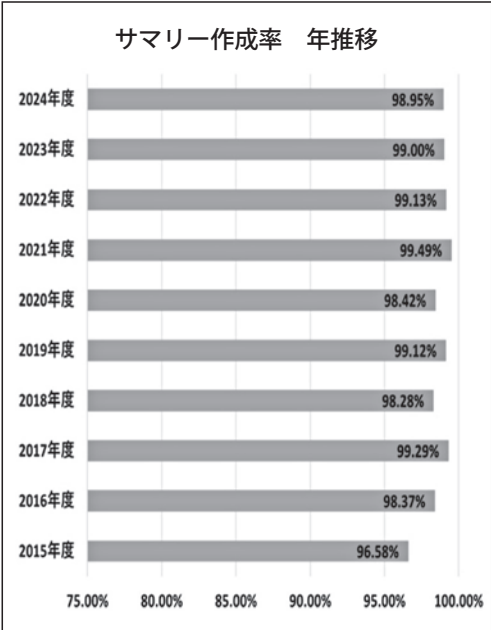
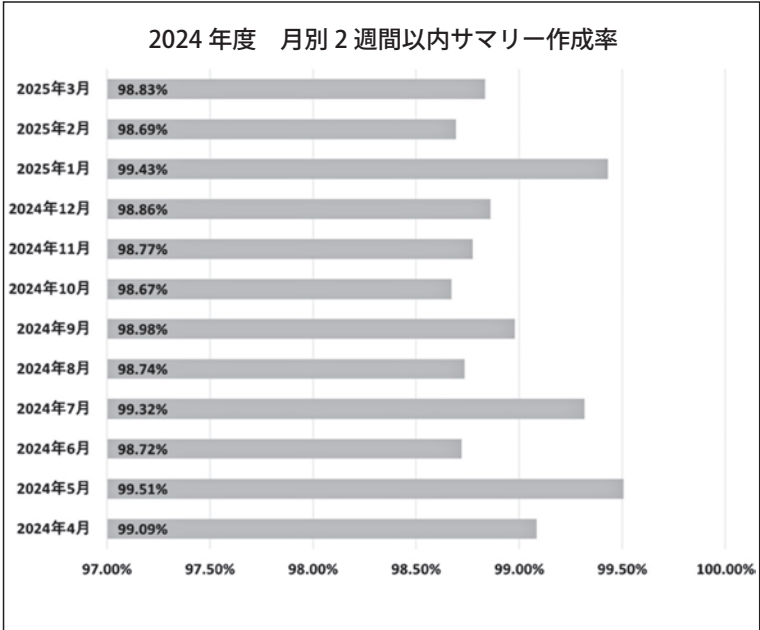
2024年度は52件カルテ開示を行い、前年度より16件増加しました。カルテ開示とは、患者さんご本人やご家族、任意代理人などの権利のある方に診療録等の閲覧、謄写交付を行うことです。診療録は医療機関において大切な個人情報であるため、カルテ開示のための手続きは厳格に定めており、申請から開示までにはお時間をいただいております。今後も診療録監査部会を中心に、より良い診療録の作成に力を入れてまいります。引き続き職員一同、患者の皆様にご納得いただける診療情報提供を心掛けていきます。

今後も、診療情報管理課は正確な情報管理に努めてまいります。

【2024年度 2週間以内サマリー作成率】

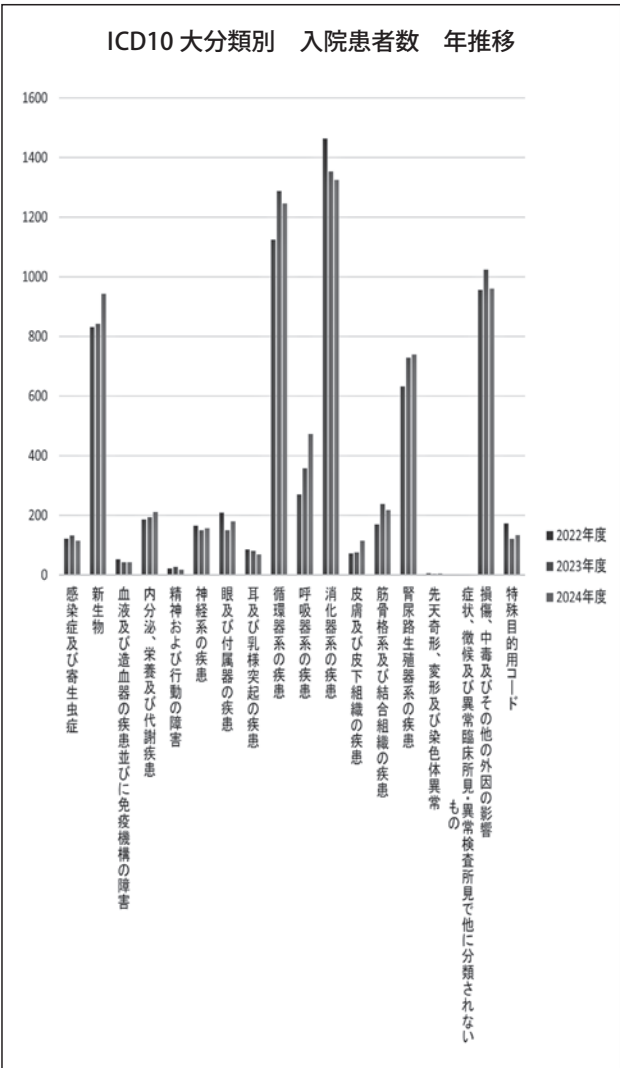
※退院後2週間以内に確定されたもの

	糖尿病	脳内	消化管	肝胆膵	腎臓	心内	呼吸器	総診	外科	乳外	心外	整形	形成	脳外	泌尿器	眼科	救急	歯科	全体
退院数	274	473	596	348	406	649	211	11	928	124	148	758	222	569	788	160	51	164	6,880
作成数	260	472	584	347	406	639	211	11	925	124	146	758	222	569	762	160	50	163	6,809
作成率	94.9%	99.8%	98.0%	99.7%	100.0%	98.5%	100.0%	100.0%	99.7%	100.0%	98.6%	100.0%	100.0%	100.0%	96.7%	100.0%	98.0%	99.4%	99.0%



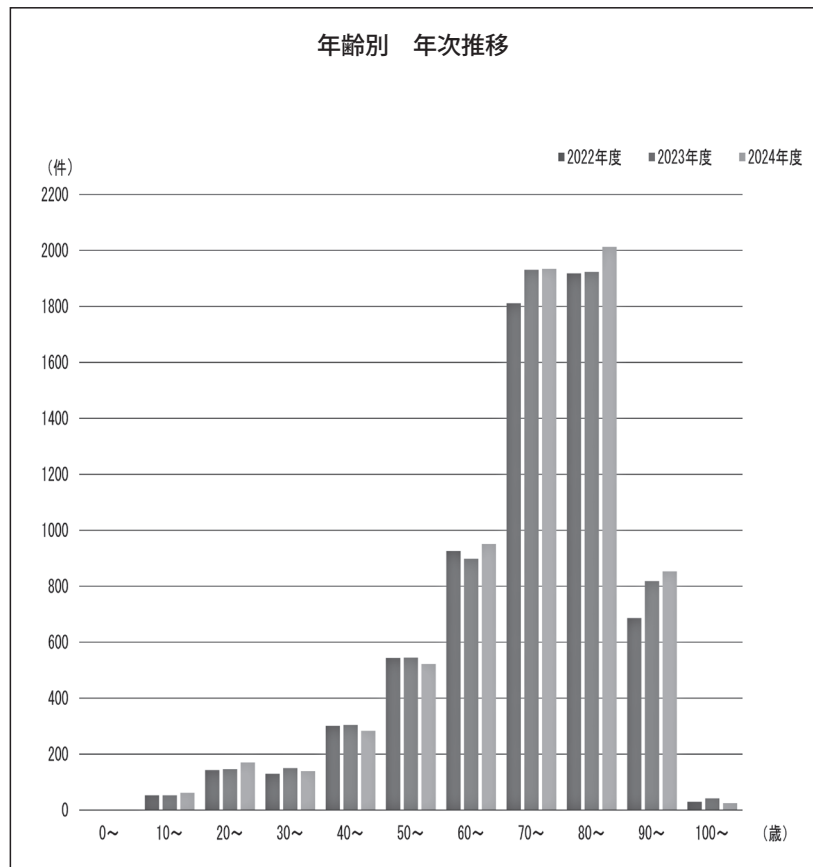
【2024 年度 ICD10 大分類別 入院患者数 年推移】

大 分 類		2022 年度	2023 年度	2024 年度
第Ⅰ章	感染症及び寄生虫症	122	132	115
第Ⅱ章	新生物	831	842	943
第Ⅲ章	血液及び造血系の疾患並びに 免疫機構の障害	53	43	43
第Ⅳ章	内分泌、栄養及び代謝疾患	186	194	211
第Ⅴ章	精神および行動の障害	22	27	18
第Ⅵ章	神経系の疾患	165	150	157
第Ⅶ章	眼及び付属器の疾患	209	150	180
第Ⅷ章	耳及び乳様突起の疾患	86	81	69
第Ⅸ章	循環器系の疾患	1125	1,288	1,246
第Ⅹ章	呼吸器系の疾患	270	358	473
第Ⅺ章	消化器系の疾患	1464	1,353	1,325
第Ⅻ章	皮膚及び皮下組織の疾患	72	76	115
第Ⅼ章	筋骨格系及び結合組織の疾患	170	238	218
第Ⅽ章	腎尿路生殖器系の疾患	632	729	740
第Ⅾ章	先天奇形、変形及び染色体異常	6	3	5
第ⅲ章	症状、徴候及び異常臨床所見・ 異常検査所見で他に分類され ないもの	0	1	0
第ⅳ章	損傷、中毒及びその他の外因の 影響	956	1,024	960
第ⅴ章	特殊目的用コード	173	121	134
総 計		6,542	6,810	6,952



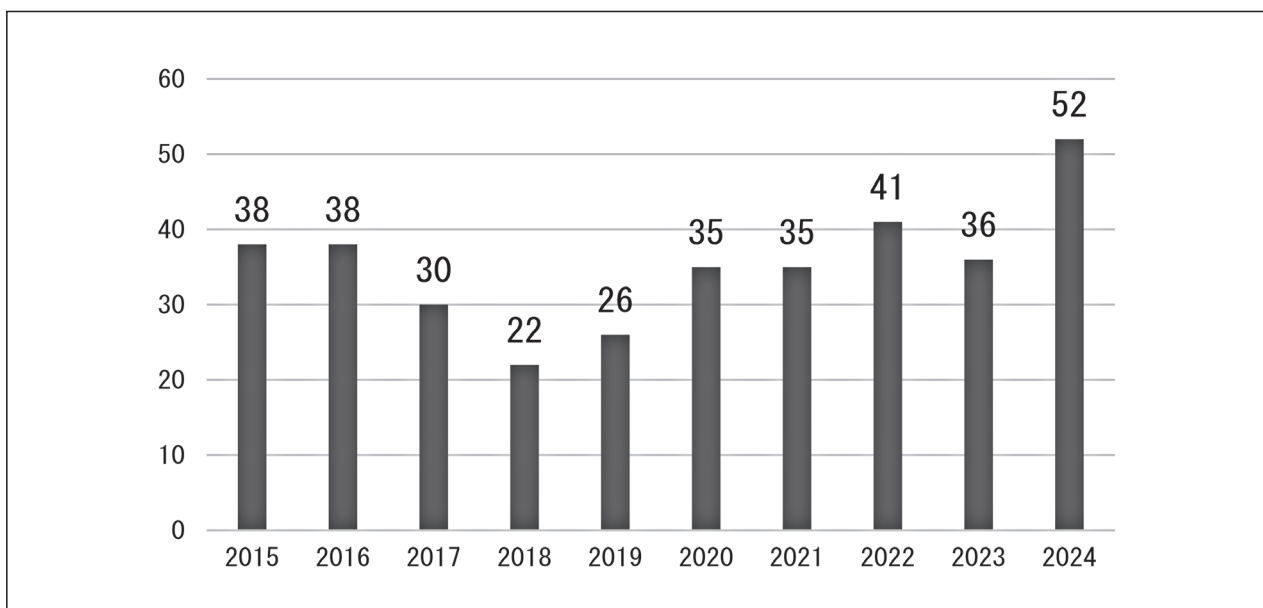
【年齢階級別退院患者数】

年齢	2022年度	2023年度	2024年度
0 ～	0	0	0
10 ～	53	53	62
20 ～	143	146	170
30 ～	130	150	139
40 ～	301	304	283
50 ～	544	545	522
60 ～	926	898	951
70 ～	1811	1931	1934
80 ～	1918	1923	2013
90 ～	686	818	853
100 ～	30	42	25
合計	6542	6810	6952



【診療情報提供（カルテ開示）件数】

年度別開示件数（過去 10 年）



● 救急科

救急センター長 西田 武司

I：構成員

病院長補佐：林 修司

救急センター長：西田 武司

II：臨床活動

(1) 救急車受け入れ台数

2022 年度：3,995 台

2023 年度：4,308 台

2024 年度：4,430 台

(2) 救急外来における臨床活動：

センター化により救急車到着から迅速な処置が必要となるような脳卒中や虚血性心疾患をはじめ、各種緊急手術症例の実施までの時間短縮に加え、継続して徹底した ICU 管理が可能となりました。救急室では福岡大学病院救命救急センター医師と連携を図り、軽症から重症患者の容体把握およびバイタルサインの安定化を行います。適切な診療料と迅速かつ正確に診療連携を行うため、救急室での勉強会および各科ともに積極的に意見交換を行っております。また 2024 年度より院内救命士の採用によるタスクシフトを行い、急患の治療、入院を迅速化することで、救急応需の増加ならびに、残業時間短縮を進めています。その他、地域の救急医療を行う上で、適正搬送を目指しており、地域の消防との合同勉強会ならびに、意見交換会も合わせて行っております。

(3) 集中治療室（ICU）における臨床活動：

心肺停止蘇生後や重症敗血症、ならびに人工呼吸器管理を必要とする重症患者の対応を行っております。昨年度は心肺停止蘇生後の低体温療法の勉強会ならびにプロトコル作成 / パス作成を行っております。そのほか、各種診療科からの集中治療管理について連携を行い共同で治療にあたっています。早期離床カンファレンス、脳神経外科 ICU 症例ラウンド、ICU ラウンドを多職種連携で行っており、脳卒中カンファレンスにも参加しています。

(4) 当直業務：内科当直、外科当直、ICU 当直対応

III：業績

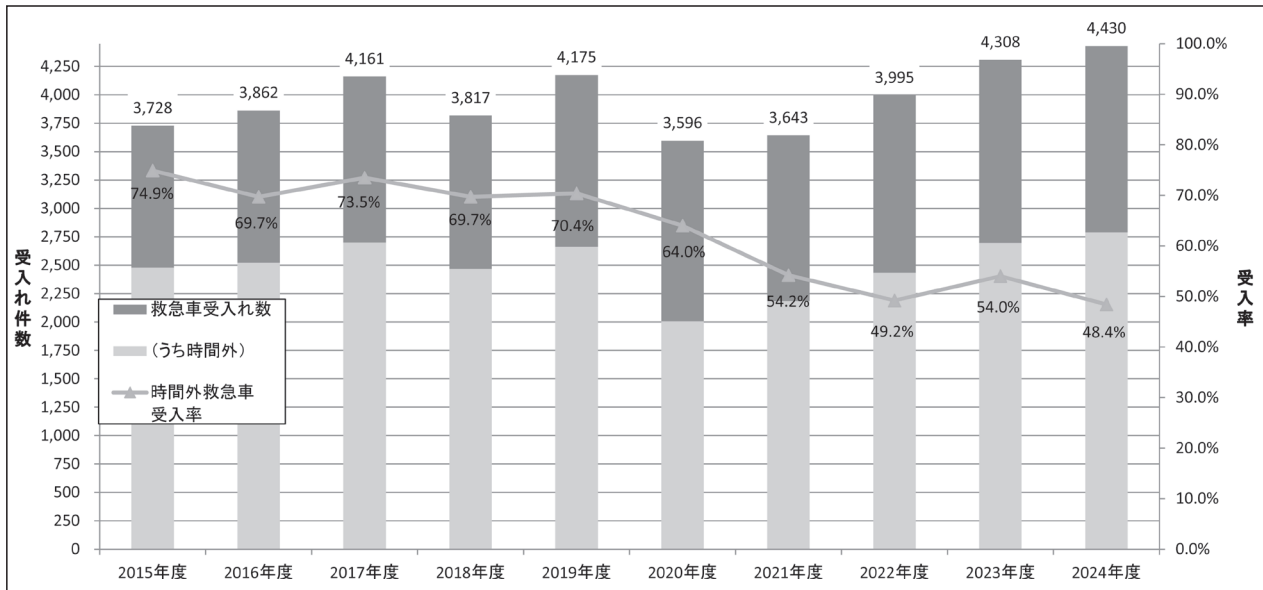
1) 福岡地域救急業務メディカルコントロール協議会 参画

2) 福岡県 DMAT 認定チーム 1 隊（医師 1 名、看護師 2 名、病院救命士 1 名）

3) 福岡県病院救急救命士連絡協議会第 6 回集合研修 開催

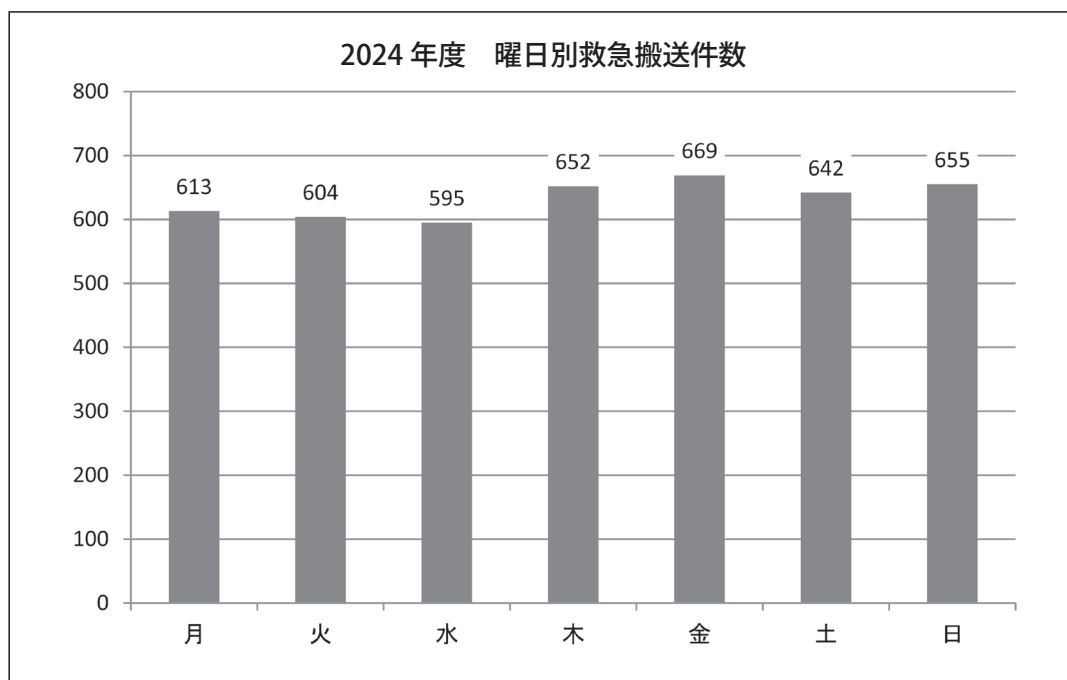
【救急車受入れ台数年次推移（2015 年度～ 2024 年度）】

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
救急車受入れ数	3,728	3,862	4,161	3,817	4,175	3,596	3,643	3,995	4,308	4,430
（うち時間外）	2,479	2,521	2,698	2,468	2,662	2,005	2,183	2,433	2,695	2,788
時間外救急車受入率	74.9%	69.7%	73.5%	69.7%	70.4%	64.0%	54.2%	49.2%	54.0%	48.4%



【2024 年度 曜日別救急搬送件数】

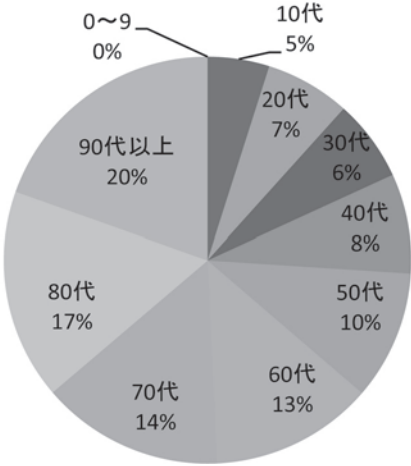
曜日	搬送件数	入院件数	入院率
月	613	337	55.0%
火	604	344	57.0%
水	595	332	55.8%
木	652	371	56.9%
金	669	348	52.0%
土	642	327	50.9%
日	655	319	48.7%
計	4,430	2,378	53.7%



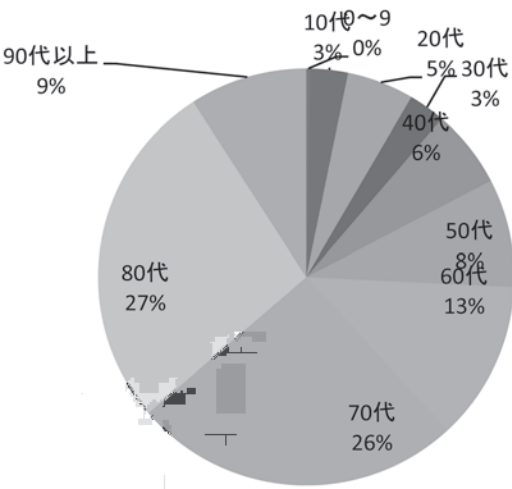
【2024 年度 性別・年齢別の救急搬送件数】

年齢	全体			男性			女性		
	搬送数	入院数	入院率	搬送数	入院数	入院率	搬送数	入院数	入院率
0～9	11	0	0.0%	7	0	0.0%	4	0	0.0%
10代	98	18	18.4%	62	12	19.4%	36	6	16.7%
20代	178	45	25.3%	111	30	27.0%	67	15	22.4%
30代	115	28	24.3%	61	17	27.9%	54	11	20.4%
40代	237	70	29.5%	130	41	31.5%	107	29	27.1%
50代	332	128	38.6%	179	76	42.5%	153	52	34.0%
60代	451	219	48.6%	265	134	50.6%	186	85	45.7%
70代	1014	550	54.2%	545	305	56.0%	469	245	52.2%
80代	1316	823	62.5%	580	354	61.0%	736	469	63.7%
90代以上	678	497	73.3%	195	139	71.3%	483	358	74.1%
全体	4430	2378	53.7%	2135	1108	51.9%	2295	1270	55.3%

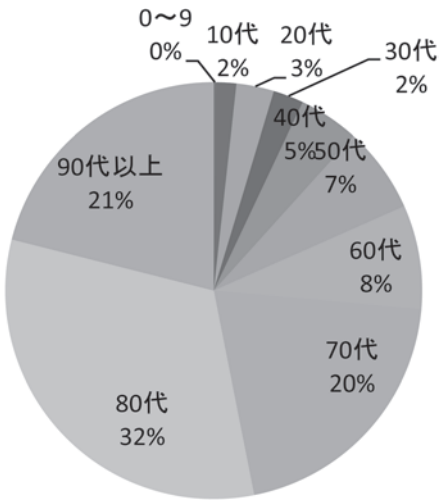
救急搬送件数年齢別割合（全体）



救急搬送件数年齢別割合（男性）



救急搬送件数年齢別割合（女性）

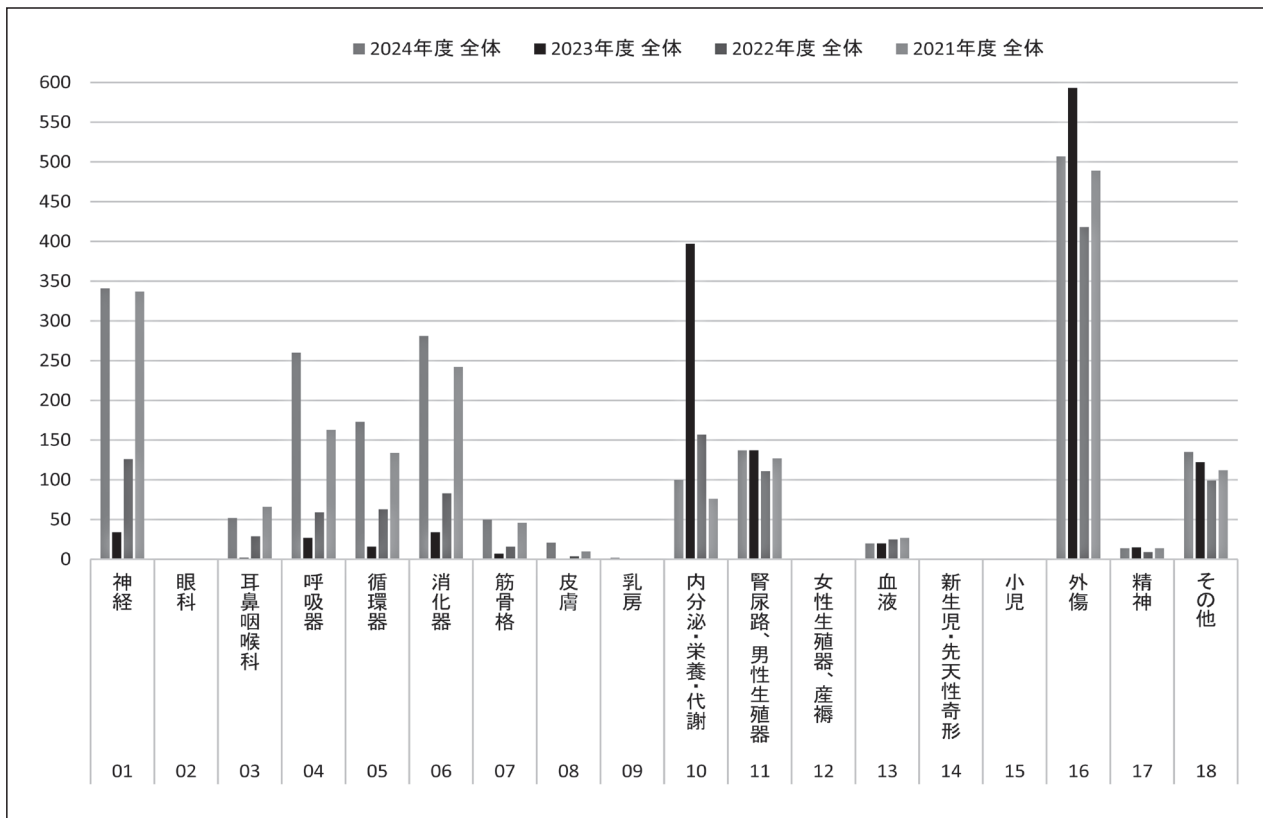


【2024 年度救急隊別搬送数と入院率】

			2024 年度									2023 年度		
			時間外			時間内			計			計		
			搬送数	入院数	入院率	搬送数	入院数	入院率	搬送数	入院数	入院率	搬送数	入院数	入院率
			2,788	1,358	48.7%	1,642	1,020	62.1%	4,430	2,378	53.7%	4,308	2,390	55.5%
福岡市消防局	西	西 本 署	371	188	48.7%	194	120	55.3%	565	308	51.2%	676	346	51.2%
		姪 浜 出 張 所	386	159	50.5%	221	113	56.6%	607	272	52.7%	577	304	52.7%
		壱 岐 出 張 所	454	213	52.3%	276	160	61.4%	730	373	55.5%	717	398	55.5%
		元 岡 出 張 所	220	98	47.6%	88	48	51.9%	308	146	48.9%	356	174	48.9%
		計	1,431	658	50.1%	779	441	57.1%	2,210	1,099	52.5%	2,326	1,222	52.5%
	早良	早 良 本 署	152	66	51.5%	149	78	54.6%	301	144	52.8%	301	159	52.8%
		田 隈 出 張 所	224	95	50.8%	115	77	67.2%	339	172	57.1%	317	181	57.1%
		東 入 部 出 張 所	135	56	59.3%	64	43	61.0%	199	99	59.9%	172	103	59.9%
		計	511	217	53.0%	328	198	60.8%	839	415	56.1%	790	443	56.1%
	城南	城 南 本 署	60	32	46.9%	50	34	71.0%	110	66	56.3%	80	45	56.3%
		飯 倉 出 張 所	136	74	45.0%	85	54	60.3%	221	128	50.8%	193	98	50.8%
		計	196	106	45.6%	135	88	63.5%	331	194	52.4%	273	143	52.4%
	その他		117	68	47.7%	113	81	68.7%	230	149	57.9%	171	99	57.9%
	合計		2,255	1,049	50.3%	1,355	808	59.2%	3,610	1,857	53.6%	3,560	1,907	53.6%
糸島市消防本部	糸島	糸島消防本部	193	112	60.5%	103	84	75.5%	296	196	66.5%	272	181	66.5%
		前 原 出 張 所	151	86	60.5%	95	79	80.7%	246	165	68.7%	217	149	68.7%
		志 摩 出 張 所	107	64	59.8%	41	24	65.1%	148	88	61.9%	155	96	61.9%
		二 丈 出 張 所	80	46	50.7%	43	21	58.8%	123	67	53.4%	103	55	53.4%
		計	531	308	58.8%	282	208	72.9%	813	516	64.4%	747	481	64.4%
	その他		2	1	0.0%	5	4	0.0%	7	5	200.0%	1	2	200.0%

【2024 年度 救急搬送入院 疾患別件数（DPC2 桁分類）】

	2024 年度			2023 年度			2022 年度			2021 年度		
	全体	福岡	糸島	全体	福岡	糸島	全体	福岡	糸島	全体	福岡	糸島
01 神経	341	241	100	34	24	10	126	82	44	337	240	97
02 眼科	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
03 耳鼻咽喉科	52	44	8	2	2	0	29	24	5	66	60	6
04 呼吸器	260	221	39	27	22	5	59	38	21	163	134	29
05 循環器	173	125	48	16	13	3	63	47	16	134	112	22
06 消化器	281	227	54	34	30	4	83	63	20	242	191	51
07 筋骨格	50	44	6	7	6	1	16	13	3	46	39	7
08 皮膚	21	19	2	0	0	0	4	3	1	10	8	2
09 乳房	2	2	0	1	0	1	1	1	0	1	1	0
10 内分泌・栄養・代謝	100	78	22	397	286	111	157	111	46	76	60	16
11 腎尿路・男性生殖器	137	114	23	137	115	22	111	92	19	127	102	25
12 女性生殖器・産褥	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	1
13 血液	20	13	7	20	15	5	25	20	5	27	21	6
14 新生児・先天性奇形	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15 小児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16 外傷	507	401	106	593	472	121	418	324	94	489	384	105
17 精神	14	13	1	15	14	1	9	8	1	14	13	1
18 その他	135	102	33	122	98	24	99	81	18	112	90	22



Ⅳ：現状と展望

地域医療：消防救急隊との連携強化のため対応地域消防署訪問を行い、以下の事項について実行する

Ⅰ）当院救急外来担当医療従事者の救急車同乗実習、Ⅱ）消防との種お礼検討会・勉強会の開催、Ⅲ）消防救急隊の訓練の見学および参加。

救急センター：救急対応訓練、災害教育・訓練への参加を通じた地域医療を意識した救急対応・災害時対応体制への参画。それらを通して救急患者・救急車対応・災害時対応力の強化と救急患者対応力の強化による救急患者受け入れ対応力の向上。

現在、救急医療は働き方改革に伴う研修医の時間外就業の制限および、他科診療応援医師の派遣対応力の低下化から、三次医療機関に救急医師の集約化の傾向にある。そのため、二次医療機関における救急医師の確保は困難になることが予想される。

そこで当院救急センターは、二次医療救急機関・地域支援病院として院内の該当診療科との連携だけでなく病院間連携を重要視していく必要がある。一次救急症例を地域医療機関同士で分散し合い、二次救急医療担当施設として地域病院からの紹介受入れの体制構築の再編成を行うことで、機能的・合理的な相互の医療提供体制を計画する。

● 総合診療科

最勝寺 佑介

I：構成員

医長：最勝寺 佑介

II：臨床活動

入院患者数	11 名（死亡退院 2 名）
入院コンサルト数	48 名
外来患者数	新患 253 名（救急搬送 55 名）
	再診 72 名

入院患者疾患内訳

誤嚥性肺炎	2
鉄欠乏性貧血	1
肝周囲炎	1
膀胱癌	1
急性腎不全	1
痙攣発作	1
伝染性単核球症	1
インフルエンザ A	1
良性発作性頭位めまい症	1
門脈圧亢進症	1
総計	11

入院コンサルト内訳（主訴）

発熱	14
炎症反応高値	8
意識障害	3
リンパ節腫脹	2
下腿浮腫	2
腹痛	2
呂律難	1
低ナトリウム血症	1
下痢	1
呼吸困難	1
肝障害	1
湿疹	1
浮腫	1
嘔吐	1
ヘモグロビン低下	1
皮疹	1
体動困難	1
腹水貯留	1
炎症反応上昇	1
倦怠感	1
下腿潰瘍	1

入院コンサルト内訳（最終診断：ICD 分類）

第 1 章	感染症及び寄生虫症	4
第 2 章	新生物、腫瘍	2
第 3 章	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	5
第 4 章	内分泌、栄養及び代謝疾患	3
第 5 章	精神及び行動の障害	3
第 6 章	神経系の疾患	0
第 7 章	眼及び付属器の疾患	0
第 8 章	耳及び乳様突起の疾患	0
第 9 章	循環器系の疾患	3
第 10 章	呼吸器系の疾患	1
第 11 章	消化器系の疾患	2
第 12 章	皮膚及び皮下組織の疾患	3
第 13 章	筋骨格系及び結合組織の疾患	14
第 14 章	腎尿路生殖器系の疾患	3
第 15 章	妊娠、分娩及び産褥	0
第 16 章	周産期に発生した病態	0
第 17 章	先天奇形、変形及び染色体異常	0
第 18 章	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見でほかに分類されないもの	0
第 19 章	損傷、中毒及びその他の外因の影響	2
第 20 章	傷病及び死亡の外因	0

腎機能低下	1
貧血	1
総計	48

第 21 章	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	3
第 22 章	特殊目的用コード	0
総計		48

外来患者内訳（主訴）

発熱	65
浮腫	18
炎症反応高値	17
嘔吐 / 下痢	12
腹痛	10
意識障害	9
酸素化低下	9
食思不振	9
四肢痛	8
めまい / ふらつき	7
意識消失	7
リンパ節腫脹	5
心窩部痛	5
血圧異常	5
倦怠感	5
頭頸部痛	4
しびれ	4
体動困難	4
貧血	4
胸痛	4
皮疹	4
皮下腫瘍	4
背部痛	3
体重減少	2
咽頭痛	2
関節痛	2
呂律難・構音障害	2
呼吸困難	2
腹水貯留	2
吃逆	1
腎腫瘍	1
視力障害	1
耳鳴	1
動悸	1
黄疸	1
嚥下困難	1
不眠	1
その他血液検査異常	11
総計	253

外来患者内訳（最終診断：ICD 分類）

第 1 章	感染症及び寄生虫症	30
第 2 章	新生物、腫瘍	16
第 3 章	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	6
第 4 章	内分泌、栄養及び代謝疾患	18
第 5 章	精神及び行動の障害	6
第 6 章	神経系の疾患	7
第 7 章	眼及び付属器の疾患	1
第 8 章	耳及び乳様突起の疾患	4
第 9 章	循環器系の疾患	17
第 10 章	呼吸器系の疾患	40
第 11 章	消化器系の疾患	15
第 12 章	皮膚及び皮下組織の疾患	6
第 13 章	筋骨格系及び結合組織の疾患	28
第 14 章	腎尿路生殖器系の疾患	31
第 15 章	妊娠、分娩及び産褥	1
第 16 章	周産期に発生した病態	0
第 17 章	先天奇形、変形及び染色体異常	0
第 18 章	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見でほかに分類されないもの	7
第 19 章	損傷、中毒及びその他の外因の影響	17
第 20 章	傷病及び死亡の外因	0
第 21 章	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0
第 22 章	特殊目的用コード	3
総計		253

Ⅲ：業績

- 1) 論文発表：Laryngeal Web Caused by Mucous Membrane Pemphigoid. Y Saishoji, N Ishii, N Iwanaga, Y Izumi. *Internal Med*, 5011-24. February 18, 2025.

Ⅳ：現状と展望

2024 年度より新設された総合診療科は外来診療を中心に運営されており、入院患者についてはコンサルト対応を行っています。この形態は特に急性期や専門的な医療を要する患者に迅速に対応できる体制であり、病院全体の医療の効率化に寄与していると考えます。

＜現状の強みと課題＞

現段階では、外来診療が主力となっており、地域の患者に対して身近な医療を提供しています。しかし、入院患者の対応がコンサルト対応に限られているため、急性期医療や慢性疾患のマネジメントがもう少し深掘できる余地があります。スタッフの増員ならびに診療体制の強化が求められています。

＜今後の展望＞

今後、スタッフの増員や診療体制の強化により、週 3 日の診療から、毎日の診療体制と移行していく必要があります。それによって、より広範な患者層に対応することが可能となり、特に地域住民にとって、より信頼される医療機関となるよう取り組んでいきたいと思いをします。

● 糖尿病内科

岩瀬 正典

I：構成員

糖尿病センター長：岩瀬 正典

糖尿病内科部長：井手 均（感染制御部部長、栄養委員会委員長）

医員：平田 詩乃（～ 6/30）

医員：横溝 舞子（7/1 ～）

医員：原田 久嗣

医員：長倉 祐紀

非常勤：高木 可南子

【医師の動向】

岩瀬（1982 年卒）は 2025 年 1 月 15 日に白十字会特任理事を定年になり、診療部支援センター長（対外的に糖尿病センター長を呼称）となった。地域の糖尿病診療レベルの向上に努めるとともに、医師働き方改革への対応と産業医業務、内科専門医研修プログラムの統括（臨床研究センター長兼務）、薬事委員会委員長（医薬品費削減を含む）を務めた。井手（2006 年卒）は糖尿病患者や救急患者の診療に加えて、感染制御部部長（AST 回診を含む）、栄養療法委員会委員長（NST 回診を含む）を務め、また、研修医や学生の指導も熱心に行った。平田（2014 年卒）は糖尿病学会認定専門医として外来診療を中心に行っていたが、7 月より産休となった。後任に横溝（2014 年卒）が聖マリア病院より 7 年ぶりに復帰した。堀内（2019 年卒）は聖マリア病院に異動となり、後任に九州中央病院より原田（2018 年卒）が赴任した。徳田（2021 年卒）も山口赤十字病院に異動となり、後任に研修医を終了した長倉（2022 年卒）が赴任した。高木（非常勤医師、2010 年卒）は糖尿病学会認定専門医として週 2 日の糖尿病外来を継続した（白十字リハビリテーション病院の糖尿病内科も兼務）。

II：臨床活動

糖尿病センターの項をご参照ください。

III：業績

九州大学と共同で福岡県糖尿病患者データベース研究を継続するとともに、福岡県内の糖尿病基幹施設と共同で SGLT2 阻害薬の副作用調査を行った。

【論文発表】（当院所属以外の著者省略）

- 1) Sleep duration and its association with constipation in patients with diabetes: The Fukuoka Diabetes Registry. Iwase M, et al. PLoS One. 2024 May 22;19(5):e0302430.
- 2) Reproductive factors predict risks of cardiovascular disease and premature death in postmenopausal women with type 2 diabetes: The Fukuoka Diabetes Registry. Iwase M, et al. Diabetes Res Clin Pract. 2024 Dec;218:111907.
- 3) 福岡県における SGLT2 阻害薬内服中の高血糖緊急症と重症低血糖の発症について. 岩瀬正典ら 糖尿病 2024 年 67 巻 5 号 p. 222-223.

【学会発表】（当院所属以外の著者省略）

- 1) 糖尿病患者において睡眠時間は便秘と関連する：Fukuoka Diabetes Registry (FDR) . 岩瀬正典、井手 均ら 第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会，東京，2024. 5.
- 2) SGLT2 阻害薬の適正使用について（教育講演）. 岩瀬正典 第 62 回日本糖尿病学会九州地方会，福岡，2024. 10.
- 3) 低血糖昏睡後に急激な低 Na 血症を呈した下垂体性副腎皮質機能低下症の 1 例. 原田久嗣、井手 均、平田詩乃、長倉祐紀、高木可南子、横溝舞子、岩瀬正典、萬代幸子 第 62 回日本糖尿病学会九州地方会，福岡，2024. 10.

IV：現状と展望

- 1) 糖尿病の薬物療法が大きく進歩したため糖尿病非専門医でも血糖コントロールが可能になりつつあるが、薬物の適正使用がなされていない症例が少なからず紹介されてくる。地域医療支援病院の役割として、糖尿病の薬物治療の適正化を啓発していく必要がある。
- 2) 肥満症の薬物治療が広まりつつあるが、肥満治療注射薬の施設基準が厳しく、福岡西部地区では当院のみが処方可能な状況である。今後、糖尿病センターにて肥満症患者の診療を行う必要があり、肥満症患者のための栄養指導、運動指導、薬剤指導などの体制整備を行う。

● 脳・血管内科

熊井 康敬

I：構成員

副院長：熊井 康敬

部長：由比 智裕

副部長：徳永 敬介 脳血管内治療科 兼任

医長：中西 泰之

医長：坂井 翔建 脳血管内治療科 兼任

医療情報管理・経営企画センター長：入江 克実

II：臨床活動

検査：MRI 検査 657 件（脳血管内科 外来のみ）

頸動脈エコー 1103 件（当院）

手術：血栓回収術 24 件（脳血管内治療科）

頸動脈ステント留置術（CAS: carotid artery stenting）12 件（脳血管内治療科）

III：業績

【論文発表】

- 1) Fluid-attenuated inversion recovery vascular hyperintensity-diffusion-weighted imaging mismatch and functional outcome after endovascular reperfusion therapy for acute ischemic stroke
Tokunaga K, Tokunaga S, Hara K, Yasaka M, Okada Y, Kitazono T, Tsumoto T

【学会発表】

- 1) COVID-19 蔓延に伴う循環器疾患死亡場所の変化
入江克実
第 121 回日本内科学会総会，東京，2024. 4. 13
- 2) 救急搬送状況と超過死亡からみた COVID-19 蔓延による医療逼迫の検証
入江克実
第 62 回日本医療・病院管理学会学術総会，埼玉，2024. 10. 26
- 3) SGLT2 阻害薬に関連した高齢者の高 Na 血症パニック値に関する検討
入江克実
第 71 回日本臨床検査医学会学術集会，大阪，2024. 12. 1
- 4) COVID-19 蔓延による脳梗塞超過死亡と介護保険リハ介入との関連
入江克実
第 50 回日本脳卒中学会学術集会，大阪，2025. 3. 6
- 5) 脳梗塞発症後に検出される心房細動は危険か？
第 50 回日本脳卒中学会学術集会，大阪，2025. 3. 6
徳永敬介

【講演会，研究会】

- 1) 脳卒中相談窓口の運用状況
由比智裕
脳卒中地域連携講演会，福岡，2024. 7. 12
- 2) 当院における超急性期虚血性脳卒中治療からの考察
坂井翔建
西区・早良区・糸島の脳卒中診療を考える会，福岡，2024. 11. 26

【座長】

- 1) 「血圧管理」は脳卒中発症予防における最も重要な因子である！
熊井康敬
世界脳卒中デーに降圧治療を考える，福岡，2024. 10. 28
- 2) レケンビ（Lecanemab）の導入と投与体制：九州医療センターの実践を踏まえて
熊井康敬
西部医療圏軽度認知障害（MCI）・軽度認知症の医療連携を考える会，福岡，2025. 2. 6
- 3) 一般口演 21 危険因子管理 1
入江克実
第 50 回日本脳卒中学会学術集会，大阪，2025. 3. 6
- 4) 働き方改革
熊井康敬
第 50 回日本脳卒中学会学術集会，大阪，2025. 3. 7

Ⅳ：現状と展望

【入院患者内訳】

脳血管内科診療実績（入院）					
	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
急性期虚血性血管障害					
アテローム血栓性脳梗塞	21	34	35	43	50
ラクナ梗塞	39	29	30	31	40
心原性脳塞栓症	33	53	57	62	63
その他の脳梗塞	143	138	96	118	121
一過性脳虚血発作（TIA）	22	7	9	11	13
虚血性脳血管障害精査	36	32	18	23	21
小 計	294	293	245	288	308
脳梗塞以外の疾患	244	194	223	193	183
総入院数	538	487	468	481	491
*超急性期 rt-PA 血栓溶解療法	19	18	10	12	10

脳・血管内科では、福岡市西区周辺から糸島市にかけて虚血性脳卒中患者を主体に対応しています。2022 年 10 月に福岡市西区では初めて一次脳卒中センター（Primary Stroke Center：PSC）コア施設に認定され、多職種協働で脳卒中相談窓口を設置しました。当科は脳神経外科と脳血管内治療科と協力して脳卒中診療を展開し、急性期脳梗塞に対して血栓回収術を行っています。これからも、当科は地域の脳卒中診療に貢献できるように努めて参ります。

●消化管内科

井浦 登志実

Ⅰ：構成員

会長：富永 雅也

内視鏡センター長：井浦 登志実

部長：工藤 哲司

医員：岡村 括揮

医員：中尾 凜

Ⅱ：臨床活動

★ 近隣医療機関よりの紹介件数

853 件（2024 年度）

774 件（2023 年度）

733 件（2022 年度）

★ 入院患者数

630 名（2024 年度）

★ 当科（当センター）で検査、治療にあたっている疾患

上下部消化管悪性腫瘍（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、直腸）

上下部消化管良性腫瘍（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、直腸）

上下部消化管出血（胃十二指腸潰瘍、憩室出血、虚血性腸炎など）

炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病など）
感染性腸炎（細菌性、ウイルス性）
ヘリコバクター・ピロリ菌の除菌療法（保険適応疾患に限る）
逆流性食道炎、急性・慢性胃炎、過敏性腸症候群、便秘など
消化管異物、胃ろう造設・交換

★ 検査と治療実績（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日・カルテベース）

検査：上部消化管内視鏡検査 2068 例
下部消化管内視鏡検査 1329 例
治療：内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）21 例
内視鏡的大腸ポリープ切除術（EMR＋ポリペクトミー）510 例
内視鏡的止血術 154 例
内視鏡的異物除去術 22 例
胃ろう造設、交換 42 例

Ⅲ：業績

【学会発表】

- 1) 典型的な症状で発見された Ball valve syndrome を呈した重複癌の一例：中尾 凜、工藤哲司、岡村活揮、井浦登志実、大谷 博（第 118 回日本消化器内視鏡学会 九州支部例会、鹿児島、2024. 11. 15）

Ⅳ：現状と展望

当科は日本消化器内視鏡学会の指導医 2 名、専門医 1 名、学会員 1 名の医師が消化管疾患の診療に従事しております。地域の先生方に支えていただき、多数の患者さんをご紹介いただいております。2024 年度の診療実績としては、紹介件数は 853 件、上部消化管内視鏡検査は 2,068 例、下部消化管内視鏡検査は 1,329 例、早期胃癌の内視鏡的粘膜剥離術（ESD）は 21 例、大腸腫瘍の内視鏡的切除術（EMR、ポリペクトミー）は 510 例、内視鏡的止血術は 154 例、異物除去術は 22 例、胃瘻造設と交換は 42 例でした。新型コロナウイルス感染症は「5 類」に移行しましたが、当科では引き続き日本消化器内視鏡学会の提言に基づいた十分な感染防止対策を施しており、患者さんと、ご紹介いただいた先生方にご満足いただける医療を提供すべく努力しております。

● 肝臓・胆のう・膵臓内科

内田 洋太郎

Ⅰ：構成員

医長：内田 洋太郎
医員：木村 遼

Ⅱ：臨床活動

外来：3257 名
入院：366 名

【入院患者内訳】

急性肝炎、肝障害	11 例
慢性肝炎	2 例
肝硬変症（腹水等、肝不全）	60 例
食道静脈瘤	27 例
肝癌 / 肝腫瘍	31/3 例
胆道系疾患（悪性腫瘍含む）	95 例
膵炎	20 例
その他	117 例
入院総患者数	366 例

【肝臓内科処置】

内視鏡的静脈瘤治療（EVL・EIS）	29 例
ラジオ波焼灼術（RFA）	4 例
肝動脈化学塞栓術（TACE）	13 例
肝生検	13 例
腹水濾過濃縮再静注法（CART）	23 例

Ⅲ：業績

なし

Ⅳ：現状と展望

近隣の諸先生方におかれましては、患者様をご紹介頂き誠に感謝しております。

現在、肝臓・胆のう・膵臓内科は二人体制で診療を行っており、肝疾患を中心に、胆膵疾患も一部診療対象としております。胆膵疾患の多くは当院では外科的処置を要するものが多いですが、外科医師と連携し遅滞なく診療を行っております。

肝疾患の診療内容は、慢性肝疾患・肝硬変合併症・肝癌に大別されます。

慢性肝疾患の原因は、ウイルス性、代謝性、自己免疫性が主なものです。国内にて慢性肝炎の多くを占めていた C 型慢性肝炎は、インターフェロンフリー療法の開始によりますます患者数は減ってはいるものの、依然として紹介頂く機会は多く、当院でも可能な限り外来通院にて抗ウイルス療法を行っております。その他の肝疾患に対しては診断のため積極的に肝生検も行い、診断・治療を行っております。

肝硬変の方に対しては合併症を中心に診療しております。主なものとしては、静脈瘤（食道、胃、直腸など）、胸腹水、肝性脳症および肝癌になります。静脈瘤破裂に対しては 24 時間体制で対応を行っております。難治性の胸腹水に対しては利尿剤を中心に治療を行っておりますが、必要により CART（腹水濾過濃縮再静注法）や外科に相談し腹腔静脈シャント療法（Denver shunt）を行う方もいらっしゃいます。

肝癌の治療には、外科的治療、肝動脈化学塞栓療法、ラジオ波焼灼術、化学療法、放射線療法などがあります。当科では肝動脈化学塞栓療法（放射線科と共同）、ラジオ波焼灼術および化学療法を行っております。

最近では糖尿病などを基礎疾患とした代謝機能障害関連脂肪肝炎（MASH）を背景肝に肝硬変や肝癌に至る患者様も増えてきております。発癌率の高い方を拾い上げるにはまだ基準となるものも少ないですが、線維化が進行している方や肝硬変の方は当科外来では定期的にフォローしておりますので、脂肪性肝炎が疑われる方がいらっしゃいましたら、一度ご相談ください。

今後とも近隣の先生方にご指導頂くとともに、地域医療の充実に少しでも貢献できるよう尽力していく所存です。白十字病院肝臓・胆のう・膵臓内科を今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

●腎臓内科

木村 廣志

I：構成員

透析センター長：平野 直史

部長：木村 廣志

副部長：酒匂 哲平

医長：藤澤 宏亘

医員：東 和樹

岩田 寛子

奥 美裕

II：臨床活動

入院 536 名（腎臓内科 381 名、内科総合 155 名）

慢性糸球体腎炎	5 名	低アルブミン血症	0 名
ネフローゼ症候群	6 名	多発性嚢胞腎	4 名
急性腎不全	17 名	腎生検	18 名
慢性腎不全	81 名	腎臓病教室目的の入院	27 名
血液透析導入	45 名	内シャント造設術	62 名
腹膜透析導入	4 名	長期型カテーテル留置術	10 名
血液透析患者の合併症	38 名	腹膜カテーテル留置術	3 名
腹膜透析患者の合併症	6 名	SMAP	0 名
高カリウム血症	16 名	PET 検査	6 名
低カリウム血症	4 名	シャント PTA（入院）	35 名
低ナトリウム血症	8 名	シャント PTA（外来）	40 名
高カルシウム血症	3 名		

III：業績

【学会発表】

- 1）診断八年後に副甲状腺垂全摘術を施行した原発性副甲状腺機能亢進症合併血液透析患者の一例：木村廣志、岩田寛子、東 和樹、藤澤宏亘、酒匂哲平、平野直史（第 54 回日本腎臓学会東部学術大会、宇都宮、2024. 9. 28）
- 2）腹腔洗浄中に正常圧水頭症を認め、一期的に腰椎腹腔短絡術（LP シャント）と腹膜透析カテーテル抜去術を実施した透析患者の一例：東 和樹、木村廣志、岩田寛子、藤澤宏亘、酒匂哲平、平野直史（第 54 回日本腎臓学会西部学術大会、姫路、2024. 10. 5）
- 3）横隔膜交通症に対して保存的加療が奏功せず、胸腔鏡下横隔膜縫縮術を施行した CAPD の一例：岩田寛子、木村廣志、東 和樹、藤澤宏亘、酒匂哲平、平野直史、伊藤建二、升谷耕介、早稻田龍一（第 30 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会、福岡、2024. 11. 16）
- 4）シャント誤穿刺後の活動性出血にステントグラフト内挿入し、Hb：3.2 から救命できた血液透析患者の一例：藤澤宏亘、岩田寛子、東 和樹、酒匂哲平、納彰伸、尼子真生、木村廣志、平野直史（第 56 回九州人工透析研究会総会、長崎、2024. 12. 15）

Ⅳ：現状と展望

腎臓内科では、腎臓内科常勤医 6 名（腎臓専門医 3 名）で、平日午前中に毎日外来診療を提供しています。国民の 5 人に 1 人は慢性腎臓病（CKD）と診断され、CKD ステージは 5 段階に分類されます。CKD 外来では、腎臓の機能が低下しているが、まだ進行を遅らせる可能性がある段階で患者さんを管理し、適切な治療やケアを提供することを目的としています。

今年度、新たに開設した慢性腎臓病透析予防指導プログラム（非糖尿病患者を対象）では、外来診療の際、医師に加え、管理栄養士、看護師、薬剤師、理学療法士が協力して患者さんの指導を行います。CKD の治療は、食事・飲水、体重・血圧管理、運動、睡眠など日々の過ごし方が重要です。生活習慣を見直し改善することで、腎機能を守り、生活の質を改善できるよう多職種で支援しています。腎臓病教室は全 3 日間の入院受講形式で、年 4 回開催しています。専門のスタッフが CKD の治療や運動療法、食事療法について説明します。透析患者さんの体験談の時間も設けており、充実した内容となっています。

さらに CKD ステージが進行した場合は、腎療法選択外来（毎週火・木曜日）で、慢性腎臓病療養指導看護師を中心に、患者さんのライフスタイルに合わせた治療方法選択の支援を行っています。

このように、外来および入院で一貫した保存期支援が確立されています。今後高齢化が進み、CKD 患者の増加が見込まれます。透析進展予防に尽力し、地域医療の更なる貢献を目指します。

● 心臓血管内科

三戸 隆裕

Ⅰ：構成員

心臓血管内科部長：三戸 隆裕

心臓血管内科副部長：矢野 雅也

医員：稲田 悠希

医員：板東 翔

Ⅱ：臨床活動

		2022 年度	2023 年度	2024 年度
カテーテル検査・治療	PCI	127 件	135 件	131 件
	内 Diamondback、ロータブ レーター、IVL	5 件	9 件	16 件
	PTA	1 件	0 件	0 件
	CAG	294 件	288 件	262 件
	心筋生検	1 件	1 件	0 件
	心のうドレナージ	1 件	2 件	1 件
不整脈検査治療	アブレーション		10 件	30 件
	ペースメーカー植込	17 件	25 件	37 件
	内リードレスペースメーカー	2 件	1 件	6 件
	ペースメーカー交換	13 件	8 件	6 件
	心臓電気生理学的検査	1 件	1 件	0 件

		2022 年度	2023 年度	2024 年度
入院患者数		611 名	636 名	649 名
虚血性心疾患	虚血性心疾患 (急性冠症候群を除く)	142 名	141 名	118 名
	急性冠症候群	38 名	44 名	58 名
うっ血性心不全		107 名	107 名	115 名
弁膜症		9 名	9 名	7 名
心膜心筋炎および心筋症		6 名	3 名	9 名
動脈疾患	閉塞性動脈硬化症	2 名	2 名	0 名
	大動脈解離	8 名	8 名	6 名
	大動脈瘤	1 名	0 名	0 名
静脈疾患	静脈血栓塞栓症	8 名	7 名	5 名
不整脈	房室ブロック・洞不全症候群	33 名	31 名	32 名
	心房細動・心房粗動・発作性 上室頻拍	16 名	22 名	49 名
	心室頻拍・心室性期外収縮	2 名	2 名	1 名
睡眠時無呼吸症候群		13 名	11 名	21 名

Ⅲ：業績

【学会発表】

- 1) 心房性機能性僧帽弁逆流と心房心筋症に関する検討: 三戸隆裕、板東 翔、松崎将樹、矢野雅也、江石清行、小川正浩、三浦伸一郎
(心電学関連春季大会 2024、ホルトホール大分、2024. 4. 20)
- 2) 後期回復期外来心臓リハビリテーションの頻度と予後の関係性について: 板東 翔、末松保憲、平田哲夫、松田拓朗、矢野祐依子、丸尾宇史、手島礼子、藤見幹太、三浦伸一郎 (第 30 回心臓リハビリテーション学会、神戸国際展示場、2024. 7. 13)
- 3) 急性心筋炎により右室内血栓を認めた一例: 板東 翔、三戸隆裕、稲田悠希、矢野雅也、三浦伸一郎 (第 72 回日本心臓病学会学術集会、仙台国際センター、2024. 9. 27)
- 4) Increase of exercise tolerance was associated with the frequency of exercise-based cardiac rehabilitation in real-world outpatients with cardiovascular disease: Kakeru Bando, Yasunori Suematsu, Takuro Matsuda, Yuiko Yano, Kai Tsukahara, Takashi Maruo, Hiroyuki Fukuda, Chie Matsushita, Etsumi Nakamura, Reiko Teshima, Kanta Fujimi, Shin-ichiro Miura (APCMS2025、THE KEGO CLUB、2025. 1. 18)
- 5) ST 上昇型急性心筋梗塞の責任病変中枢側に指摘された高度石灰化病変の処理方針に悩んだ一例: 矢野雅也、板東 翔、稲田悠希、三戸隆裕 (第 44 回 CVIT 近畿地方会、ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター 2025. 3. 1)

【論文 (共著)】

- 1) Effect of Left Ventricular Diastolic Dysfunction on the Cardiopulmonary Exercise Test In Patients With Cardiovascular Disease: Yuki Inada, Yasunori Suematsu, Takuro Matsuda, Yuiko Yano, Kai Morita, Kakeru Bando, Reiko Teshima, Hiroyuki Fukuda, Kanta

IV：現状と展望

2024 年度は不整脈に対するカテーテルアブレーションの手術件数も増加し手術における体勢も安定してきました。この手術を必要とする患者さんは食生活の欧米化に伴い、増加しており、今後もその需要に応えられる様に技術の向上と大勢の拡充に注力していく必要があると考えております。

虚血性心疾患に対する PCI においては、IVL システムという、冠動脈の石灰化病変に対する切削デバイスを導入し、重症冠動脈疾患の患者さんに対する治療が更に安全かつ有効におこなえるようになりました。

これら高度医療を提供できるようになり、循環器診療に更に尽力できるようになりました。

●呼吸器内科

松本 武格

I：構成員

部長：松本 武格

医長：矢次 博

II：臨床活動

入院：225 名（死亡退院 26 名）

【入院疾患内訳】

感染性肺炎・気管支炎	109	(9)
誤嚥性肺炎	16	(7)
慢性閉塞性肺疾患	5	
喘息	8	
気管支拡張症	0	
間質性肺炎	6	(1)
肺悪性腫瘍	7	(1)
肺悪性腫瘍疑い	0	
胸膜炎・膿胸・胸水	5	(2)
気胸	1	
肺膿瘍	0	
結核	0	
肺非結核性抗酸菌症	0	
声帯浮腫	0	
喀血	0	
呼吸リハビリ	0	
縦隔気腫（特発性）	0	
一般内科	68	(6)

【呼吸器内科処置】

胸水穿刺	7
胸腔ドレナージ	4
IPPV	0
NIPPV	4

III：業績

なし

IV：現状と展望

当院の呼吸器内科では気管支喘息や COPD（慢性閉塞性肺疾患）、間質性肺炎といった特有の疾患

と呼吸器感染症など呼吸器疾患全般にわたって診療をおこなっています。

胸部異常陰影の診療にあたっては放射線科医と連携を取りながら、患者さんにとってより最適な診療をおこなうことを目指しています。

悪性疾患（特に肺がん）については、近隣の病院と連携して検査、治療をおこないます。

●放射線科

中島 力哉

I：構成員

顧問：宇都宮 英綱

放射線科部長：中島 力哉

IVR 部長：納 彰伸

医長：日隈 由紀枝

医員：豊島 宏

II：臨床活動

検査：

	2022 年度	2023 年度	2024 年度
CT 検査	14,273 件	15,099 件	14,961 件
MRI 検査	4,404 件	4,603 件	4,375 件
RI 検査	423 件	431 件	424 件
IVR 検査	16 件	29 件	29 件

III：業績

【論文発表】

- 1) 脳血管内治療後に遅発性に生じた症候性の多発性白質脳症の 2 例 / 納 彰伸、宇都宮英綱、豊島 宏、中島力哉、徳永敬介、坂井翔健、福田健治、井上 亨 (IVR 会誌 Jpn J Intervent Radiol 39:045-048, 2024).

【学会発表】

- 1) 硬膜境界細胞層 (dural border cell layer : DBCL) からみた中村 I 型乳幼児急性硬膜下血腫の発生機序. 宇都宮英綱 (第 65 回日本神経病理学会総会学術研究シンポジウム、山口 2024. 05)
- 2) 硬膜内に見られた腫瘍形成性骨病変の一例. 日隈由紀枝、宇都宮英綱、納 彰伸、豊島 宏、中島力哉、神崎由紀、福田健治、井上 亨、大谷 博 (放射線秋季臨床大会、福岡 2024. 10)
- 3) Dual Energy CT を用いた慢性硬膜下血腫の血腫性状 (血腫の発達と消退 / Developmental Stage) に関する検討. 納 彰伸、宇都宮英綱、日隈由紀枝、豊島 宏、中島力哉、神崎由紀、福田健治、林 修司、井上 亨、山口広之 (第 54 回日本神経放射線学会、京都 2025. 02)

IV：現状と展望

CT、MRI、RI 検査及び読影、血管造影検査及び TACE、動脈止血等の IVR を施行しています。院内他科との連携を密にして、臨床に役立つ診断・治療を行うよう努力しています。

また、高度画像センターの中心的役割を担うべく、常に最先端技術を意識した医療画像診断提供

環境の構築を目指します。

当院内各診療科や近隣クリニックの先生方が、診断・治療を進める上で必要な診療画像情報の提供を、迅速かつ正確に行う事を目指します。

● 病理診断科

大谷 博

I：構成員

部長：大谷 博

非常勤医師：青木 光希子

非常勤医師：菊島 百香

II：臨床活動

病理組織診断件数：3248

術中迅速診断件数：79

細胞診件数：447

病理解剖：2

III：業績

【論文（和文）】

- 1) 大谷 博^{*1}、小出祐子^{*2}、森 健一^{*2}、青木光希子^{*3}

今日からあなたも尿細胞診のエキスパートになれる！？－診断アプローチ，クルーとピット
フォーラー

社会医療法人白十字会白十字病院 病理診断科^{*1}、同 臨床検査技術部^{*2}、福岡大学医学部 病理
学講座^{*3}

病理と臨床，42，973-982，2024

【学会発表・講演】

- 1) 第49回細胞診断学セミナー

2024年8月18日～8月14日，Web開催

各論講義：泌尿器，

鏡検実習（2024年8月5-6日，東京）

大谷 博

- 2) 第65回日本臨床細胞学会春期大会（総会）

2024年6月9日，大阪

ワークショップ8（泌尿器ワークショップ）

高異型度尿路上皮癌の診断を容易くするための細胞所見を見つける

「診断に苦慮した尿管カテーテル尿の1症例」

解説者 大谷 博

- 3) 第38回日本臨床細胞学会中国四国連合会総会・学術集会

2024年7月27日，高松

教育講演6「今日からあなたも尿細胞診のエキスパート！？－診断アプローチ，クルーとピット
フォーラー」

大谷 博

4) 第 34 回北海道細胞診従事者講習会

2025 年 3 月 2 日, 札幌

特別講演

尿細胞診スキルアップ! エパートが語る診断アプローチ、クルーとピットフォール

大谷 博

【座長】

1) 第 63 回日本臨床細胞学会秋期大会

2024 年 11 月 16 日, 千葉

ポスター討論 泌尿器 P 1 (4 演題)

座長: 大谷 博

2) 第 65 回日本臨床細胞学会春期大会

2024 年 6 月 8 日, 大阪

ポスター討論 泌尿器 P 1 (7 演題)

座長: 大谷 博

【社会活動】

- ・日本病理学会評議員
- ・日本臨床細胞学会評議員
- ・日本臨床細胞学会九州連合会雑誌編集委員、広報委員
- ・福岡県臨床細胞学会理事
- ・泌尿器細胞診カンファレンス監事
- ・福岡乳腺カンファレンス世話人 (病理解説担当)

IV: 現状と展望

- ・臨床活動は増加傾向にある。難易度の高い手術件数が増えたことにより、難易度の高い病理診断が増加した。乳腺病理画像カンファレンス、脳神経病理カンファレンスを継続している。
- ・治療に直結するコンパニオン診断の件数も年々増加し、検体の取り扱い、特に臓器の固定時間の厳密な管理が求められている。病理組織分類は細分化、複雑化している。遺伝子検索なしでは診断できない症例は福岡大学に精査を依頼するか、コンサルテーションにより対応している。
- ・今後もこの傾向は継続するものと思われ、学会・学術活動、福岡大学との綿密な連携、重要診断症例の運用、病理スタッフとの情報共有により誤解釈されることのない丁寧で精度の高い診断を心掛けていきたい。

外科系診療実績

● 外科

肝胆膵外科部長 谷 博樹

I：構成員

病院長：渕野 泰秀

肝胆膵外科部長：谷 博樹

消化管外科部長：浅生 義人

副部長：武富 啓能

医長：梶谷 竜路

医員：中村 勇太朗

医員：石原 健人（～9月）

医員：増原 紗希（10月～）

II：臨床活動

入院：940名

2024年度外科手術症例数

【手術症例数】

臓器	手術術式	症例数	腹腔鏡数	ロボット数
食道・胸部	食道悪性腫瘍手術	0		
	胸腔鏡下肺切除術	0		
	食道裂孔・横隔膜ヘルニア手術	0		
胃・十二指腸	局所切除術	2	(1)	
	幽門側胃部分切除術	15	(14)	
	噴門側胃部分切除術	1	(1)	
	胃全摘術	3	(2)	
	胃空腸バイパス術	5	(4)	
	穿孔性潰瘍の閉鎖	2		
小腸・大腸	結腸部分切除術	37	(24)	(8)
	半結腸切除術	14	(5)	(7)
	前方切除術	31	(8)	(23)
	Miles 手術	0		
	イレウス解除術	9	(8)	
	経肛門的直腸腫瘍切除術	0		
	小腸切除術	12	(7)	
	虫垂切除術	52	(52)	
	人工肛門造設術	16	(14)	(1)
	人工肛門閉鎖術	3		
	ハルトマン手術	7		
	バイパス術	0		
肝臓	肝切除術	6	(2)	
	肝嚢胞天蓋切除術	0		
胆嚢・胆道	胆嚢摘出術	145	(144)	
	胆管切除術	0		
	総胆管切開切石術	1		

膵臓	膵頭十二指腸切除術	8	
	膵尾側切除術（鏡視下）	4	(3)
	バイパス術	1	(1)
その他	単径・大腿ヘルニア根治術（鏡視下）	141	(133)
	腹壁癒痕・臍ヘルニア根治術（鏡視下）	17	(7)
	閉鎖孔ヘルニア根治術（鏡視下）	3	(3)
	腹膜炎手術（鏡視下）	1	(1)
	痔核根治術 [PPH]	1	
	直腸脱手術	0	
	その他（鏡視下）	45	(20)
合計		582	(454) (39)

【特殊検査・治療】

検査・治療	症例数
経皮内視鏡的胃瘻造設術（PEG）	15（外科施行症例のみ）
内視鏡的逆行性膵管胆道造影（ERCP）	267（詳細は胆石症センターの項参照）
経皮経肝胆囊・胆管ドレナージ（PTGBD, PTBD）	7（詳細は胆石症センターの項参照）

Ⅲ：業績

学会発表

1. 当院外科におけるタスクシフティングの工夫について：武富啓能、中村勇太朗、増原紗希、梶谷竜路、浅生義人、谷 博樹（第 86 回日本臨床外科学会学術集会、栃木、2024. 11. 21）
2. 術中トラブルを経験したハルトマンリバーサル の 1 例：中村勇太朗、武富啓能、増原紗希、梶谷竜路、浅生義人、谷 博樹（第 86 回日本臨床外科学会学術集会、栃木、2024. 11. 21）
3. 腸回転異常症を伴う上行結腸癌に対して腹腔鏡下結腸切除術を施行した 1 例：武富啓能、増原紗希、中村勇太朗、梶谷竜路、浅生義人、谷 博樹、長谷川傑（第 37 回日本内視鏡外科学会総会、福岡、2024. 12. 5）

Ⅳ：現状と展望

2024 年度は瀧野 泰秀（病院長：1985 年卒）、谷 博樹（肝胆膵外科部長、肝胆膵センター長：1993 年卒）、浅生 義人（消化管外科部長：福大消化器外科：1993 年卒）、武富 啓能（副部長：福大消化器外科：2006 年卒）、梶谷 竜路（医長：福大消化器外科：2013 年卒）、中村 勇太朗（福大消化器外科：2021 年卒）、石原 健人（福大消化器外科：2022 年卒：～ 9 月）、増原 紗希（福大消化器外科：2022 年卒：10 月～）と、乳腺外科 松尾文恵（乳腺外科部長：1990 年卒）で、一般・消化器外科 7 名と乳腺外科 1 名、合計 8 名の陣容で診療を行いました。

手術症例は一般・消化器外科 582 例（腹腔鏡下手術 454 例・ロボット手術 39 例）で、乳腺外科 91 例を加えると合計 673 例でした。腹腔鏡下手術は、近年とくに大腸手術とヘルニア手術に力を入れて、症例数は年々増加しています。2024 年 5 月より大腸がん（結腸がん、直腸がん）に対するロボット支援手術を開始し、39 例の手術を行いました。腹腔鏡下およびロボット支援下大腸手術は、福岡大学病院消化器外科長谷川傑教授を当院に招き、手術室における実際の指導や、動画を用いた講義を受けており、手術技術の飛躍的な向上が得られています。腹腔鏡下ヘルニア手術は、若手外科医の登竜門であり、手術時間が長いことが課題でしたが、日々研鑽し技術が向上し時間を短縮しています。

2025 年 2 月には全国的にも手術症例数の多い、聖隷浜松病院（静岡県）に手術見学の機会を得て、ポートサイズを 5mm、3 本に変更することで安定して手術翌日退院が可能となりました。腹腔鏡下胆嚢摘出術は、当院では高度炎症を伴い困難症例が多い特徴がありますが、開腹移行や合併症は少なく、安全で確実に手術しています。ERCP 技術を利用した胆膵内視鏡治療は、当科において手術と両輪であり、267 例行いました。急性胆道炎や胆石性膵炎に対する緊急治療が多く、地域の救急医療に大きく貢献し、超高齢者にも安全で優しい治療を行っています。肝胆膵の悪性腫瘍に対しても、内視鏡技術を用い精細に診断し、高難度の肝切除術や膵頭十二指腸切除術を 18 例（腹腔鏡下手術 5 例）行いました。緊急手術は 2023 年度 96 例から 2023 年度 106 例と増加しました。これは一般・消化器外科手術の約 18.2%を占めており、地域の救急医療に貢献しています。

外科合同カンファレンスを毎週月曜日、水曜日、金曜日に行っており、外科、乳腺外科、消化管内科、肝胆膵内科、放射線科、麻酔科、手術室看護師、外科病棟看護師が参加しています。この合同カンファレンスにより院内の診療科間で良好な連携を確保しチーム医療を実践しています。毎週金曜日には、術後手術カンファレンスを行い、手術の振り返りをして、手術技術の向上とチームワークの強化を図っています。金曜日は化学療法カンファレンスも行い、血液腫瘍内科、薬剤師、がん看護専門看護師、外来化学療法室看護師、病棟看護師と伴に症例検討を行い、病状の進行や副作用など問題を把握し、適切な治療方針を緩和医療に至るまで幅広く話し合い、より良い医療を提供出来るように努力しています。2018 年度よりがん看護専門看護師が就業しており、医師・多職種と連携して患者・家族のケア・サポートを充実させています。また診療と多職種連携を円滑に行うために、外科医師の一日のスケジュール、診療予定を毎朝 9 時のミーティングで確認し共有しています。

外科病棟には、薬剤師 1 名、管理栄養士 1 名、メディカルソーシャルワーカー 1 名が専属配置されており、多職種協働による円滑な質の高いチーム医療を行っています。

英語論文の抄読会を、病理医、研修医を含めて毎週水曜日に行い、外科と乳腺外科の最新の医療情報を全員で共有するように努めています。薬剤や医療機器の勉強会も不定期開催し、また参加した学術集会で得た最新情報を報告し、全員にフィードバックしています。

外科・乳腺外科の医療秘書は、工藤 麻里、古寺 和恵、木村 幸子、秦 すみれと 7 月から加茂 美穂、11 月から城後 沙也加が加わり 6 人体制で務めています。医療秘書業務は、医師の診療外業務を高い質で分担することにより、負担を軽減し、診療業務に専念する環境を作ることに大きく寄与し、医療の質の向上に繋がっています。

これからも白十字病院外科は“地域の中で頼りにされる外科”であるために、今後も「紹介を断らない。しっかり治す。きちっと報告する。」の 3 原則を遂行して行きます。また“充実した修練ができる外科”であることも任務と考え、チーム全員で努力を続けます。

● 乳腺外科

乳腺外科部長 松尾 文恵

I：構成員

乳腺外科部長：松尾 文恵

II：臨床活動

外来：3,251 名

入院：125 名

検査

マンモグラフィー	外来	: 904
	福岡市検診	: 144
	自費検診	: 8
	職員検診	: 74
エコー	外来	: 1,150
	自費検診	: 98
細胞診		: 42
針生検		: 71
ステレオガイド下生検		: 7

手術

臓器	手術術式	手術件数
乳腺	乳房温存術	16
	乳房切除術	51
	腫瘍摘出術	6
	その他（再発など）	18
	同時乳房再建術（形成外科）	1
合計		91

化学療法

症例数 : 53

施行回数 : 485

Ⅲ：業績

学会発表

術前化学療法の治療効果判定: 古賀晶子、大谷 博、松尾文恵（第 32 回日本乳癌学会学術総会、仙台、2024. 7）

Ⅳ：現状と展望

当科では乳がんを中心に乳腺症、乳腺炎、乳腺腫瘍、乳腺線維腺腫、葉状腫瘍、女性化乳房症などの良性疾患まで対応、診察しています。特に乳がんの治療については検診、診断から手術、薬物療法、およびその治療後のフォローアップを一貫して行っています。再発症例に対しても、患者さんやご家族も含めた身体的・精神的な支持療法を積極的に行い、安心して癌の治療を受けられるように努めています。また、乳腺専門医のみではなく、腫瘍内科医、形成外科医、病理医、リハビリテーションなどの関係各科との密接な連携のもと、集学的治療を行っています。

● 整形外科

整形外科部長 小林 知弘

I：構成員

部長：小林 知弘

医員：清水 黎玖、田代 勇人、西山 祐加

II：臨床活動

☆ 入院患者数	758 名
☆ 外来患者数	
★ 初診	393 名
★ 再診	4,336 名
☆ 手術数	442 例
★ 骨折・偽関節の手術	
・上肢	84 例
・下肢	171 例
・骨盤	0 例
・その他	20 例
★ 関節の手術	
・人工関節	21 例
・人工骨頭	69 例
・肩	8 例
・膝	4 例
・その他	2 例
★ 椎の手術	0 例
★ 腱の手術	5 例
★ 腫瘍摘出術	1 例
★ 抜釘術	54 例
★ 神経の手術	0 例
★ その他	3 例

III：業績

1．整形外科と災害外科 73（3） 406-408, 2024

「腰椎椎弓切除後に馬尾嵌頓を認めた 1 例」 西山祐加 他

2．第 50 回 日本骨折治療学会学術集会（仙台） 2024/6/28-29

「当院における小児の脛骨腓骨骨幹部骨折に関する治療成績について」 田代勇人 他

IV：現状と展望

2024 年度も前年同様、4 人体制で診療を行いました。手術件数は 442 件と前年よりやや減少し、それに伴い入院患者数も減少しました。当科的には外傷患者を断らない体制を継続していますが、満床で救急車の受け入れが困難な場合もあり、手術件数、入院患者数減少の一因と考えています。また当直明けに伴うスタッフ人員不足による影響も否定できません。

本年度より整形外科は 1 人増員し 5 人体制となりました。マンパワーによるメリットを最大限に生かすべく、病棟や回復期とより一層密な連携を取りながらベッド数の確保に寄与し、今一層、救急患者を断らない体制づくりを強化し、昨年度を上回る手術件数、入院患者数確保に尽力しようと考えています。

●形成外科

形成外科部長 眞鍋 剛

I：構成員

形成外科部長：眞鍋 剛

医員：伴 楓子

II：臨床活動

入院：246 名

手術：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

①新鮮熱傷	2
②顔面骨骨折及び顔面軟部組織損傷	74
③唇裂・口蓋裂	0
④手、足の先天異常、手、足の外傷	59
⑤その他の先天異常	0
⑥母斑、血管腫、良性腫瘍	195
⑦悪性腫瘍及びそれに関連する再建	3
⑧瘢痕、瘢痕拘縮、肥厚性瘢痕、ケロイド	11
⑨褥瘡、難治性潰瘍	134
⑩美容外科	0
⑪その他（陥入爪、炎症・変性疾患・手、足以外の外傷など）	82
合計	560

III：業績

【学会発表】

- 1) 緊張を伴った神経縫合の是非 尺骨神経損傷の一例：眞鍋 剛、飯田博幸
(第 46 回 九州手外科学研究会、宮崎、2025. 2)
- 2) 開心術後胸骨骨髓炎に対し、腸骨移植を行った一例：眞鍋 剛、伴 楓子、高木誠司
(第 125 回 九州・沖縄形成外科学術集会、福岡、2025. 3)

IV：現状と展望

当院形成外科では、手の外傷（切断指や手指骨骨折、腱断裂）を中心として化膿性腱鞘炎などの感染症、弾発指などの炎症性疾患、手根管症候群や肘部管症候群などの絞扼性神経障害も含めた手外科領域を専門に治療しています。手根管症候群の手術は皮切 1 cm で内視鏡を用いた手術を行っています。その他、形成外科領域一般に扱う疾患も対象に診療活動を展開しております。疾患領域は新鮮熱傷、顔面骨骨折を含めた顔面外傷、良性・悪性腫瘍、瘢痕拘縮や肥厚性瘢痕、ケロイド、陥入爪、巻き爪、糖尿病性皮膚潰瘍、褥瘡潰瘍などです。当科の方針として心がけていることは、患者さんが納得して治療を受けられるように診断根拠をしっかりと提示し、説明することです。またご高齢の患者さんは形成外科疾患以外に重篤な内科的疾患を合併していることが多く、他科との連携が必要になることがあります。全身的局所的治療を他科と協力して診療活動を行っています。今後は手外科の教育関連施設を目指しています。

● 脳神経外科

脳神経外科医長 藤原 史明

I : 構成員

脳卒中センター長：井上 亨（2022. 4 ～）

病院長補佐：林 修司（2007. 4 ～）

部長：福田 健治（2021. 2 ～）

医長：藤原 史明（2022. 4 ～）

医長：松田 浩大（2024. 10 ～）

医長：入江 由希乃（2024. 4 ～）

医員：平尾 宜子（2024. 10 ～）

退職：神崎 由起（2021. 4 ～ 2024. 9）

退職：埤本 僚太（2024. 4 ～ 2024. 9）

II : 臨床活動

外来：3,801 名（新患 933 人、再来 2,868 人）

入院：618 名

利用ベッド数：ICU（12 床）、SCU（6 床）、4 階南病棟（39 床）

手術症例：419 例

Clipping	未破裂	1	血管内	未破裂	21
	破裂	4		破裂	14
CEA		0		血栓回収	28
EDAS		0		CAS	12
STA-MCA bypass		3		AVM	0
脳腫瘍摘出術		7		AVF	12
VP shunt		7		頭蓋内 PTA/S	1
LP shunt		4		頭蓋外 PTA/S	2
頭蓋内血腫除去術	AEDH	2		spasm	1
	ASDH（内視鏡）	3（3）		脳腫瘍	4
	脳出血（内視鏡）	14（12）		CSDH	41
CSDH	（両側）	76（9）		その他	0
脳室ドレナージ		6			
外減圧術		0			136
頭蓋形成		6			
脊椎	頸椎後方除圧術	12			
	頸椎前方固定術	2			
	頸椎後方固定	0			
	胸腰椎後方除圧術	45			
	胸腰椎後方固定術	4			
	脊髄腫瘍摘出術	4			
	末梢神経手術	26			
	BKP	31			
	制動術	6			
その他		20			
直達		283	直達 + 血管内		419

Ⅲ. 業績

●学会発表 / 研究会

- 1) シースを用いた経撓骨動脈脳血管内治療：福田健治（第5回 TRA 研究会 2024. 3）
- 2) 重症上矢状静脈洞血栓症に対する脳血管内治療：福田健治（Stroke2024 2024. 3）
- 3) Perclose で血管閉塞を認めた一症例：福田健治（九州血管内治療研究会 2024. 5）
- 4) 医師になるために 医師になってから：福田健治（筑紫丘高校社会人講演会 2024. 6）
- 5) 再発 IC-Ach AN の一例：福田健治（琉球セミナー 2024. 7）
- 6) 脳血管内治療のさらなる低侵襲化への取り組み～経撓骨動脈アプローチについて～：福田健治（脳卒中地域医療連携会 2024. 7）
- 7) TRN における Rist guide catheter の使用経験：福田健治（第40回日本脳神経血管内治療学会九州地方会 2023. 8）
- 8) 頭蓋内出血に対するアンデキサネットアルファの使用経験：福田健治（オンデキサ Experience Sharing in Fukuoka 2024. 8）
- 9) IVR first 施設における脳動脈瘤治療：福田健治（西区早良区糸島市の脳卒中診察を考える会 2024. 11）
- 10) シースを用いた経撓骨動脈脳血管内治療：福田健治（JSNET2024 2024. 11）
- 11) TS-SS dAVF に対する onyx TVE の一例：福田健治（美ら島セミナー 2024. 12）
- 12) 足根管症候群に内側足底神経障害を合併した一例：藤原史明（第7回末梢神経の外科研究会 2024. 3）
- 13) BKP 術直後に観察される脊椎周囲 air の臨床的意義：藤原史明（第39回日本脊髄外科学会 2024. 6）
- 14) DISH をともなう Chance 骨折の治療経験：藤原史明（第14回日本低侵襲・内視鏡脊髄神経学会 2024. 7）
- 15) DISH をともなう Chance 骨折の治療経験：藤原史明（第59回日本脊髄障害医学会 2024. 11）
- 16) 頸椎椎弓形成術後に四肢麻痺を呈した外傷性頸椎椎間板ヘルニアの一例：藤原史明（第20回九州ニューロスパイン研究会 2024. 4）
- 17) 脳卒中ファースト施設による FESS 立ち上げ：藤原史明（第21回九州ニューロスパイン研究会 2024. 11）
- 18) 超高齢者への骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的椎体形成術の治療経験：入江由希乃（第39回日本脊髄外科学会 2024. 6）
- 19) 緩徐に進行した胸椎黄色靱帯血腫の一例：入江由希乃（第59回日本脊髄障害医学会 2024. 11）
- 20) 内頸動脈－後交通動脈分岐部未破裂脳動脈瘤に滑車神経麻痺を合併した1例：神崎由起（Storke2024 2024. 3）
- 21) 奇異な経過をたどった左横静脈洞－S 状静脈洞分岐部硬膜動静脈瘻の1例：神崎由起（第147回日本脳神経外科学会九州支部会）
- 22) 再発慢性硬膜下血腫に対する神経内視鏡による硬膜観察所見と中硬膜動脈（MMA）塞栓術有用性の関連について：神崎由起（第31回神経内視鏡学会 2024. 11）
- 23) 9年間の経過で増大し治療に至った硬膜内骨腫（Intradural osteoma）の1例：板谷太郎（第148回日本脳神経外科学会九州支部会）
- 24) HAL リハビリテーション温故創新：井上亨（第1回甲信 HAL® 研究会 2024. 2）

●論文発表

- 1) Paralumbur Spine Disease as a Cause of Low Back Pain in Older Adults. Fujihara F, kim K, Isu T et al : Cureus. 2024 Feb 10 : 16 (2) : e53983
- 2) Usefulness of Ligamentotaxis With Ballon Kyphoplasty for Delayed Lumbar Radiculopathy Resulting From Osteoporotic Vertebral Fracture : A Case Report. Fujihara F, Uchikado H, Irie Y et al : Cureus 2024 Dec 16 (12) : e76450
- 3) 腰椎後方除圧術後に見られた総腓骨神経障害で外科手術が奏功した4例 / 入江由希乃、松本順太郎、福本博順、小林広昌、安部洋、脊髄外科 (In press)

●著書

- 1) 単関節 HAL チームに配属されました！どうする！！ / 井上亨（監修・編著 2024.12 第1版）
- 2) 病院 DX 推進のためにネットワーク基盤構築とスマートフォンを利用した病院 DX / 村上真一、福田健治 INNERVISION (2024. 3)
- 3) 慢性硬膜下血腫に対する「Carry Slim Leon Selective catheter」を用いた経撓骨動脈脳血管内治療 / 福田健治 UTM 社 Case Report
- 4) 上殿皮・中殿皮神経障害の診断と治療（仙腸関節のすべて） / 藤原史明、金景成、井須豊彦 Monthly Book Orthopaedics (2024 vol. 37 (4) 55-60)
- 5) 頸椎症性神経根症の画像診断 / 藤原史明、金景成、井須豊彦 脊椎脊髄ジャーナル (2024 vol. 37 (11) 969-976)
- 6) 上殿皮神経障害による腰痛 / 藤原史明、金景成、井須豊彦 CHIRYO プライマリ・ケアにおける腰痛診療 (2024 vol. 106 (5) 528-531)

●原稿

- 1) 愛鱗と逆鱗 : 井上亨 (同門会誌 2024. 1)
- 2) 九州医療センター 30 周年を記念して : 井上亨 (めでいかる会会報 第 6 号 創立 30 周年記念号 2024. 10)

●代表世話人、座長

- 1) 第 4 回九州 HAL® 愛好会 : 井上亨 (福岡 2024. 4)
- 2) 第 33 回日本脳ドック学会総会 : 井上亨 (広島 2024. 6)
- 3) 第 42 回 The Mt. Fuji Workshop on CVD : 井上亨 (札幌 2024. 8)
- 4) 第 5 回九州 HAL® 愛好会 : 井上亨 (福岡 2024. 10)
- 5) 第 13 回日本脳神経 HAL 研究会 : 井上亨 (大阪 2024. 11)
- 6) 西区・早良区・糸島市の脳卒中診療を考える会 : 井上亨 (福岡 2024. 11)

IV. 現状と展望

2024 年度を迎え、当院は新病院開設から 4 年目となりました。地域初となる SCU (脳卒中ケアユニット) が西区・糸島市において 6 床で稼働を開始し、開業医の先生方からの「脳卒中ホットライン (緊急紹介)」も積極的に活用されています。これにより、脳卒中の紹介症例数および手術件数は、前年と同等の水準を維持しています。

高齢者の多い地域特性を踏まえ、当院では経嚥骨動脈アプローチによる血管内治療や内視鏡手術など、低侵襲治療に特化した医療を継続しており、地域医療への貢献を微力ながら目指しております。

脊椎疾患に関しては、近隣医療機関や院内からの紹介により、年間 130 件を超える脊椎手術を実施しています。当科では、変性疾患から急性外傷まで幅広く対応しており、脊椎外傷に対しては固定術を、低侵襲治療としては脊椎内視鏡手術や BKP (Balloon Kyphoplasty) を導入。また、末梢神経障害に対しては神経剥離術を行うなど、患者さんの早期回復と満足度向上を重視した治療を提供しています。特に急性腰痛症の背景に骨粗鬆症性椎体骨折を伴う症例が多く、疼痛の強さから長期入院が必要となることも少なくありません。こうした症例に対しては、BKP が即時の疼痛緩和に有効であり、早期の社会復帰や自宅退院を可能にしています。また、慢性硬膜下血腫の症例も多く、再発や難治性を呈する症例に対しては、栄養動脈塞栓術による血管内治療が有効です。当院のハイブリッド手術室 (Hybrid OR) を活用することで、安全かつ迅速に低侵襲治療を提供できる体制を整えています。

リハビリテーション部門では、急性期からの介入に加え、ロボットスーツ HAL[®] を用いた最先端リハビリテーションにも積極的に取り組んでいます。専任スタッフによる研究活動や学会発表も活発に行われており、治療と研究の両輪による質の高いリハビリの提供を目指しています。さらに、脳神経外科においては、福岡大学病院の脳神経外科および救急救命センターと密接に連携し、重症例や高難度症例にも適切なタイミングで最善の治療が行える体制を構築しています。

● 泌尿器科

副院長 泌尿器科部長 阿部 裕典

I：構成員

副院長 部長：阿部 裕典

医員：吉田 一博

医員：藤川 愛子

医員：山崎 史裕

II：臨床活動

入院：792 名

入院患者数、疾患名については電子カルテの退院サマリー主病名から抽出した。

入院患者は 792 人で昨年に比べ 28 人増加した。臓器別では前立腺、尿管、腎、膀胱の順に多かった。疾患順では腫瘍、結石、炎症の順に多かった。後腹膜、副腎、腎、尿管疾患での入院患者は 320 人で尿管結石が 150 人で最も多く、次いで腎結石 50 人、腎盂腎炎 41 人の順となった。膀胱、前立腺、尿道、陰嚢内容疾患での入院患者は 472 人で、膀胱腫瘍が 123 人と最も多く、次いで、前立腺癌疑いが 122 人、前立腺肥大症 103 人、前立腺腫瘍 31 人の順であった。

手術：478 件

手術数、手術名については電子カルテの手術登録から抽出した。

手術室で施行された手術は 478 件で昨年と比べ 35 件増加した。また、2025 年 5 月から当院に手術支援ロボット「ダビンチ」が導入されより低侵襲な手術が可能となり、当科では合計 20 件施行した。

後腹膜、副腎、腎、尿管の手術では腎癌に対し、ロボット支援下根治的腎切除術を 7 件、ロボッ

ト支援下根治的腎部分切除術を 5 件、腹腔鏡下根治的腎摘除を 9 件施行した。また腎盂尿管癌に対しロボット支援下腎尿管全摘＋膀胱部分切除を 1 件、後腹膜鏡下腎尿管全摘を 5 件施行した。腎および尿管悪性腫瘍に関しては 2005 年から腹腔鏡下手術が第一選択になり、開腹手術より腹腔鏡手術が定着している。

膀胱、前立腺、尿道、陰嚢内容の手術では TUR-BT が 110 件と最も多く、次いで 2020 年より導入した治療レーザー【ツリウムレーザー】による前立腺蒸散術 (ThuVAP) は 48 件であり、前立腺核出術は 42 件、TUR-P 12 件であった。またロボット支援腹腔鏡下前立腺根治術を 7 件、前立腺全摘（小切開）を 1 件施行し、Total 260 件を超えた。

体外衝撃波結石破砕術 (ESWL) はドルニエ Delta II を使用して新患 70 件の尿路結石に対し ESWL を 108 回（1 例につき平均 1.5 回）施行した。

Ⅲ：業績

なし

Ⅳ：現状と展望

2021 年 4 月より女性泌尿器科医師が一人加わり 4 人で診療を行っています。高齢者の入院患者の多い科ですが全国平均在院日数より少なく社会復帰をされています。

年間 450 ～ 500 件程度手術施行し、副腎摘除、根治的腎摘除、腎尿管摘除、腎盂形成などに対しより低侵襲で短期間入院が可能な腹腔鏡手術を積極的に取り入れています。また 2024 年 5 月より当院にダビンチ Xi が導入され、糸島市、西区にお住まいの方により身近にロボット支援手術が可能となりました。尿路結石に対しては従来の身体に傷つけることなく結石を破砕する体外衝撃波結石破砕術 (ESWL) と経尿道的尿管結石碎石術 (TUL) を行っています。また高齢者男性の排尿障害の前立腺肥大症に対しては従来からの経尿道的前立腺切除術に加えて、2020 年より超高齢者や合併症のある患者でも行える低侵襲なツリウムレーザーによる経尿道的前立腺レーザー蒸散術も行っています。膀胱癌に対しては、膀胱温存のための各種治療法（経尿道的腫瘍切除、抗癌剤、膀胱注入療法など）から根治的膀胱全摘術、多剤併用化学療法、免疫チェックポイント阻害剤まで行い、根治的手術の際は QOL（生活の質）を重視した自然排尿型代用膀胱、各種尿路変更が選択可能としています。

●眼科

眼科部長 藤原 恵理子

Ⅰ：構成員

部長：藤原 恵理子

Ⅱ：臨床活動

外来：新規患者数：383 名

再来患者数：3,500 名

入院：160 名

検査：13,052 件

視力	3,537 例	視覚誘発電位検査（VEP）	1 例
眼鏡合わせ	27 例	レチナル DR 判定	162 例
屈折	1,199 例	眼球運動	69 例
角膜曲率	1,200 例	M チャート	39 例
眼圧	3,556 例	調節	5 例
眼底カメラ	716 例	超音波 A モード	17 例
OCT	1,739 例	超音波 B モード	40 例
OCTA	51 例	OA-1000	80 例
前眼部 OCT	6 例	トポグラフィー	2 例
蛍光眼底造影検査（FAG）	20 例	スペキュラー	188 例
自発蛍光眼底造影検査	14 例	中心フリッカー	9 例
視野検査（HFA）	149 例	眼球突出度（ヘルテル）	5 例
視野検査（G-P）	182 例	アデノチェック	3 例
網膜電位図（ERG）	13 例	ロービジョンケア	18 例
多局所網膜電位図（mfERG）	5 例		

手術：356 例

【外来・外来処置室で施行された手術：186 例】

アイリーア硝子体注射	84 例
ルセンチス硝子体注射	8 例
バビースモ硝子体注射	24 例
網膜光凝固術	35 例
後発白内障手術（YAG レーザー）	35 例

【手術室で施行された手術：170 例】

白内障手術	117 例
硝子体手術	6 例
硝子体手術（白内障手術と併施）	10 例
硝子体手術（眼内レンズ縫着術と併施）	6 例
ステロイドテノン嚢下注射	2 例
緑内障手術 濾過手術	1 例
線維柱帯切除術（EXPRESS）	2 例
水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術	25 例
後発白内障手術（皮質除去術）	1 例

Ⅲ：業績

なし

Ⅳ：現状と展望

眼科の入院でもっとも多い症例は白内障です。全例手術を施行しており、日帰り手術や 1 泊入院

で行います。また特殊症例（認知症やパニック障害）で局所麻酔での手術が難しい方は全身麻酔で同日両眼手術も行っています。

次に多い症例は糖尿病黄斑浮腫で抗 VEGF 薬の硝子体注射を施行しています。当院では糖尿病センターがあり今後治療症例はますます増加するものと思われます。それ以外に増殖糖尿病網膜症に対する硝子体手術も行っております。また加齢黄斑変性や網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫に対する抗 VEGF 薬の硝子体注射も行っています。

2022 年度から緑内障手術と白内障手術同時施行の水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術を始めました。その他緑内障手術も行っております。

視覚障害者が World Para Athletics に登録する際に必要となる診断書（Medical Diagnostics Form）の作成も行っております。

● 麻酔科

麻酔科部長 平井 孝直

I：構成員

部長：平井 孝直

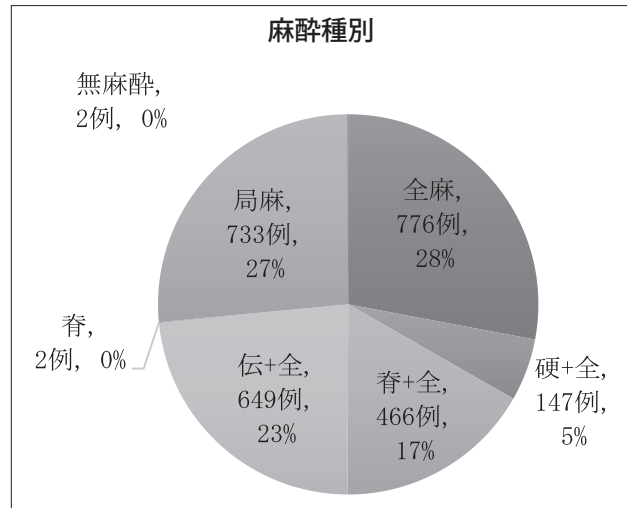
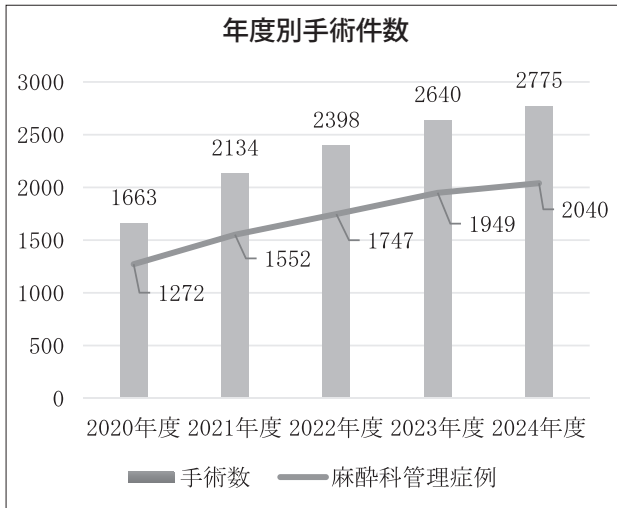
医長：戸田 志緒里

医員：渡嘉敷 彩音、栗栖 任紀子〔4-9 月〕、野口 理菜〔10-3 月〕

II：臨床活動

主に手術中の麻酔管理業務

	全麻	硬＋全	脊＋全	伝＋全	硬	脊	伝	局 (検査含む)	無麻酔	合計
外 科	19	111	1	392	0	0	0	14	0	537
整 形 外 科	44	0	190	204	0	1	0	3	0	442
脳神経外科	189	0	0	1	0	0	0	223	0	413
脳血管内科	0	0	0	0	0	0	0	42	0	42
泌 尿 器 科	130	36	259	18	0	1	0	3	0	447
形 成 外 科	94	0	15	16	0	0	0	118	0	243
腎 臓 内 科	2	0	0	2	0	0	0	82	0	86
肝胆脾内科	0	0	0	0	0	0	0	22	1	23
消化管内科	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
心臓血管外科	106	0	1	7	0	0	0	39	0	153
歯科口腔外科	128	0	0	0	0	0	0	0	0	128
眼 科	2	0	0	0	0	0	0	168	0	170
放 射 線 科	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
乳 腺 外 科	62	0	0	9	0	0	0	16	0	87
麻 酔 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	776	147	466	649	0	2	0	733	2	2,775



Ⅲ：業績

学会発表：

- 1) 脊髄くも膜下麻酔で管理した泌尿器科術後に、有病性痙攣と高水血症、神経障害を呈した一例：
平井孝直（日本区域麻酔学会第 11 回学術集会、宮城、2024. 4）

Ⅳ：現状と展望

白十字病院麻酔科は、常勤 4 名（平井 孝直、戸田 志緒里、渡嘉敷 彩音、栗栖 任紀子〔4－9 月〕、野口 理菜〔10－3 月〕）、福岡大学病院からの麻酔科応援医師の計 5 名で、主に手術中の麻酔管理をおこなっている。

手術症例および麻酔科管理症例は年々増加しており、看護師、臨床工学技士、薬剤師など多職種の連携と協力によって、手術室を運営している。2024 年度の年間手術症例数は 2,775 例、麻酔科管理症例数は 2,040 例であった。また、心臓血管外科手術症例数は 153 例（開心術 68 例）であった。

麻酔法は、全身麻酔を主におこない、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔、伝達麻酔（腕神経叢ブロックなど）を併用している。

日本麻酔科学会認定病院であり、福岡大学病院麻酔科専門医研修プログラムの専門研修施設となっている。

● 歯科・歯科口腔外科

歯科・歯科口腔外科部長 嶋村 知記

Ⅰ：構成員

部長：嶋村 知記

副部長：青柳 直子

非常勤：福岡大学医学部教授 近藤 誠二、東京科学大学歯科心身医学分野教授 豊福 明、
福岡大学医学部助手 眞野 亮介、同大学医学部助手 一木 志帆

Ⅱ：臨床活動

外来：8,058 名

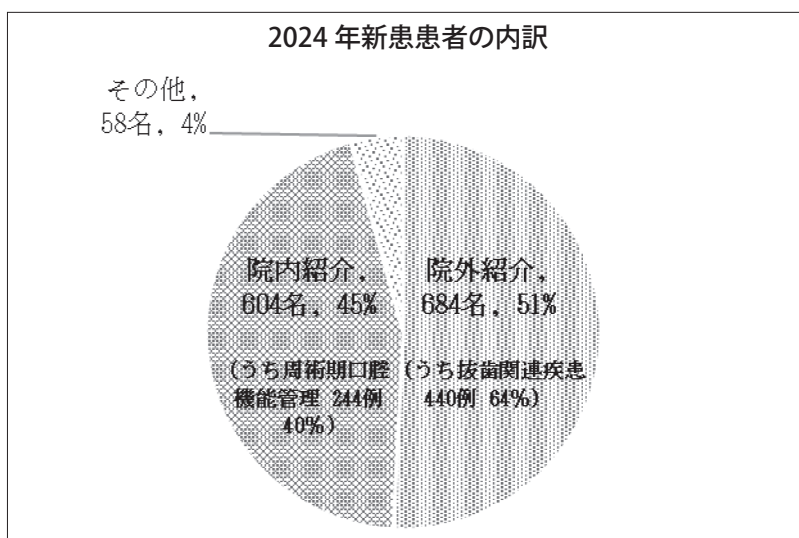
入院：166 名

検査：38 件（嚥下機能検査）

手術：128 件（手術室利用）

<過去3年間の診療データ>

	2022 年度	2023 年度	2024 年度
新患者数 (名)	1,045	1,155	1,346
院外紹介患者数 (名)	564	598	684
紹介率 (%)	54	52	51
院内紹介新患者数 (名)	496	498	604
入院患者数 (名)	116	136	166
手術件数 (手術室利用) (件)	84	100	128
周術期等口腔機能管理患者数 (名)	241	223	244
嚥下機能検査件数 (件)	35	25	38
白十字リハビリテーション病院への訪問診療患者数 (名)	734	830	746



Ⅲ：業績

学会発表：

- 1) 誤嚥性肺炎を発症した要介護高齢患者における細菌学的検討：嶋村知記・青柳直子（第33回日本口腔感染症学会総会・学術大会、福岡、2024.9）
- 2) 下顎骨周囲炎を契機に糖尿病性ケトアシドーシスを生じた一例：青柳直子・嶋村知記（第34回日本有病者歯科医療学会・総会、東京、2025.3）

Ⅳ：現状と展望

2024年度歯科診療体制は、これまで通り常勤医2名（嶋村、青柳）、非常勤医4名（近藤福岡大学医学部教授、豊福東京科学大学歯科心身医学分野教授、眞野福岡大学医学部助手、一木福岡大学医学部助手）の構成で行った。

歯科診療実績は新患者数、院外紹介患者数、入院患者数、手術室を利用した手術件数、周術期等口腔機能管理介入患者数とも堅調な伸びを示している。

歯科衛生士は近年最小の4名体制で行った。求人募集を行ってはいるものの採用難が続いているのが実情である。患者数の増加に伴い多忙を極めているため、歯科衛生士の採用は今後の重要な課題となっている。

● 心臓血管外科

心臓血管外科部長 住 瑞木

I：構成員

心臓・弁膜症センター長：江石 清行

心臓血管外科部長：住 瑞木

血管外科部長：尼子 真生

医員：江石 惇一郎

医員：徳永 峻吾

非常勤医師：尾長谷 喜久子

診療看護師：金城 章泰

II：臨床活動

低侵襲心臓手術（MICS手術）

- 当科では 低侵襲心臓手術（以下**MICS：Minimally Invasive Cardiac Surgery**）に力を入れています。**MICS**は手術創が小さく、術後の回復が早く、美容的にも優れた手術です。胸骨を切断しないので術後の運動制限もなく、回復も早いため、高齢者へもお勧めします。対象疾患は、心臓弁膜症全般（特に僧帽弁閉鎖不全症、大動脈弁疾患）、心房中隔欠損症および心臓腫瘍です。**MICS**が可能かどうかは患者さんの体型や全身状態で判断しますが、単独僧帽弁形成術、大動脈弁置換術はほぼ全例**MICS**での手術を行っています。



手術用顕微鏡 ORBEYE（オーブアイ）

- 弁膜症手術は手術用顕微鏡システム **ORBEYE（オーブアイ）**を用いて行います。**ORBEYE**はオリンパスの手術用顕微鏡の技術とソニーの美しい画像処理半導体技術が癒合した**4K3D**の手術顕微鏡システムで、これまでの肉眼や拡大鏡（手術用ルーペ）では見る事が出来なかった弁の組織学的変化までを、確認しながら精緻な手術を行う事が出来るため、良好な遠隔成績が得られます。（500円玉位大きさの心臓の弁を55インチのモニターに写し、手術を行います。）

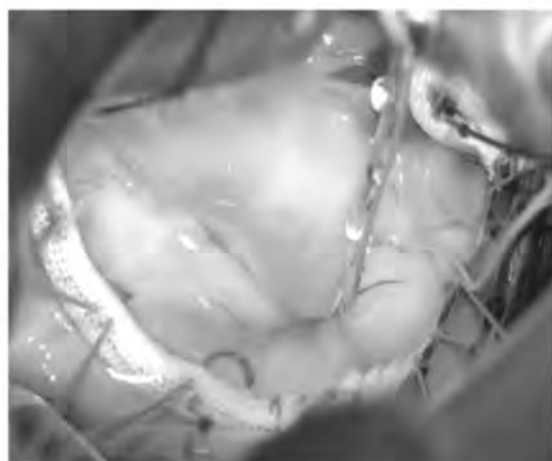
GAME CHANGING 4K 3D IMAGING TECHNOLOGY



ORBEYEにて観察した大動脈弁および僧帽弁



大動脈弁輪拡張症に対する
David手術および大動脈弁形成術



僧帽弁閉鎖不全症に対するMICSでの
僧帽弁形成術

診療実績：2024年度

○心大血管手術数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
弁膜症	15	26	30	46 (併施5)	42	45
MICS	11	18	17	28	21	29
僧帽弁形成術	7	15	15	23	18	25
大動脈弁置換術	4	1	2	4	3	4
冠動脈 バイパス手術	13(併施2)	9(併施3)	12(併施1)	35(併施6)	21(併施6)	23(併施4)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
Off-pump On-pump beating Conventional	10 1(EF35%↓) 2(併施)	5 1(EF35%↓) 3(併施)	11 0 1(併施)	28 1(EF25%↓) 6(併施)	10 5(EF35%↓) 6(併施)	19 0 4(併施)
胸部大動脈瘤	7	1	17	10	13	9
TEVAR			11	6	7	4
その他	2	2 (MICS-腫瘍摘除)	2	1 (MICS-腫瘍摘除) 1 心膜剥離		2 (MICS-腫瘍摘除)
心大血管総数	33	35	57	87	69	73
入院死亡数(手術)	2(0)	1(0)	3(1)	1(0)	2(1)	2(2)

○末梢血管手術数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
腹部大動脈瘤	2	4	24	15	13	13
(EVAR)			(17)	(12)	(6)	(14)
心臓ドレナージ	0	3	0	0	0	0
下肢バイパス術	14	14	14	3	7	7
血管内治療	8	17	25	22	38	32
動脈血栓除去術	7	7	5	3	5	5
下肢静脈瘤 (レーザー)	17(16)	14(10)	18(12)	7(5)	7(6)	4(4)
その他血管	8	23	17	16	14	10
その他						7
末梢血管手術+etc	58	81	100	64	86	80
入院死亡数(手術)	0	0	0	0	2(1)	2(2)

施設認定

- ・心臓血管外科専門医認定機構基幹施設（2022年1月1日より）
- ・日本脈管学会認定研修関連施設
- ・下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施施設
- ・胸部ステントグラフト実施施設（2021年5月より）
- ・腹部ステントグラフト実施施設（2021年4月より）

Ⅲ：業績

【著書】

- 1) 心臓手術ビデオアトラス 手術手技と画像診断（文光堂 2025年2月7日発行）
江石清行、尾長谷喜久子

【論文発表】

- 1) Current management of tricuspid regurgitation: a focus on the spiral suspension approach

- Kiyoyuki Eishi, Junichiro Eishi, Ichiro Matsumaru, Mizuki Sumi, Kikuko Obase, Takashi Miura General Thoracic and cardiovascular Surgery 72:359-367, 2024
- 2) Efficacy and Safety of Edoxaban in Anticoagulant Therapy Early After Surgical Bioprosthetic Valve Replacement: Rationale and Design of the ENBALV Trial
Chisato Izumi, Masashi Amano, Satsuki Fukushima, Hitoshi Yaku, Kiyoyuki Eishi, Taichi Sakaguchi, Manabu Minami, Haruko Yamamoto, Kaori Onda, Katsuhiko Omae Cardiovascular Drugs and Therapy, 21 May 2024
- 3) AORTIC LEAFLET ADAPTATION RELATIVE TO AORTIC ROOT DILATATION
Rosy Haruna Nishizawa, Kikuko Obase, Kiyoyuki Eishi, Chisa Eguchi, Daisuke Sato, Tsuyoshi Yoshimuta, Takako Minami, Takashi Miura, Koji Maemura
Journal of the American College of Cardiology Volume 83, Issue 13, Supplement 2171, 2024
- 4) Clinical effects of direct oral anticoagulants in elderly patients with a bioprosthetic valve and atrial fibrillation
Masashi Amano, Misa Takegami, Makoto Miyake, Takeshi Kitai, Tomoyuki Fujita, Tadaaki Koyama, Hidekazu Tanaka, Kenji Ando, Tatsuhiko Komiya, Masaki Izumo, Hiroya Kawai, Kiyoyuki Eishi, Kiyoshi Yoshida, Takeshi Kimura, Ryuzo Nawada, Tomohiro Sakamoto, Yoshisato Shibata, Toshihiro Fukui, Kenji Minatoya, Kenichi Tsujita, Yasushi Sakata, Kumiko Sugio, Kunihiro Nishimura, Yutaka Furukawa, Chisato Izumi
International Journal of Cardiology Volume 413 132375, 2024
- 5) Successful mitral repair for central bridge double-orifice mitral valve via right minithoracotomy
Kazuki Hisatomi, Shunsuke Taguchi, Ichiro Matsumaru, Takashi Miura, Kiyoyuki Eishi
JTCVS Techniques Volume 25 67-69, 2024
- 6) Successful Tricuspidization of Bicuspid Aortic Valve Complicated by Anomalous Coronary Artery
Kazuki Hisatomi, Kiyoyuki Eishi, Ichiro Matsumaru, Kikuko Obase, Takashi Miura
Annals of Thoracic Surgery Short Reports Volume 3, Issue 1 57-59, 2025
- 7) 冠動脈バイパス術時に発見された心嚢内横隔膜ヘルニアの1例
横瀬昭豪、橋詰浩二、田倉雅之、江石惇一郎、尾立朋大
胸部外科Vol.78 No.3: 208-211, 2025

【学会発表】

- 1) Mid-term results of Sleeve procedure for repairing aortic regurgitation with mild to moderate aortic root dilatation
Junichiro Eishi, Ichiro Matsumaru, Kikuko Obase, Kiyoyuki Eishi, Takashi Miura
AATS aortic Symposium, New York, 2024.4
- 2) ハイブリッド手術室で拡張するステントグラフト治療
尼子真生
第52回日本血管外科学会学術総会（コーヒーブレイクセミナー），大分，2024.5
- 3) 低侵襲心臓手術（MICS手術）における両側上腕（腋窩）動脈送血の有用性
住瑞木、江石惇一郎、徳永峻吾、尼子真生、尾長谷喜久子、江石清行
第8回日本低侵襲心臓手術学会学術集会，大分，2024.7

- 4) MICS-MPにおけるRing Adapterの有用性について
江石惇一郎、住瑞木、尼子真生、徳永峻吾、若松佳代、金城章泰、江石清行、和田秀一
第8回日本低侵襲心臓手術学会学術集会，大分，2024.7
- 5) Bileaflet Prolapse (Exoscopic Operation)
江石清行
2024AATS/JATS Mitral Conclave（第77回日本胸部外科学会定期学術集会），石川，2024.11
- 6) Aortic Root and Valve Cusp Reconstruction Based on CT Analysis
Kiyoyuki Eishi, Kikuko Obase, Ichiro Matsumaru, Junichiro Eishi, Takashi Miura
第14回日本心臓弁膜症学会，長崎，2024.12
- 7) Tricuspidization for Congenital Unicuspid Aortic Valve Using Repair of Two Cusps and Pericardial Reconstitution of the Right Coronary Cusp
Junichiro Eishi, Takashi Miura, Mizuki Sumi, Mau Amako, Syungo Tokunaga, Akihiro Kinjyo, Ichiro Matsumaru, Kikuko Obase, Hideichi Wada, Kiyoyuki Eishi
第55回日本心臓外科学会学術総会，山口，2025.2
- 8) Characteristics and Mid-Term Outcomes of Aortic Valve Repair in Patients Under 30 Years Old: A Comparative Study with Patients Aged 30 and Older
Junichiro Eishi, Takashi Miura, Ichiro Matsumaru, Kikuko Obase, Kiyoyuki Eishi
第55回日本心臓外科学会学術総会，山口，2025.2
- 9) Pericardial Patch Cleft Commissuroplasty for Mitral Regurgitation After Partial Atrioventricular Septal Defect Repair: A Case Report
Junichiro Eishi, Mizuki Sumi, Mau Amako, Syungo Tokunaga, Akihiro Kinjyo, Kiyoyuki Eishi, Hideichi Wada
第55回日本心臓外科学会学術総会，山口，2025.2

【講演】

- 1) Edwards人工弁を使用した手技の技術指導
江石清行
Edwards Hands on Series～Learn from Mitral Masters～，東京，2024.4.13
- 2) 僧帽弁形成術の基本手技
江石清行
The transfer of knowledge in Sendai－Procedure Training Program－，仙台，2024.6.7
- 3) 再現性の高いDurable僧帽弁形成術
江石清行
Mitral Valve Workshop in Shinshu～Learn from Mitral Masters～，長野，2024.7.27
- 4) 僧帽弁の解剖及びPhysio Flexを用いた手技の技術指導(Restriction Technique含む)
江石清行
Edwards Heart Valve Workshop－Procedure Training Program－，東京，2024.12.6
- 5) 低心機能症例に対する弁膜症手術
江石清行
第49回循環器内科・外科フォーラム，大阪，2025.3.8

【座長・司会・コメンテーター】

1) 第10回九州心臓弁膜症カンファレンス, 長崎, 2024.5.18

江石清行

2) 弁形成セミナー日本心臓弁膜症学会@web, 宮崎, 2024.6.29

江石清行

3) 地域で診る循環器疾患, 福岡, 2024.9.20

江石清行

4) 弁形成セミナー日本心臓弁膜症学会@オンサイト, 長崎, 2024.12.20-21

江石清行

IV：現状と展望

2021年、西部市場跡地に新病院を設立し、心臓・弁膜症センターを立ち上げました。

心臓病（心疾患）は、悪性新生物（がん）に次ぐ日本人の死因で、全死亡者に占める割合は15%を占め、日本人の6～7人に1人は心臓病で亡くなっていることとなります。また心臓病のうち、約20%から30%が心臓弁膜症であり、人口高齢化を背景に増加しています。

心臓・弁膜症センターでは、あらゆる心臓病（心臓弁膜症、虚血性心疾患、不整脈）そして全身の血管（大動脈、末梢動脈、静脈系）を総合的、効率的に診療し、当院で治療が完結できることを目標としています。内科医・外科医が垣根を越え、コメディカルスタッフ（薬剤師、看護師、臨床工学技士、臨床検査技師、リハビリ師等）とカンファレンスをおこない、各々の得意な分野で、または協同し、その患者さんに合った高度な医療を提供いたします。

2022年4月より、前長崎大学病院 心臓血管外科の江石 清行（えいし きよゆき）名誉教授を心臓・弁膜症センターのセンター長としてお招きし、精緻で高度な心臓弁膜症手術（大動脈基部形成術；David手術やtotal root remodelling, 低侵襲心臓手術；MICS手術、Ebstein病に対する三尖弁形術；Leafletizationやspiral suspension等）をおこなっています。（江石 清行医師；2022年3月に長崎大学病院 心臓血管外科教授を定年退官し、名誉教授となる。これまで心臓・弁膜症手術4500例の手術件数を経験、2020年に発表された日本循環器学会 弁膜症ガイドライン作成の班長）

2024年度はMICS手術を含めた心臓大血管手術を73例、（うち開心術を64例、胸部大動脈瘤に対するステント治療4例）、ステント治療を含めた腹部大動脈瘤19例を含めた末梢血管手術、その他の手術を81例おこないました。救急患者に対する緊急手術も多数おこなっております。

多くの手術をきっちりとおこなう事で、手術室、ICU、病棟、スタッフともにいつも通りの準備、治療をおこなう事が可能になりました。白十字病院コメディカルの総合力の高さによるものと思います。これからも病気になり不安を抱えている患者さんに対し、スタッフ一同で親身に向き合い、きちんとした治療をおこない、信頼される関係を築いて行けるよう心掛け、福岡の心臓・弁膜症の治療を担う責任と確かな実績を目標として掲げ、その実現のために新たな医療体制の構築をおこなっていきます。

5. 看護部

看護部長 佐伯 美穂子

I：看護部構成員（6月1日時点）

部長1名・次長3名・課長14名・主任21名

平均年齢：36.4歳 平均勤続年数6.9年

	常勤	非常勤
看護師	300	22
救急救命士	3	0
介護福祉士	6	3
ケアスタッフ	14	18
病棟クレーク	2	11
外来アシスタント	2	30
産休・育休者	9	2

看護師離職率

	正規雇用看護師離職率（全国平均）	新人看護師離職率（全国平均）
2020年度	11.14%（10.6%）	7.1%（8.2%）
2021年度	13.68%（11.6%）	0%（10.3%）
2022年度	18.27%（11.8%）	20%（10.2%）
2023年度	16.43%（11.3%）	5.8%（8.8%）
2024年度	12.56%（調査中）	9.3%（調査中）

II：看護部活動

1. 病床と看護職員配置基準

病床機能	許可病床	施設基準	職員配置
急性期病棟	225床	7対1入院基本料	看護師：7対1
		急性期看護補助加算 25対1 夜間 100対1 急性期看護補助体制加算 看護補助者充実体制加算 看護職員夜間配置加算 12対1	看護補助者：25対1
ICU	12床	特定集中管理料 5 早期離床・リハビリテーション加算	看護師：常時 2対1
SCU	6床	脳卒中ケアユニット入院医療管理料	看護師：常時 3対1
地域包括 ケア病棟	45床	地域包括ケア病棟入院料 2 看護職員配置加算（50対1以上）	看護職：13対1

その他施設基準：認知症ケア加算 2 排泄自立支援加算

2. 日本看護協会専門認定看護師

がん看護専門	1 名	クリティカルケア	2 名
感染管理	2 名	脳卒中リハビリテーション	2 名
緩和ケア	2 名	脳卒中看護	1 名
皮膚排泄ケア	2 名	手術看護	1 名
がん化学療法	1 名	看護管理者	2 名

特定行為修了者：5 名

2024 年度専門認定看護師による勉強会の内容と受講数

研修日	研修名	講師	参加数	
			院内	院外
4 月 11 日	ケアの基本となる臨床倫理について学ぼう	浜谷千枝子	45	83
5 月 14 日	脳卒中画像アセスメント・廃用症候予防	野口 博嗣 大森 睦子	58	38
6 月 11 日	食中毒を予防しよう	入江 育美	30	19
7 月 9 日	せん妄のケアを学ぼう	与座 優	38	40
8 月 20 日	看護におけるコミュニケーション	浜谷千枝子	33	40
9 月 10 日	がん化学療法看護	熊本 良子	38	17
10 月 8 日	ポジショニングの基本とポイント	岩田 真紀	44	23
11 月 12 日	周術期の体温管理を学ぼう	森友 高介	46	16
12 月 10 日	意思決定支援を学ぼう	浜谷千枝子	60	79
1 月 14 日	急変前兆・急変対応	牛島めぐみ	48	35
2 月 12 日	消化器症状の症状緩和を学ぼう	馬場 聖子 吉田奈津美	30	9

3. 法人内認定 24 名

領域	認定数	受講数	領域	認定数	受講数
説明支援ナース	6	0	ケア技術	3	2
皮膚ケア	4	0	脳卒中リハ看護	1	0
緩和ケア	0	0	急性期看護	3	0
感染管理	0	1	がん化学療法	3	0
NST	3	0	認知症ケア	1	0
周術期看護	—	3	糖尿病療養指導	—	3

2024 年度より、周術期看護・糖尿病療養指導の 2 領域が新たに開設された。

4. 資格取得者

ACLS	26 名	看護管理（ファースト）	14 名
ICLS	29 名	看護管理（セカンド）	7 名
ISLS	11 名	看護管理（サード）	2 名
BLS	66 名	実習指導講習会	11 名
日本糖尿病療養指導士	2 名	新人看護職員研修責任者	4 名
福岡糖尿病療養指導士	8 名	新人看護職員教育担当者	12 名
呼吸療法認定士	5 名	医療安全管理者研修	14 名

認知症ケア専門士	3名	心不全療養指導士	1名
栄養サポート	1名	心電図検定3級	8名
消化器内視鏡技師	3名	心電図検定2級	1名
上級臨床倫理認定士	2名	心電図検定1級	1名
ユマニチュード入門	57名	インターベーションエキスパートナース	2名

5. 看護部委員会活動

委員会名	活動目的	委員会メンバー	支援
教育委員会	看護部職員としての役割と責任を自覚し、主体的に看護実践・自己研鑽できる人材の育成を目的に、段階的な教育計画、実施、評価のプロセスを支援する	浜谷課長・檜崎課長・岩田主任・吉村主任・池田主任・月野主任	金子次長
退院支援委員会	看護部職員が退院支援の知識を深め、患者個々にあった支援ができるようシステムを構築する	中里課長・室井課長・田中主任・成松主任・住山主任・財津主任	
安全推進委員会	セーフティーマネジメントを推進し安全文化を醸成する	樋口課長・三島課長・吉村課長・大森主任・島本主任・松田主任・平田主任	吉野次長
感染対策委員会	院内感染対策委員会の方針に基づき部内の感染防止衛生管理の徹底・普及を推進する	ネルソン課長・筒井課長・山口課長・山下主任・中原主任・入江主任・森友主任	
看護の質管理委員会	看護過程の展開及び看護記録からケアプロセス評価を行い看護の質向上を図る（記録監査・パス・必要度）	馬場課長・三村課長・南課長・掛屋主任・松崎主任・牛島主任・宮本主任・瀧本主任	藤田次長

6. 看護部レベル別（ラダー別）研修計画及び参加実績

開催日		研修項目	参加数	備考
4月2日～5日	レベル 新人	入職時研修	33	
4月30日		1か月フォローアップ研修（フィジカルアセスメント、ケア技術、振り返りのワーク）	33	
6月20日		3か月フォローアップ研修（急変対応）	34	※外部3名参加
8月29日		6か月フォローアップ研修（社会人基礎力）	32	※外部1名参加
9月19日		5か月フォローアップ研修（I-SBARCを使った報告、KYT）	32	※外部2名参加
3月11日		12か月フォローアップ研修（リフレクション、看護観の発表）	30	
5月10日	レベル I	第1回2年目フォローアップ研修（スキルアップの方法）	30	
7月18日		第2回2年目フォローアップ研修（フィジカルアセスメント）	30	
10月9日		第3回2年目フォローアップ研修（経験値を語る）	29	
2月20日		第4回2年目フォローアップ研修（ケーススタディ発表）	28	

開催日		研修項目	参加数	備考
5月30日	レベルⅡ	看護倫理 A	38	
12月19日		看護倫理 A フォローアップ研修	35	
6月20日	レベルⅢ	看護教育研修	14	
7月31日		退院支援研修	17	
9月11日		看護倫理 B	12	
3月21日		次年度教育担当者研修	31	
7月3日	レベルⅣ	管理研修	3	
8月5日		意思決定支援研修	2	
1月31日		看護倫理 C 研修	3	
3月6日		看護管理フォローアップ研修	3	

7. 地域活動

日時	活動内容	担当者
5/24～5/26	第33階日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会（実行委員）	岩田 真紀
6月～7月	福岡市医師会看護専門学校非常勤講師（倫理学）	佐伯 美穂子
6/6・7/18	広島国際大学看護学部チュートリアル講師 （患者の尊厳・看護師の役割）	浜谷 千枝子 与座 優
7/4	白十字リハビリテーション病院倫理研修講師	浜谷 千枝子
7/7	福岡糖尿病療養指導士認定会 フットケア指導	吉村 節子
7/24	TENA セミナー講師（ケアの基本となる臨床倫理を学びましょう）	浜谷 千枝子
8/3	山口県栄養士会生涯教育実務研修会講師	岩田 真紀
8/9	全国高校総合体育大会救護所要員	掛屋 かおり
8/28	福岡市医師会看護専門学校非常勤講師（マナー）	金子 まりこ
9/28	福岡県看護協会まちの保健室	吉村 節子
10/4	一般社団法人福岡市薬剤師会講師 （チームで取り組む ACP）	浜谷 千枝子
10/6	日本がん看護学会 9 地区会研修会講師（高齢がん患者がその人らしく過ごせるために、治療や療養に関する倫理について考える）	浜谷 千枝子
10/13	石丸校区体育祭救護派遣	須賀 宏明
10/14	サロンめいゆう参加	藤田 美保
10/23	救急隊員シミュレーション訓練	浜本 健太郎 菅 卓也
11/1～2	日本肺癌学会 PAP セミナーパネリスト （肺癌の支援を知る：看護師の立場から）	浜谷 千枝子
11/18	福岡ハートネット病院研修講義 （患者中心の医療・ケアにつなげるための臨床倫理）	浜谷 千枝子
1/8	原三信病院看護部呼吸ケア研修講師	牛島 めぐみ
1月～2月	福岡市医師会看護専門学校非常勤講師（慢性期・終末期）	浜谷 千枝子
2/12	看護小規模多機能 ゆい運営会議	ネルソン咲子
2/26	みんなで話そうー看護の出前授業	中田 尚子
3/19	千鳥橋病院倫理研修講師（ACP について）	浜谷 千枝子
通年	福岡県看護協会職能 I 委員会	佐伯 美穂子
通年	福岡県看護連盟幹事（会計係）	金子 まりこ

8. 看護師養成校実習受け入れ

学校名	領域	期間	人数
福岡市医師会看護専門学校	基礎看護学Ⅰ	5月1日～5月2日	69名
	成人看護学Ⅱ	5月8日～6月18日	19名
	成人看護学Ⅰ	6月18日～7月24日	13名
	統合Ⅱ	10月15日～11月8日	8名
	基礎看護学Ⅱ	9月2日～10月11日	16名
	成人看護学Ⅱ（再実習）	12月2日～12月6日	4名
	老年看護学Ⅱ（再実習）	12月2日～12月6日	3名
	成人看護学Ⅰ	1月27日～3月5日	11名
	成人看護学Ⅱ	1月27日～3月5日	13名
	基礎看護学Ⅰ	1月14日～1月22日	16名
福岡看護大学	統合実習	6月3日～6月14日	2名
	成人・高齢者看護学Ⅲ	9月30日～10月11日	5名
	成人・高齢者看護学Ⅱ	2月3日～2月21日	10名
	成人・高齢者看護学Ⅰ	2月27日・28日	33名
日本赤十字九州国際看護大学	慢性看護学Ⅲ	1月16日～1月31日	6名
麻生看護大学校	基礎看護学	8月7日・8日	6名
	成人看護学	11月27日・28日	6名
	老年看護学	12月23日・24日	6名
福岡県私設病院協会看護学校	成人看護学Ⅰ	7月16日～9月13日	14名
	成人看護学Ⅰ	10月7日～10月18日	4名
	成人看護学Ⅱ	9月24日～10月3日	4名
			268名

インターンシップ受け入れ

開催日	参加数
2025年3月18日（火）	24名
3月25日（火）	15名

Ⅲ：業績

学会発表

日時	学会	演題名	発表者
6/8	第11回日本CNS看護学会	専門・認定看護師のコンサルテーションスキル向上に向けた取り組み	浜谷千枝子
6/21	第26回医療マネジメント学会学術総会	障がい者を含めた非身体介護チームによる看護補助業務のタスクシフトの取り組み	佐伯美穂子
9/28	第6回ユマニチュード学会総会	急性期病院におけるユマニチュード®の普及と今後の課題	樋口 文子
12/15	第56回九州人工透析研修会総会	A病院の維持透析患者を対象とした腎臓リハビリテーションの取り組み	日隈 萌衣
3/16	第12回日本臨床倫理学会年次大会	POLSTによる延命処置不希望の事前指示を有する終末期乳がん患者のトルソー症候群の治療に対する意思決定支援	浜谷千枝子

IV：現状と展望

2024年度より、救急救命士3名が採用され救急外来に配置されました。病院全体では、COVID-19感染症のパンデミックから徐々に落ち着きを取り戻し、面会も再開することができました。病床稼働も順調に推移するようになりました。看護部では、様々なニーズに対応するため、救急センター・ICU一元化（2025年3月16日より）・がん化学療法認定看護師による化学療法室血管確保の開始・清拭タオルのディスポ化取り組みました。看護師・ケアスタッフの職務遂行レベルの見直し、看護記録マニュアルの改訂・標準看護計画を見直し、看護師時間外勤務の削減に努めました。さらに、他部門からも協力を得ることができ、昨年度1人当たり3.94時間が、3.04時間まで削減されました。今後も働きやすい環境を整えながら、地域医療に貢献できるようにつとめていきたいと思っています。

6. 感染制御部

I：構成員

部長：井手 均

課長：山口 佐月

II：臨床活動

感染制御部部長 井手均、感染制御部課長 山口佐月（ICN、院内感染管理者）、薬剤部主任 八木美里、臨床検査技術部和方康貴を中心とし、病院感染対策委員会と各部会にて活動を行った。本年度の目的は、病院内で問題となる感染症の発生状況を早期に把握し、感染拡大を防止することで、患者及び職員を守り、また医療経済の面でも貢献することとした。年間を通した定型業務としては、環境整備、手指衛生、抗菌薬適正使用などのコンプライアンスに関する巡回、マニュアルの整備、院内全体および部署ごとの研修、指導、患者や職員向けの広報活動、各種ワクチンの接種などを行った。抗菌薬適正使用については、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）での活動を継続し、本年度は 126 症例に介入を行った。

新型コロナウイルス感染症については、222 症例の入院治療、インフルエンザについては、88 名の入院治療を行った。院内での感染対策については、毎月の感染対策委員会にて情報共有と院内に向けては、毎週情報発信し啓発活動を行った。院内発生、水平伝播が生じたが、発生初期に検査を行って感染者を隔離し、診療に対する影響を最小限にとどめ、入退院制限を行うことはなかった。感染経路は不明であることが多かったが、職員による持ち込みが疑われる事例もあり、再発防止が必要と考えられた。

施設基準に関しては、感染対策向上加算 1 開催のカンファレンスに年 3 回カンファレンスに参加し感染対策向上加算 2（入院初日 175 点）と連携強化加算（入院初日 30 点）、サーベイランス強化加算（入院初日 5 点）の維持に努めた。ICT 交流会、サーベイランス報告会へ参加した。2024 年 12 月に感染対策向上加算 1 を取得し、感染対策向上加算 3 の施設とカンファレンスを実施し感染対策向上加算 1 と相互チェックを実施した。

7. 薬剤部

I：構成員

部長：高津 宏典

係長：中村 恭子、水之江 峻介

主任：香月 舞、田川 慎二、八木 美里

薬剤師：21 名

アシスタント：6 名

II：臨床活動

1) 病棟業務

- ・処方提案件数：1,356 件（採択数：1,264 件、採択率：93.2%）
- ・薬剤管理指導料 1：2,799 件
- ・薬剤管理指導料 2：5,053 件
- ・麻薬管理指導料：49 件
- ・退院時薬剤情報管理料：2,143 件
- ・退院時薬剤情報連携加算：160 件
- ・薬剤総合評価調整加算：7 件
- ・薬剤調整加算：5
- ・がん患者管理指導料：17 件

2) 外来業務

- ・外来腫瘍化学療法診療料 1：911 件
- ・連携充実加算：431 件
- ・がん患者管理指導料：86 件

3) 中央業務

業務内容		件 数
調剤（院内）	外 来	5,750 件
	入 院	140,953 件
	注 射	252,344 件
持参薬鑑別		5,318 件
持参薬代替薬提案		214 件
抗がん剤調製		1,126 件

4) 薬学部実務実習受け入れ

2024 年 8 月 19 日～11 月 3 日

福岡大学：3 名、第一薬科大学：1 名

Ⅲ：業績

【講演】

1. フォーミュラリ最近の話題
高津宏典（第9回福岡市西部地区薬薬連携講演会、福岡、2024. 6. 4）
2. 胃瘻管理の薬剤師の関わり
福田 舜（第7回福岡 PEG・半固形化栄養法研究会、福岡、2024. 6. 29）
3. 服薬アドヒアランス向上のために薬剤師ができること
高津宏典（第2回 糸島エリア CKD 医療連携を考える会、福岡、2024. 7. 18）
4. 当院での心不全に対する取り組み
福田 舜（福岡地区勤務薬剤師会 中小病院委員会研修会、福岡、2024. 9. 18）
5. 超高齢化社会を支える薬局薬剤師と病院薬剤師の協働
高津宏典（吉南薬剤師会研修会、山口、2024. 10. 24）
6. これからの地域医療における薬学的管理と薬薬協働
高津宏典（第62回福岡県病院診療所薬剤師研修会、福岡、2024. 11. 8）
7. 白十字病院におけるがん化学療法の取り組みについて
中村郁勝（白十字病院薬剤部主催 がん薬薬連携 2024、福岡、2024. 12. 3）
8. 術後疼痛管理チームにおける薬剤師の関わり～当院における現状と課題～
濱 綾乃（第2回 周術期管理における薬剤師の役割を考える会、福岡、2025. 2. 7）
9. 当院における医薬品情報の活用 – 医薬品採用、フォーミュラリの現状と課題–
高津宏典（第8回 FINDAT オンラインセミナー、東京、2025. 2. 20）
10. 薬薬連携によるフォーミュラリの進展
高津宏典（福岡西部薬薬連携スキルアップセミナー、福岡、2025. 3. 11）
11. これらからの薬薬連携 デジタルツールのコラボレーション
高津宏典（東和薬品オンラインセミナー、福岡、2025. 3. 27）

【学会】

1. 当院の腎臓病外来における動画を用いた薬剤師の関わりと今後の展望
内海紗良（第34回日本医療薬学会年会、千葉、2024. 11. 4）
2. 服薬阻害要因スクリーニングシートを用いたアドヒアランス向上にむけた当院の取り組み
福田 舜（第6回福岡県薬剤師会学術大会、福岡、2025. 2. 16）
3. 当院の腎臓病外来における動画を用いた薬剤師の関わりと今後の展望
小笹佑輔（福岡、2025. 2. 16）
4. 白十字病院におけるがん薬物療法体制充実加算算定と取り組みについて
水之江峻介（横浜、2025. 3. 15）

【院外業務】

1. 福岡県病院薬剤師会理事 高津宏典
2. 福岡県病院薬剤師会精神科薬物療法研修会世話人代表 高津宏典
3. 福岡地区勤務薬剤師会理事 高津宏典
4. 腎と薬剤研究会 世話人 高津宏典

5. 福岡地区勤務薬剤師会中小病院委員会 委員 中村恭子
6. 日本腎臓病薬物療法学会代議員 内海紗良

IV：現状と課題

2024 年度は薬学生対象の薬剤部インターンシップの効果もあり薬剤師を定数まで確保することができました。薬剤師の定数が充足したことにより、業務整理とデジタルツールの有効活用により業務効率化と業務拡大、勤務体制の見直しによる働き方改革、学会発表等の学術活動を活発化することができました。業務拡大としては、手術室における薬剤管理、術後疼痛管理チームへの参画、外来がん化学療法患者を対象とした薬剤師外来を開始しました。これまで行っていた薬剤管理指導料の算定件数は前年度と比較して 1.5 倍となりました。

全国的に薬剤師不足が問題となっており、中でも病院薬剤師不足は深刻です。法人本部がある長崎県や福岡県、特に筑豊や筑後地区、福岡市の一部でも病院薬剤師が不足しており、病院運営に影響が出ている施設もあると聞いています。薬剤師不足、偏在解消に向けた国策として第 8 次医療計画に薬剤師確保が盛り込まれ、各都道府県で薬剤師不足、偏在解消に向けた様々な取り組みが開始されました。取り組みの 1 つとして、薬剤師が不足している医療機関への薬剤師出向事業があり、準備が進んでいます。先行して薬剤師出向事業を開始した地域では受け入れ施設での病棟業務ができるようになった、診療報酬の算定も増えたといった、医療の質の向上と経済的効果が報告されています。また、出向した薬剤師は地域医療を学び、薬剤師業務の原点を学び、所属施設での業務に活かすことができるといった効果もあるようです。このように、出向元および出向先、さらには出向する薬剤師においてもメリットがあることから、薬剤師出向事業は今後拡大していくものと思われます。

当院では 2025 年度、グループ病院の佐世保中央病院へ週替わりでの薬剤師出向（部分出向）事業を計画しています。白十字病院とは異なる医療を経験することは医療人にとって大きな財産になります。佐世保中央病院での経験が白十字病院の業務に活かせる機会にもなります。薬剤師のスキルアップ、薬剤部のさらなる発展においても大切な事業と考えています。

8. 放射線技術部

I：構成員

部門長

課長：川口 高志

係長：山口 広之

主任：田中 良斉、立山 貴士

副主任：前田 悠葵

森田 健太郎、熊谷 衛、山川 雄大、佐藤 圭紀、中島 碧泉

中野 優、平山 健心、下田 泰輝、片山 陽菜、貞包 友希、丸山 光介

受付事務：吉川 京美 検査アシスタント：山田 末子 看護師：桧崎 未菜

II：臨床活動

【資格者一覧】

第1種放射線取扱主任者1名、マンモグラフィ撮影認定技師3名、
血管造影・インターベンション専門診療放射線技師1名、放射線管理士6名、
放射線機器管理士5名、医用画像情報精度管理士4名、X線CT認定技師2名、
救急撮影認定技師3名、放射線被ばく相談員2名

【放射線技術部検査件数・2024年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般撮影	2,458	2,625	2,445	2,662	2,384	2,464	2,562	2,375	2,540	2,428	2,323	2,587	29,853
CT	1,242	1,287	1,197	1,332	1,183	1,260	1,269	1,228	1,298	1,209	1,182	1,274	14,961
MRI	413	405	349	366	344	358	364	365	366	344	321	380	4,375
RI	42	49	37	39	35	34	24	23	38	39	29	35	424
ANGIO	38	39	41	30	31	36	38	37	34	29	28	23	404
心カテ	28	24	28	19	20	26	34	35	31	40	42	42	369
胃透視・小腸透視	0	3	4	1	3	2	2	4	6	2	1	4	32
注腸	4	3	0	1	1	0	3	0	0	2	0	0	14
ERCP	29	25	23	15	22	27	29	25	21	17	15	19	267
ミエロ	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
IVP・DIP	1	2	0	6	2	1	0	0	1	0	1	0	14
UG・CG	2	2	2	6	0	1	2	2	0	3	4	1	25
マンモグラフィ	59	91	92	63	45	91	91	82	95	75	48	80	912
術中イメージ	43	54	35	47	36	32	50	29	36	36	34	41	473
その他透視検査	40	50	56	62	47	39	37	42	67	69	61	46	616
骨密度（骨塩定量）	69	62	52	68	76	80	81	72	78	85	78	74	875
健診 胸部	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	9
〃 胃透視	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
〃 マンモグラフィ	6	8	17	53	3	21	31	44	9	8	9	17	226
脳ドック	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	4,475	4,729	4,378	4,771	4,232	4,472	4,617	4,363	4,629	4,386	4,176	4,623	53,851

【院外検査依頼数・2024 年度】

	CT 院外検査依頼数			MRI 院外検査依頼数			RI 院外検査依頼数		
		総件数	依頼率 (%)		総件数	依頼率 (%)		総件数	依頼率 (%)
4 月	55	1,230	4.5%	25	412	6.1%	10	32	31.3%
5 月	40	1,241	3.2%	23	387	5.9%	9	44	20.5%
6 月	39	1,293	3.0%	19	379	5.0%	14	37	37.8%
7 月	45	1,246	3.6%	13	368	3.5%	6	35	17.1%
8 月	22	1,241	1.8%	17	379	4.5%	9	26	34.6%
9 月	42	1,191	3.5%	22	387	5.7%	8	33	24.2%
10 月	43	1,336	3.2%	24	386	6.2%	8	41	19.5%
11 月	35	1,222	2.9%	14	368	3.8%	6	44	13.6%
12 月	26	1,357	1.9%	18	386	4.7%	8	39	20.5%
1 月	25	1,283	1.9%	20	365	5.5%	8	33	24.2%
2 月	33	1,220	2.7%	22	391	5.6%	8	26	30.8%
3 月	39	1,239	3.1%	19	395	4.8%	12	41	29.3%
合計	444	15,099	2.94%	236	4,603	5.13%	106	431	24.59%

Ⅲ：業績

○第 10 回福岡県診療放射線技師会学術大会（2024 年 6 月）

- ・「脳動脈瘤治療最前線 CT での画像支援」 山口広之

○第 1 回日本放射線医療技術学術大会（2024 年 11 月）

- ・「当院における STAT 画像報告体制の導入と課題」 熊谷 衛

○第 19 回九州放射線医療技術学術大会（2024 年 12 月）

- ・「Dual Energy CT を用いた慢性硬膜下血腫 / 液貯留腔の発生機序に対する画像支援」
山口広之

- ・「当院における大腸 CT 検査のタスクシフトの取り組み」 熊谷 衛

○2024 年度白十字会放射線技術部 Institute（2023 年 3 月）

- ・「仰臥位膝関節側面撮影におけるプレショットの有用性と今後の展望」 平山健心
- ・「当院における大腸 CT 検査のタスクシフトの取り組み」 熊谷 衛
- ・「Dual Energy CT を用いた慢性硬膜下血腫 / 液貯留腔の発生機序に対する画像支援」
山口広之

Ⅳ：現状と展望

2024 年 4 月で開院 4 年目を迎えました。今年度は「高度医療・救急医療への貢献」「DX を利用した業務の効率化」を目標に掲げ活動しました。

高度医療・救急医療への貢献では、当直時間帯における医師への読影補助体制を整え STAT 画像（生命予後にかかわる緊急性の高い疾患の所見がある画像）報告や業務拡大における大腸 CT 検査の肛門へのチューブ挿入、RI の薬剤投与も積極的に行いました。

DX を利用した業務の効率化では、部署に支給された複数台のスマートフォンを活用し、自部署のみならず他部署との連絡体制の構築を行い、円滑な業務運営を行えるようになりました。

今後とも、安全で安心な医療の提供を行い、患者さんをはじめとした地域の方々、他施設の方々から信頼される放射線技術部をめざして努力を継続します。

9. 臨床検査技術部

I：構成員

<医師>

臨床検査科統括責任者：入江 克実

臨床検査科部長：木村 廣志

病理診断科部長：大谷 博

<臨床検査技師>

部長：森 健一

係長：尾上 由美

主任：小出 祐子（病理検査室）、長野 淳一（生理検査室）、古賀 晶子（生理検査室）

濱口 奈津子（業務改善担当）

スタッフ（役職除く）

臨床検査技師（常勤）18名、看護師（パート）2名、準看護師（パート）2名

アシスタント（パート）3名

所有資格

超音波検査士5名（体表2名、消化器3名、循環器4名）、血管診療技師認定1名、乳がん検査超音波検査実施技師1名、細胞検査士2名、国際細胞検査士1名、認定病理検査技師1名、認定一般検査技師3名、二級臨床検査士7名（免疫血清1名、病理2名、血液1名、微生物2名、循環生理学1名）、緊急臨床検査士5名、福岡県糖尿病療養指導士2名、分析機器・試薬アナリスト検定1名、認定穿刺液細胞検査技師1名、臨床検査技師臨地実習指導者講習会修了1名、健康食品管理士1名、医療情報技師1名、第2種ME技術実力検定試験1名、特定化学物質作業主任者2名、有機溶剤作業主任者1名、毒物劇物取扱者3名、ICLS 蘇生トレーニング3名、上級救命講習修了1名、普通救命講習修了2名、タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会修了8名

II：活動（各種件数）

<検体検査>

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生化学	7,971	8,491	8,753	9,895	9,193	9,532	9,696	9,216	8,871	8,514	8,031	9,077	107,240
免疫	4,569	4,706	4,449	4,914	4,541	4,450	4,669	4,424	4,759	4,499	4,147	4,654	54,781
血液	7,387	7,829	7,482	8,317	7,732	7,617	7,878	7,512	7,944	7,614	7,119	8,105	92,536
凝固	3,002	3,109	3,228	3,815	3,513	3,204	3,263	3,182	3,189	3,044	2,820	2,843	38,212
一般	4,007	4,052	3,963	4,098	3,797	4,085	4,100	3,829	4,077	3,807	3,656	4,167	47,638
輸血	520	640	553	587	530	578	644	553	606	525	515	585	6,836
外注	1,222	1,150	1,079	1,062	1,027	1,151	1,292	915	1,032	881	878	1,142	12,831
細菌	705	780	749	950	850	611	736	765	838	919	748	906	9,557
病理組織	229	322	259	274	216	239	304	281	321	278	247	278	3,248
細胞診	35	46	38	38	17	29	43	42	33	36	48	42	447
合計	29,647	31,125	30,553	33,950	31,416	31,496	32,625	30,719	31,670	30,117	28,209	31,799	373,326

＜血液製剤使用数＞

単位：単位数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
R B C	180	208	298	212	250	318	260	278	224	232	240	246	2,946
F F P	76	36	112	66	142	112	52	64	44	40	86	70	900
P C	120	70	230	190	190	270	50	90	50	30	140	160	1,590
自 己 血	6	0	22	22	28	8	12	4	12	4	16	2	136

＜血液製剤廃棄率＞

単位：％

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
R B C	0.0	1.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.2
F F P	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
P C	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8
自 己 血	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

＜新型コロナウイルス遺伝子検査＞

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
L A M P	60	34	6	43	43	7	12	0	0	13	2	14	234
P C R	144	140	157	349	307	150	175	164	249	307	203	273	2,618
合 計	204	174	163	392	350	157	187	164	249	320	205	287	2,852

＜病理組織＞

年 度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
外来件数	1,037	1,184	850	1,024	877	1,091	1,210
入院件数	1,704	1,778	1,789	1,930	1,945	2,009	2,038
外注件数	22	20	13	15	26	23	34
合 計	2,763	2,982	2,652	2,969	2,848	3,123	3,282

＜細胞診＞

年 度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
外来件数	255	259	199	339	305	281	236
入院件数	247	194	196	233	238	275	211
合 計	502	453	395	572	543	556	447

＜病理解剖＞

年 度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
剖検数	2	2	0	4	1	1	2
剖検率	0.82%	0.78%	0.00%	2.09%	0.49%	0.43%	0.92%

剖検番号	剖検日	科・病棟	診療科	年齢	性別	主病名
HA-25-01	2025. 2. 21	救急センター	心臓血管内科	80代	M	慢性心不全の急性増悪、持続性心房粗細動、右肺癌術後
HA-25-02	2025. 3. 26	6階北病棟	総合診療科	70代	M	誤嚥性肺炎、脳梗塞、敗血症性ショック、尿路感染症

< CPC (Clinicopathological Conference) >

開催回	開催日	司会	執刀医	主治医	診療科	参加者数
第 42 回	2024. 12. 10	大谷 博	大谷 博	尼子 真生	血管外科	36 名

< 生理機能検査 >

単位：件

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
心電図	839	782	751	856	757	751	842	835	865	813	804	884	9,779
トレッドミル	3	4	4	2	3	2	3	1	3	2	3	0	30
ホルター心電図	30	38	41	52	34	37	31	42	40	42	32	40	459
心臓超音波	332	337	284	346	264	288	314	297	292	310	307	321	3,692
経食道超音波	5	7	11	6	5	8	5	4	9	7	3	5	75
腹部超音波	253	266	238	263	199	245	247	213	230	207	191	247	2,799
乳腺超音波	77	100	137	90	55	121	130	120	132	104	68	114	1,248
他表在超音波	12	13	14	11	12	11	15	6	17	12	16	14	153
頸動脈超音波	110	106	80	116	88	78	86	93	91	81	73	101	1,103
他血管超音波	44	62	51	56	49	52	48	50	64	54	41	64	635
脳波	17	16	10	15	12	13	10	8	15	5	9	10	140
肺機能	17	1	6	13	8	3	4	5	5	10	4	13	89
自律神経	5	11	2	6	8	6	6	4	6	3	2	2	61
ABI	84	102	79	64	63	66	63	69	67	61	68	67	853
SPP	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6
24 時間血圧	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	2	2	8
CPX	0	1	1	2	3	3	2	3	3	4	0	8	30
合 計	1,832	1,847	1,709	1,898	1,561	1,686	1,807	1,750	1,839	1,715	1,623	1,893	21,160

< 臨地実習・施設見学 >

- 国際医療福祉大学福岡保健医療学部医学検査学科 3 年次生 3 名
2024 年 9 月 30 日～11 月 29 日（43 日間）
- 純真学園大学検査科学科 3 年次生 5 名
2024 年 11 月 25 日～2025 年 1 月 31 日（44 日間）
- 純真学園大学検査科学科 1 年次生 4 名
2025 年 2 月 27 日

Ⅲ：業績

発表・講演

- 術前化学療法の治療効果判定：古賀晶子（第 32 回日本乳癌学会学術総会、ポスター、仙台国際センター、宮城、2024. 7. 11）
- 解析報告（尿）：尾上由美（第 53 回福岡県医師会臨床検査精度管理調査結果研修会、九州大学医学部百年講堂、福岡、2025. 2. 9）

法人内発表

- 僧帽弁狭窄をきたした巨大左房粘液腫の一例：水上 幸（第 18 回白十字会臨床検査研究会（第 11 回白十字会臨床検査部門 Institute）、現地+Web、福岡、2025. 2. 22）

2. 免疫学分析装置の比較検討～cobas から HISCL への測定機器移行に向けて～：時枝 菜津美（第 18 回白十字会臨床検査研究会（第 11 回白十字会臨床検査部門 Institute）、現地 +Web、福岡、2025. 2. 22）
3. 旧病院と新病院での CPA 対応時における検査時間の比較：森本結衣（第 18 回白十字会臨床検査研究会（第 11 回白十字会臨床検査部門 Institute）、現地 +Web、福岡、2025. 2. 22）

関連団体活動

1. 一般社団法人福岡県臨床衛生検査技師会 運営理事 管理運営部長 森 健一
2. 一般社団法人福岡県臨床衛生検査技師会 福岡地区 副地区長 森 健一
3. 一般社団法人福岡県臨床衛生検査技師会 臨床一般部門 部門長 尾上由美
4. 一般社団法人福岡県臨床衛生検査技師会 福岡地区 臨床一般部門 副部門長 尾上由美
5. 一般社団法人福岡県臨床衛生検査技師会 福岡地区 臨床検査総合部門 副部門長 森 健一
6. 一般社団法人福岡県臨床衛生検査技師会 総務・発送部会 委員 森 健一
7. 一般社団法人福岡県臨床衛生検査技師会 総務・発送部会 委員 不老飛翔
8. 公益社団法人福岡県病院協会 臨床検査委員会 委員長 森 健一
9. 九州乳腺超音波研究会 世話人会計担当 古賀晶子

IV：現状と展望

臨床検査技術部では、患者さんの一日も早い社会復帰のために、正確かつ迅速な検査結果・情報を提供し、医療チームの一員として業務にあたることを基本目標としている。引き続き、業務改善を推進し各スタッフが一つの領域だけでなく、二つ目三つ目の領域で業務ができるように進めている。スタッフ不足時にフォローが可能となるだけでなく、スタッフ個人の視野も広がる環境を提供していきたい。

今年度は特に、臨床より需要が高く予約が取りにくかった心臓・血管超音波検査では、2月より外来予約枠を4枠増設した。今後は、各領域で実施できるスタッフを育成しながら診療へ貢献していく。

昨今、材料費高騰、光熱費上昇、物流費値上げ等による検査試薬や医療材料の値上げもあり、全国の医療施設が厳しい時期である。部門内でも、経費適正化・コスト削減を意識し実践している。

各診療科では、手術、救急、治療など高度な医療提供が増加してきており、当部門でも臨床へ貢献できるように体制を強化し対応していきたい。件数や業務量も年々増加しており、今後は、質の向上・業務改善・効率化・コスト削減に努め、より良い効果的な臨床検査の提供を目指す。また、タスク・シフト / シェアへ向けて新たな業務へも繋げていきたい。

10. 臨床工学部

I：構成員

部長：浦田 英明

課長：豊田 竜也

係長：小川 憲太朗

副主任：岡田 卓也、岡村 純

スタッフ：牟田 享平、西村 香織、平岩 穂乃佳、中村 彩香、江刺 萌子、井手 滉輔、
渡久地 風冬、原田 光基、古賀 駿大、塔尾 太城、小木曾 泰斗、脇山 太一
アシスタント：千々岩美佐子

II：臨床活動

当部門では、臨床技術提供を目的とした、血液透析業務（透析センター）、医療機器の安全管理を目的とした、ME 機器管理業務、手術室業務（人工心肺、スコープオペレーター）、心臓カテーテル検査業務（アブレーション含む）、急性期血液浄化業務（ICU）、人工呼吸器関連業務（ICU）、ペースメーカー管理業務、内視鏡業務、睡眠時無呼吸症候群管理業務等を行っている。

【資格者一覧】

体外循環認定士 2 名、呼吸療法認定士 3 名、認定血液浄化臨床工学技士 1 名

III：業績

学会発表（日付け、題名、名前、学会名（場所））

1. 2024, 1, 18 当院におけるスコープオペレーター業務のタスクシフト・シェアへの取り組み
中村彩香 第 19 回九州沖縄臨床工学会（カクイックス交流センター）

IV：現状と展望

今後、安全な医療機器、医療技術の提供とともに専門性を生かすためチーム力、技術力アップ標準化を図り院内および地域に高度な医療を提供する。

また、DX 化の推進と医師、看護師業務のタスクシフト / シェアの推進を行い業務効率、安全性の向上に努めていきたい。

業務記録

【透析業務 水質管理記録】

●生菌採取結果

	2024年度生菌採取結果報告												単位：CFU/ml
	2024年4月	2024年5月	2024年6月	2024年7月	2024年8月	2024年9月	2024年10月	2024年11月	2024年12月	2025年1月	2025年2月	2025年3月	
原水	10												
ROタンク後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
個人用RO						0						0	
セントラル	0	0	0.2	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	
1前	0												
1後	0												
2前	0												
2後	0												
3前		0											
3後		0											
4前		0											
4後		0											
5前		0											
5後		0											
6前			0										
6後			0										
7前			0										
7後			0										
8前				0									
8後				0									
9前				0									
9後				0									
10前					0								
10後					0								
11前					0								
11後					0								
12前					0								
12後					0								
13前						0							
13後						0							
14前						0							
14後						0							
15前						0							
15後						0							
16前							0						
16後							0						
17前							0						
17後							0						
18前							0						
18後							0						
19前								0					
19後								0					
20前								0					
20後								0					
21前												0	
21後												0	
22前									0				
22後									0				
23前									0			0	
23後									0			0	
24前									0			0	
24後									0			0	
25前											0	0	
25後											0	0	
26前											0		
26後											0		
27前										0			
27後										0			
予備機前										0			
予備機後										0			

●エンドトキシン採取結果

			2024年度エンドトキシン採取結果報告										単位：EU/ml
	2024年4月	2024年5月	2024年6月	2024年7月	2024年8月	2024年9月	2024年10月	2024年11月	2024年12月	2025年1月	2025年2月	2025年3月	
原水	0.216												
ROタンク後	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	
個人用RO						0.001							0.001未満
セントラル	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	
出張機													
1前	0.001未満												
1後	0.001未満												
2前	0.001未満												
2後	0.001未満												
3前		0.001未満											
3後		0.001未満											
4前		0.001未満											
4後		0.001未満											
5前		0.001未満											
5後		0.001未満											
6前			0.001未満										
6後			0.001未満										
7前			0.001未満										
7後			0.001未満										
8前				0.001未満									
8後				0.001未満									
9前				0.001未満									
9後				0.001未満									
10前					0.001未満								0.001未満
10後					0.001未満								0.001未満
11前					0.001未満								
11後					0.001未満								
12前					0.001未満								
12後					0.001未満								
13前						0.001未満							
13後						0.001未満							
14前						0.001未満							
14後						0.001未満							
15前						0.001未満							
15後						0.001未満							
16前							0.001未満						
16後							0.001未満						
17前							0.001未満						
17後							0.001未満						
18前							0.001未満						
18後							0.001未満						
19前								0.001未満					
19後								0.001未満					
20前								0.001未満					
20後								0.001未満					
21前													0.001未満
21後													0.001未満
22前									0.001未満				
22後									0.001未満				
23前													0.001未満
23後													0.001未満
24前													0.001未満
24後									0.001未満				0.001未満
25前											0.001未満		0.001未満
25後												0.001未満	0.001未満
26													
27													
出張機(200si)前										0.001未満			
出張機(200si)後											0.001未満		
予備機										0.001未満			

【ME 機器管理業務 月別稼働実績】

●輸液ポンプ稼働率

所有台数(台)	105													
月別稼働率(%)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
	64.43	70.91	80.89	85.53	77.98	80.49	67.65	52.89	67.21	73.37	81.21	77.83	73.4	

●シリンジポンプ稼働率

所有台数(台)	80													
月別稼働率(%)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
	65.03	58.28	66.07	70.58	66.11	75.2	61.94	42.93	45.46	48.34	59.1	60.33	59.9	

●メラサキューム稼働率

所有台数(台)	11													
月別稼働率(%)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
	40.61	47.8	55.45	56.6	44.87	43.64	46.63	28.18	42.82	28.15	31.17	36.36	41.9	

●パルスオキシメーター稼働率

所有台数(台)	14												
月別稼働率(%)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
	35.93	48.39	60	54.84	53.94	44.81	39.96	12.1	38.89	20.07	30.75	33.15	39.4

●人工呼吸器稼働率

所有台数(台)	IPPV	NPPV	NHF										
	7	4	3										
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
IPPV(%)	56.67	51.61	51.11	48.75	39.43	67.04	50.18	25.19	40.86	36.56	38.49	17.56	43.6
NPPV(%)	44.44	43.01	43.33	77.42	65.15	38.89	10.75	41.11	60.22	90.32	79.78	53.8	54.0
NHF(%)	81.11	82.8	82.22	79.57	66.67	54.44	84.95	65.56	43.01	50.54	60.71	86.02	69.8

【血液浄化業務 実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
HD	240	267	248	212	206	243	220	192	275	258	255	284	2900
ON-HDF	515	543	469	540	520	515	519	508	546	539	478	483	6175
OFF-HDF	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	755	810	717	752	726	758	739	700	821	797	733	767	9075

【アフェレーシス業務 実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
CHDF		10	4			12	9	8	11	2		8	64
吸着療法					5	6			5			2	18
腹水濾過濃縮	2	3	1	5	2	1	2	1	2	2	2	3	26
計	2	13	5	5	7	19	11	9	18	4	2	13	108

【PM チェック件数】

件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	13	4	9	8	7	30	30	21	29	25	23	8	207

【SAS 解析件数】

件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	2	4	3	3	2	2	9	5	7	1	4	5	47

【心臓カテーテル業務 実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
CAG	14	4	14	9	8	7	14	9	9	16	13	10	127
PCI	8	10	10	5	6	8	6	15	11	15	18	12	124
PMI	3	4	0	2	0	2	3	2	4	4	5	8	37
緊急	2	4	4	3	2	9	5	7	7	8	14	7	72
シヤントPTA	6	7	8	7	6	6	4	7	7	2	6	2	68
ジェネレーター交換	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	1	5
下大静脈フィルター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右心カテ	2	0	3	0	0	4	2	3	1	2	2	1	20
LVG	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
下肢PTA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一時ペーシング	0	0	1	2	0	3	4	2	2	4	7	6	31
計	35	29	40	28	22	39	40	47	41	51	65	47	484

【手術室業務 実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
外科	26	43	25	30	40	49	46	38	46	33	33	37	446
泌尿器科	28	36	30	40	28	41	32	38	38	26	30	34	401
整形外科	2	2	2	2	1	0	3	3	0	1	2	0	18
形成外科	0	0	2	0	0	2	2	0	1	1	1	0	9
脳外科	20	17	15	16	9	18	15	14	13	12	17	14	180
眼科	13	12	7	6	8	19	21	18	18	14	12	15	163
歯科	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
血管外科	2	4	4	3	1	0	1	1	1	1	2	2	22
心臓外科	5	5	8	11	8	7	6	6	3	3	7	7	76
脳血管	0	0	1	1	0	1	0	0	2	0	0	1	6
IVR	3	1	3	2	2	6	4	7	3	6	2	2	41
スコピスト	2	8	10	12	17	17	20	11	16	17	12	10	152
その他	0	0	7	2	0	1	0	0	2	0	0	0	12
計	101	128	114	125	114	163	150	136	143	114	118	122	1528

【内視鏡業務 実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
上部	214	183	167	161	142	184	221	158	175	172	148	181	2106
下部	111	143	102	111	76	96	128	112	138	102	102	109	1330
ESD	2	3	1	2	1	1	5	1	2	1	0	1	20
EUS	6	1	1	6	1	4	4	5	7	6	4	6	51
EVL	1	4	1	0	0	2	3	1	6	1	1	2	22
EIS	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	3
PEG造設	2	0	1	1	1	2	2	2	1	0	3	2	17
PEG交換	2	1	2	3	2	2	1	3	5	2	5	1	29
ERCP,ERCP+EST	29	25	23	15	22	27	29	25	21	17	15	19	267
その他	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計	367	362	299	299	245	319	393	307	356	301	278	321	3847

【オンコール対応 実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
カテ/心外	0	3	2	2	0	3	3	5	4	4	3	3	32

【医療機器 点検・修理対応 実績】

●定期点検件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ME機器	院内	5	1	7	1	3	5	6	2	5	8	3	51
	院外	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	6
透析室	院内	0	0	0	1	1	0	0	0	1	3	1	10
	院外	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
手術室	院内	3	1	1	0	3	0	0	1	2	0	0	11
	院外	1	0	0	1	0	2	0	2	2	3	1	12
内視鏡室	院内	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	1	5
	院外	0	0	2	0	0	0	0	2	1	3	0	9
計		9	2	11	3	9	9	8	7	12	18	7	106

●院内・院外修理件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ME機器	29	31	16	22	37	21	38	28	20	14	25	46	327
透析室	39	16	13	23	34	37	14	14	20	21	19	36	286
手術室	15	9	14	11	6	14	3	14	16	6	1	2	111
内視鏡室	15	13	18	14	14	19	14	14	19	14	15	15	184
計	98	69	61	70	91	91	69	70	75	55	60	99	908

【医療機器 院内教育・研修実績】

日時	研修対象	人数	内容	主催	場所	新規導入機器研修
4月5日	臨床工学部	6	IVUS説明会（手術室）	業者	手術室	○
4月13日	4N看護師	13	PMI後の日常生活について	岡田	4N	
4月24日	ICU看護師	4	呼吸器の基礎と使い方	平岩	ICU	
4月26日	HD看護師	8	抗凝固剤について	井手	透析室	
4月27日	ICU看護師	12	呼吸管理で注意する点	松本	ICU	
5月6日	ICU看護師	12	IABPについて	岡田	ICU	
5月15日	臨床工学部	4	ドリップアイについて	業者	CE室	○
5月29日	HD看護師	9	前希釈・後希釈について	渡久地	透析室	
5月31日	臨床工学部	7	在宅医療の概要	岡村	CE室	
6月12日	臨床工学部	4	SATとSBTについて	津曲	CE室	
6月20日	ICU看護師	6	アイノフローについて	吉満	ICU	○
6月27日	HD看護師	10	透析回路の流れと組み間違い	西村	透析室	
6月29日	ICU看護師	8	TPMについて	岡村	ICU	
6月29日	臨床工学部	6	PCPSの管理について（前編）	平岩	CE室	
6月30日	臨床工学部	10	PCPSの管理について（後編）	平岩	CE室	
7月11日	臨床工学部/OP看護師	10	血栓回収について	脳内 徳永	手術室	
7月25日	5S看護師	8	Survo-Air画面の見方について	吉岡	5S	
7月26日	臨床工学部	6	塩素ガスの危険性と人体への影響	牟田	CE室	
7月27日	臨床工学部	6	介護保険について	岡村	CE室	
7月27日	ER看護師	5	呼吸器の基礎とNPPV	西村	ER室	
7月28日	臨床工学部	8	人工呼吸器 ファイティングについて	井手	CE室	
7月28日	ICU看護師	7	NO療法について	吉岡	ICU	
8月8日	臨床工学部	6	日本臨床工学会還元報告	岡田	応接室5	
8月31日	臨床工学部	4	ケアプランについて	岡村	CE室	
9月6日	HD看護師	7	HD患者とHDF患者の違い	松本	透析室	
9月7日	ICU看護師	9	ACTについて	岡田	ICU	
9月11日	臨床工学部	11	リードスペースメーカーについて	渡久地	会議室2	
9月12日	臨床工学部	7	和白病院見学還元報告	岡田	CE室	
9月19日	臨床工学部	5	SNVを活かそう！	岡村	CE室	
9月28日	HD看護師	7	透析効率を上げる為には	津曲	透析室	
9月29日	臨床工学部	6	持続腎助療法（CRRT）をうけた重症患者における 高い血圧目標値の有用性	吉満	CE室	
10月3日	臨床工学部	7	気切用人工鼻について	吉満	CE室	
10月5日	臨床工学部	4	下肢順行性送血について	岡村	CE室	
10月5日	HD看護師	9	RO水が出来るまで	中村	透析室	
10月6日	臨床工学部	9	吸着型血液浄化器リクセルについて	松本	CE室	
10月11日	臨床工学部	5	人工呼吸器装着患者の在宅復帰の流れ	岡村	CE室	
10月16日	全職員	114	シリンジポンプの構造と正しい使用方法	岡田	e-ラーニング	
10月20日	ずっと一緒にスタッフ	7	AEDの使い方	井手	GH	
10月30日	4N看護師	9	除細動器の使用方法和注意点	渡久地	4N	
11月1日	臨床工学部	9	ACT測定におけるカートリッジ選択の有用性	平岩	CE室	
11月4日	臨床工学部	6	安全安心いっぱい月間 予行	井手	CE室	
11月7日	臨床工学部	5	還元報告 患者の愁訴改善を目的とした オンラインHDFの実践	松本	CE室	
11月7日	ICU看護師	5	NO療法の病体・管理について	中村	ICU	
11月20日	臨床工学部	2	フルPSG検査装置「Nox Als」について	メーカ (松本)	CE室	
11月30日	放射線技術部	9	自動心肺蘇生器使用方法について	井手	心カテ室	
12月28日	臨床工学部	6	白十字会の在宅サービスについて	岡村	CE室	
1月4日	HD看護師	9	シャントPTAの基礎	平岩	HD室	
1月18日	HD看護師	10	シャント合併症について	岡田	HD室	
2月6日	臨床工学部	7	在宅呼吸療法の診療報酬について	岡村	CE室	
2月10日	ICU看護師	6	NO療法について	吉岡	ICU	
2月14日	4N看護師	13	NO療法について	吉岡	4N	
2月14日	臨床工学部	6	NO療法について	吉岡	CE室	
2月28日	臨床工学部	7	透視室の検査について	西村	CE室	
3月8日	ES看護師/臨床工学部	9	内視鏡勉強会	西村	ESセンター	
3月8日	臨床工学部	11	スコープオペレーターについて	中村	CE室	
3月9日	臨床工学部	5	生食による緊急回収について	吉満	HD室	
3月18日	臨床工学部	5	介護保険サービスの種類について	岡村	CE室	
3月22日	全職員	299	パルスオキシメータの原理と正しい使用方法	岡田	e-ラーニング	

11. 眼科技術部

I：構成員

係長 岩崎 聡
無津呂 茉莉
稲藪 美羽

II：臨床活動

【2024 年度 眼科技術部検査件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
矯正視力検査	278	278	262	268	236	322	348	327	346	275	286	311	3537
眼鏡処方箋交付	3	4	4	4	3	6	0	1	0	1	1	0	27
屈折検査	99	94	80	82	63	119	122	131	123	100	95	91	1199
角膜曲率半径計測	99	94	80	82	63	119	122	131	123	100	96	91	1200
精密眼圧測定	278	281	266	269	237	324	349	327	347	281	286	311	3556
眼底三次元画像解析	145	138	142	133	130	152	168	148	163	121	150	149	1739
光干渉断層血管撮影	5	2	5	5	4	4	3	7	3	4	3	6	51
前眼部三次元画像解析	0	2	0	2	0	1	0	0	0	1	0	0	6
眼底カメラ撮影	59	43	52	72	50	67	76	70	57	53	46	71	716
静的量的視野検査	17	12	9	17	4	12	12	16	10	10	17	13	149
動的量的視野検査	13	21	15	16	12	19	12	22	14	11	18	9	182
角膜内皮細胞顕微鏡検査	12	10	11	13	14	17	26	18	20	15	14	18	188
光学的眼軸長測定	6	2	6	5	8	7	12	6	7	5	6	10	80
超音波検査（Aモード法）	1	2	1	2	2	1	3	1	1	2	1	0	17
超音波検査（Bモード法）	6	2	7	1	6	1	3	2	0	4	5	3	40
網膜電位図	0	1	5	2	1	0	2	0	2	0	0	0	13
眼球運動精密検査	6	4	4	4	2	4	11	7	8	9	4	6	69
蛍光眼底造影検査	0	0	1	7	2	1	2	1	1	1	2	2	20
自発蛍光眼底カメラ撮影	0	1	2	6	0	2	0	1	0	0	1	1	14
角膜形状解析検査	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
精密視野検査	1	4	6	3	3	2	4	3	2	3	3	5	39
調節検査	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	5
中心フリッカー試験	0	0	1	0	1	1	0	0	1	1	2	2	9
全視野精密ERG	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
多局所網膜電位図	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	1	0	5
視覚誘発電位	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
小型網膜電位計（DR判定）	14	18	9	21	13	17	21	6	11	9	12	11	162
涙液分泌機能検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼球突出度測定	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	1	5
色覚検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス抗原精密測定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
ロービジョンケア	2	2	2	2	1	1	1	3	0	2	1	1	18
合計	1045	1016	974	1017	855	1203	1299	1229	1239	1009	1054	1112	13052

III：現状と展望

糖尿病合併症である糖尿病網膜症進行を予防するべく、積極的に糖尿病内科医師と情報共有を図り、糖尿病入院患者への糖尿病網膜症スクリーニング検査を 92 件実施した。

緑内障に関しては視野検査結果や眼圧値、治療歴等をデータ化し、病勢の把握や予後予測に役立てることを目的にデータ解析に取り組んだ。

また点眼薬管理や病棟患者の送迎等、他職種業務のタスクシフトにも積極的に取り組んだ。

ロービジョンケアとは、視覚に障害があるため生活に何らかの支障を来している人に対する医療的、教育的、職業的、社会的、福祉的、心理的等すべての支援の総称である。発達・成長期にある小児に必要なハビリテーションあるいは主に成人の中途障害に対応するリハビリテーションを目的とし、よりよく見る工夫、視覚以外の感覚の活用、情報入手手段の確保、その他の生活改善、進路の決定、

福祉制度の利用、視覚障害者同士の情報交換等ができるよう情報提供し、諸種の助言、指導あるいは訓練を行うことである。

2024 年度は延べ 18 回（新規導入 7 名）ロービジョンケアを実施し、視覚に障害がある患者の Quality Of Vision Life（視的生活の質）の維持・向上の助けとなるべく活動してきた。

12. リハビリテーション部

I：構成員

次 長：福井 哲

課 長：谷口 由香理

主 任：古賀 研人

副主任：田代 千晴、田中 英二、梅田 裕樹

他

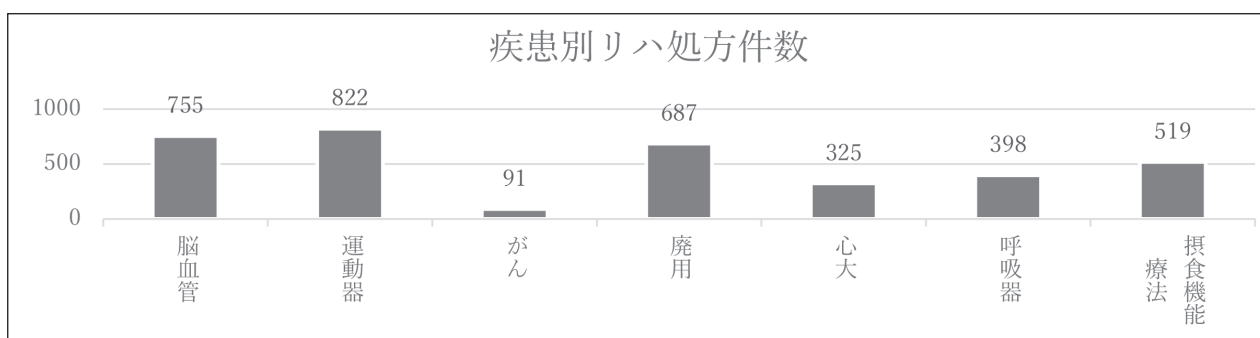
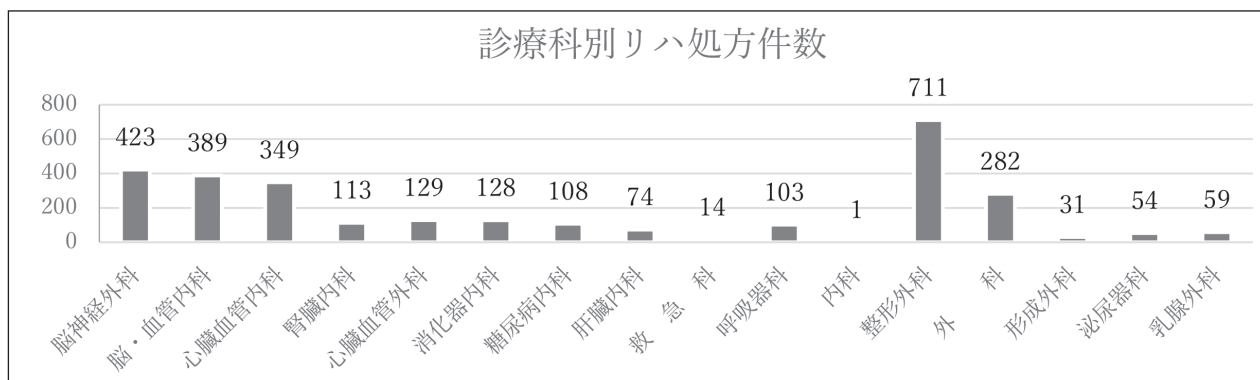
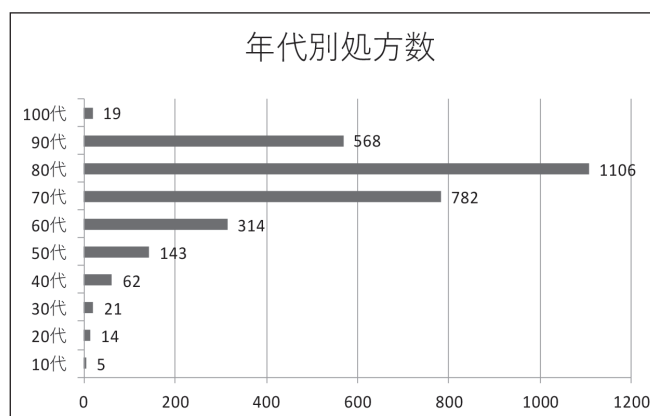
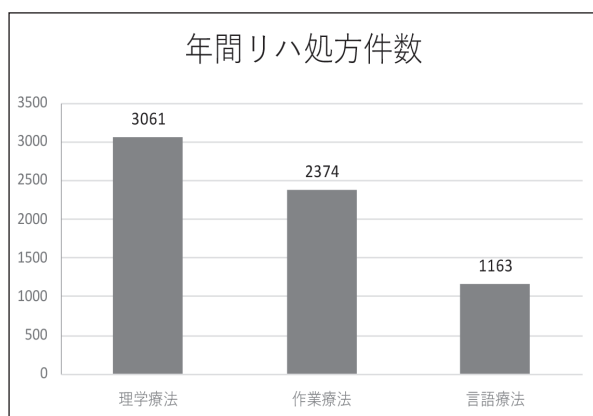
理学療法士：16 名

作業療法士：12 名

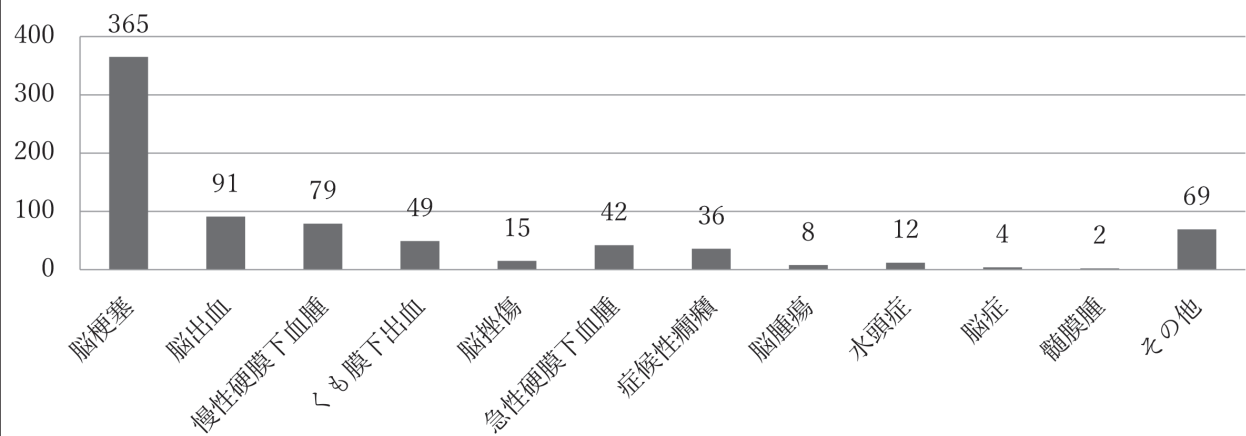
言語聴覚士：6 名（内：パート職員 1 名）

リハ助手：2 名（内：パート職員 1 名） 合計：42 名

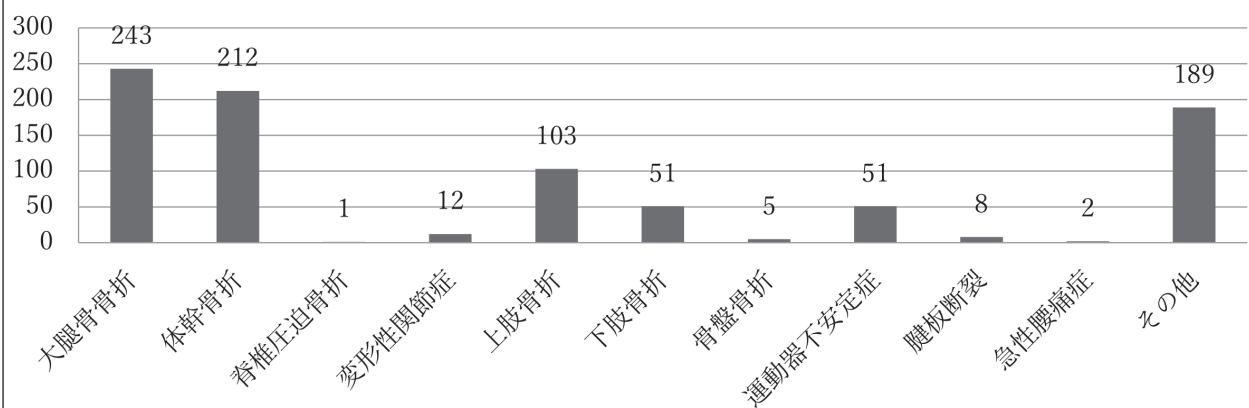
II. 臨床活動 リハビリテーション処方内容



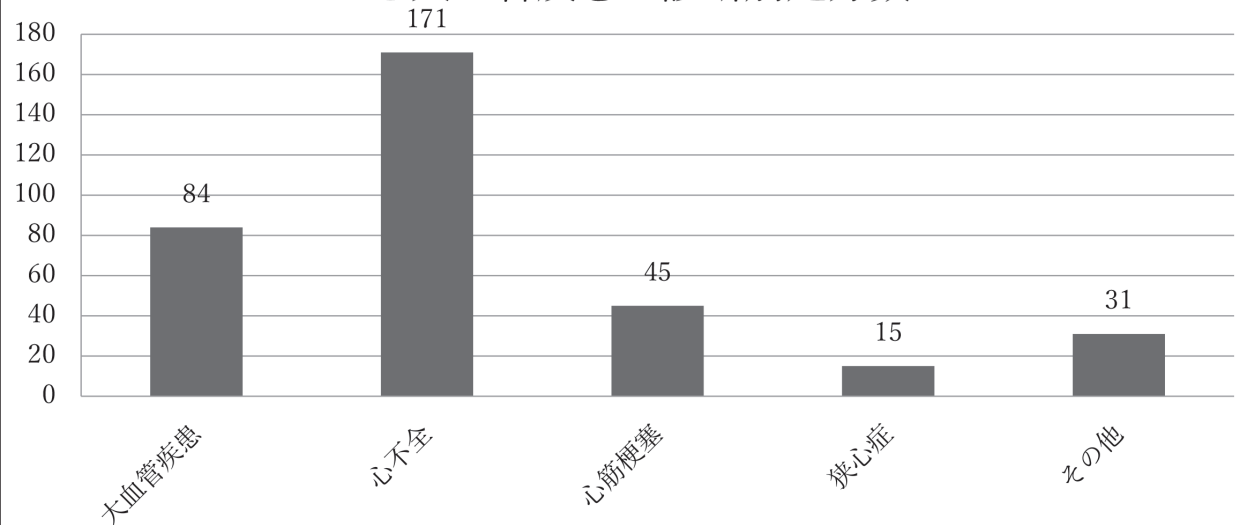
脳血管疾患 診断名別処方件数



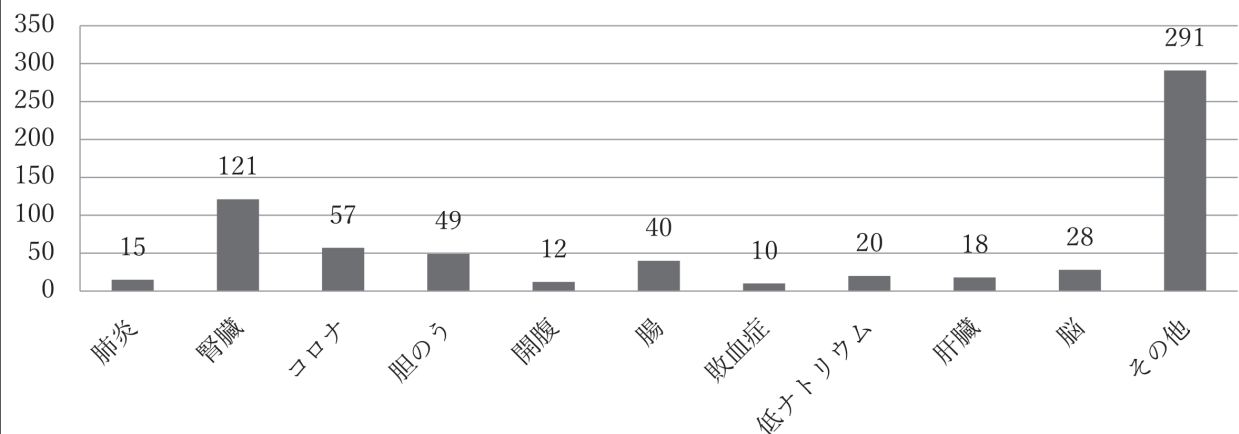
運動器 診断別処方件数



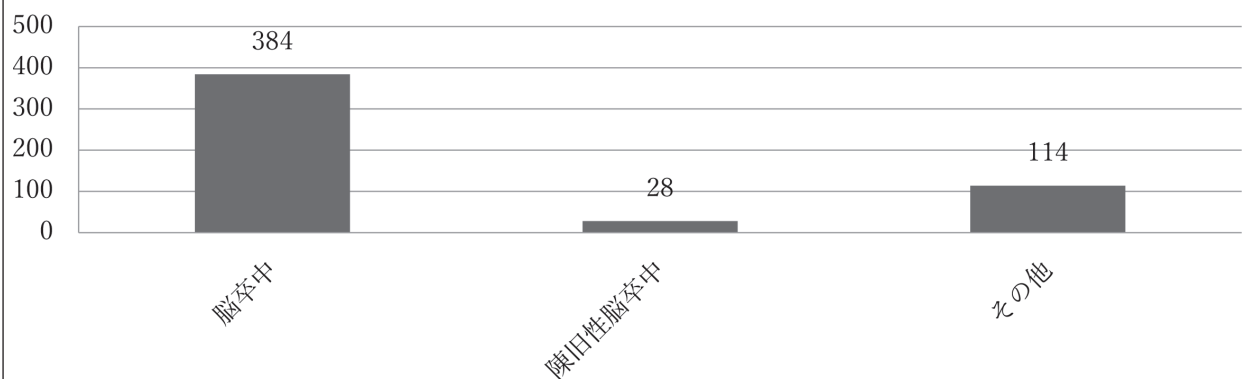
心大血管疾患 診断別処方件数



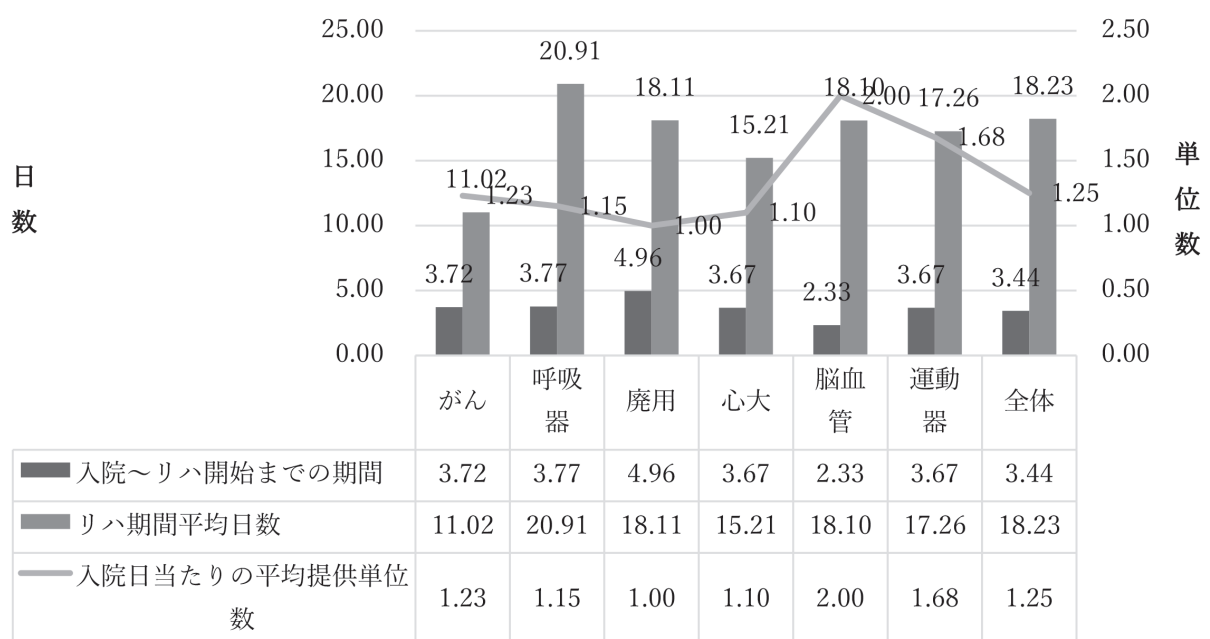
廃用症候群 診断名別処方数



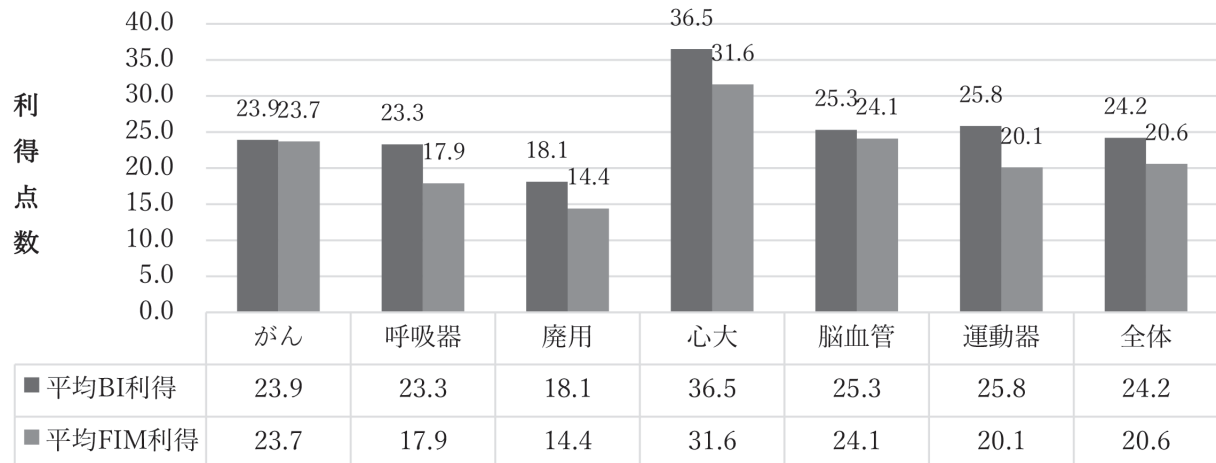
摂食嚥下 診断名別処方数



疾患別データ①



疾患別データ②



【心肺運動負荷試験（CPX）】

心臓血管内科医及び臨床検査技師、理学療法士立会いのもと CPX 検査を実施し、運動処方などに役立てている。

対象は心不全、心筋梗塞、心外術後等とし、30 件の実施となった。

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
0	1	1	2	3	3	2	3	3	4	0	8	30 件

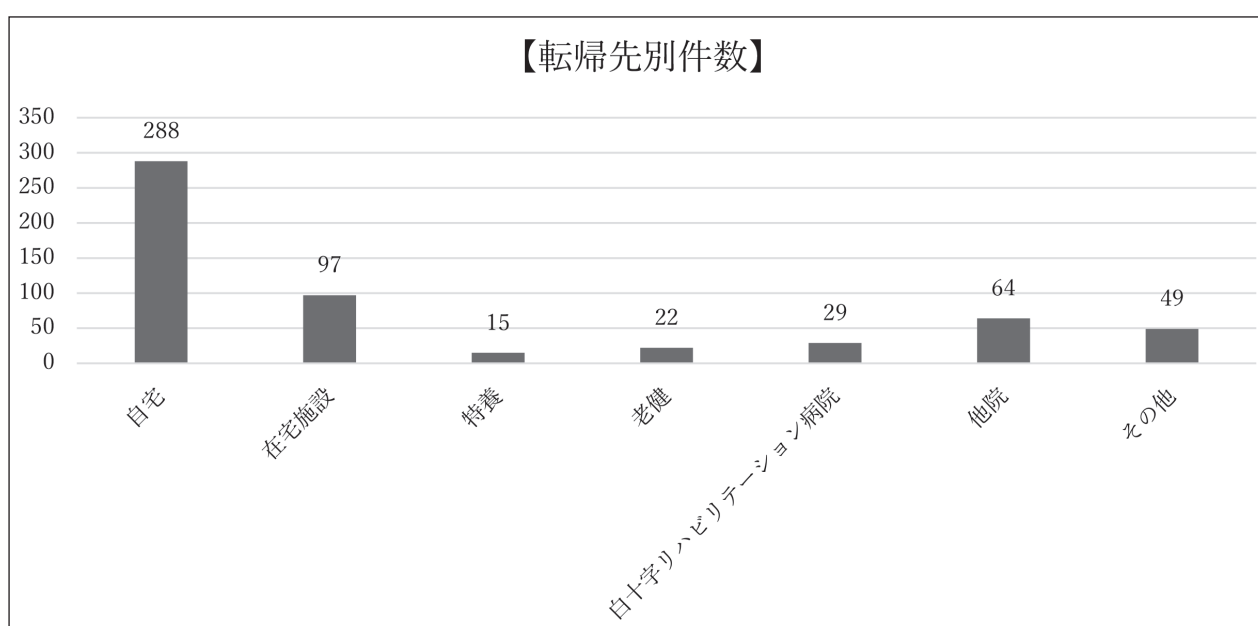
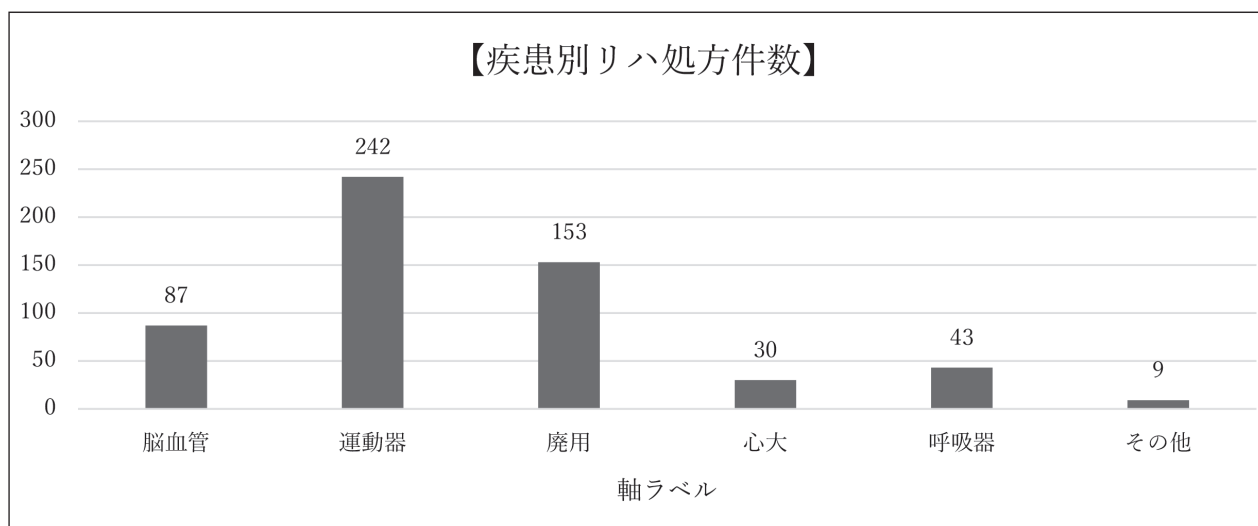
【HAL】

分院後より引き続き HAL® 医療用単関節タイプと HAL® 腰タイプ自立支援用を用いて、66 症例に対して合計 340 回の実施を行った。手・前腕用のアタッチメント、卓上固定器具 WE を新規購入し上肢への活用の幅が広がった。井上センター長ご指導のもと、単関節 HAL® のマニュアル本を出版した。HAL® 医療用単関節タイプの院内インストラクターによる研修を 1 回、学術活動は第 13 回日本脳神経 HAL 研究会にて 1 演題、第 4.5 回九州 HAL 愛好会にて 1 演題ずつ合計 3 演題の発表を行った。今後も患者のリハビリテーション治療への活用、学会発表等を積極的に行う予定である。

【地域包括ケア病棟】

2024 年度は理学療法士 5 名、作業療法士 4 名、言語聴覚士 1 名、リハ助手 1 名で地域包括ケア病棟に入棟された方に対し在宅復帰に向けたリハビリテーションを展開した。今年度も疾患別のリハビリテーションに加えて包括算定を活かした補完代替リハ（通称 CARB）の取り組みを強化した。リハ助手を配置することで定期的な集団リハの開催、院内デイサービスの充実が図れ、入院患者の離床の拡大に繋がった。

リハビリテーションの処方率は約 62%、患者一人当たりの提供単位数は 2.1 単位であり、在宅復帰率は 79.6%、うちリハ処方患者における在宅復帰率は 71%と施設基準維持に貢献した。



Ⅲ：業績

学会発表

1. 脳梗塞後左上肢麻痺に対して単関節 Hybrid Assistive Limb (HAL®) を使用したリハビリテーションが運動主体感に有効であった 1 例：谷口由香里、渡邊芳彦、井上 亨（第 13 回日本脳神経 HAL 研究会）
2. 急性期脳卒中患者に対する川平法と肩 HAL® の応用：谷口由香理、渡邊芳彦、山下泰貴、梅田裕樹、田代千春、古賀研人、井上 亨（第 4 回九州 HAL 愛好会）
3. 当院脳卒中病棟における転倒関連因子の分析と、転倒対策の取り組み報告：田代千晴、梅田裕樹、納富美咲、橋口 葵、西嶋遥香、福井 哲（日本転倒予防学会第 11 回学術集会）
4. 重度の痙攣に対し機能的改善を目指した包括的治療が奏功した一例：坂上泰河、臼井裕太、納富亮典、三浦聖史（第 22 回日本神経理学療法学会学術集会）
5. 地域包括ケア病棟における入棟時のバランス評価と転倒の関連性について：吉岡凌汰（第 10 回地域包括ケア病棟研究大会）

【新規資格取得者一覧】

2024 年度 新規取得資格

・ BLS	2 名
・ 離床プレアドバイザー	2 名
・ CI 療法	1 名
・ 心不全療養指導士	2 名
・ 住環境コーディネーター	2 名
・ パソコン検定 3 級	1 名
・ 3 学会合同認定療法士	1 名

IV：現状と展望

年々増加するリハビリテーションのニーズに合わせ、患者さんに提供する質と量を維持できるよう業務の適正化や効率化、人員の検討なども含めて地域に貢献していきたい。

13. 栄養管理部

I：構成員

管理栄養士 10 名

II：臨床活動

① 2024 年度 栄養指導件数（2024 年 4 月～2025 年 3 月）

	集団指導（糖尿病・腎臓病教室）				個人指導 (非加算含む)	糖尿病療養 支援外来 (非加算含む)	糖尿病透析 予防指導	合計
	開催クール数	実施件数						
		延べ実施回数	(非加算含む) 延べ人数					
4 月	1	6	3	16	130	67	1	201
5 月	2	7	13	30	149	55	0	217
6 月	0	0	0	0	129	49	0	178
7 月	3	13	13	44	140	54	0	207
8 月	0	0	0	0	101	33	2	136
9 月	2	6	10	19	119	41	2	172
10 月	1	5	4	13	125	67	0	196
11 月	1	6	2	7	117	62	4	185
12 月	1	6	2	12	149	58	3	212
1 月	1	6	2	12	120	49	3	174
2 月	2	10	3	14	116	41	9	169
3 月	1	5	2	9	140	56	0	198
合計	15	70	54	176	1,535	632	24	2,245

【個人栄養指導内訳】

糖 尿 病	1,260 件（58.1）	肝 疾 患	13 件（0.6）
脂 質 異 常 症	28 件（1.3）	胃 切	40 件（1.9）
高 血 圧	295 件（13.6）	胃・十二指腸潰瘍	5 件（0.2）
腎 疾 患	203 件（9.4）	低 栄 養	3 件（0.1）
透 析	202 件（9.3）	嚥 下 障 害	11 件（0.5）
膵 炎	6 件（0.3）	が ん	15 件（0.7）
イ レ ウ ス	6 件（0.3）	そ の 他	78 件（3.6）
肥 満	2 件（0.1）	合 計	2,167 件（100.0）

② 1ヶ月あたりの給食食数（食）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般食	一般食	7,484	8,836	8,467	9,221	10,110	10,283	8,786	8,983	9,215	10,698	9,107	10,510	111,700
	ハーフ食	767	861	813	1,579	1,461	1,476	1,496	1,106	1,386	900	963	1,424	14,232
	濃厚流動食	1,326	1,626	1,327	1,254	1,040	1,162	1,537	1,817	1,467	1,230	1,169	1,511	16,466
	合 計	9,577	11,323	10,607	12,054	12,611	12,921	11,819	11,906	12,068	12,828	11,239	13,445	142,398
特 別 食		7,934	7,838	7,353	8,501	7,220	7,320	8,448	8,172	9,114	9,512	9,111	8,731	99,254
外来透析食		110	112	97	108	107	101	98	104	97	93	83	86	1,196
合 計		17,621	19,273	18,057	20,663	19,938	20,342	20,365	20,182	21,279	22,433	20,433	22,262	242,848
特別食比率		45.3%	40.9%	40.9%	41.4%	36.4%	36.2%	41.7%	40.7%	43.0%	42.6%	44.8%	39.4%	41.1%

●月平均（食）

一般食： 11,867

特別食： 8,271

外来透析： 100

合計（月平均）20,237

Ⅲ：業績

学会発表：なし

Ⅳ：現状と展望

2024年4月白十字病院は新人3名を含む10名体制でスタートした。また新たな資格取得者も2名増加。今後の業務拡大を視野に中堅管理栄養士から新人に対する個別指導を強化することで、人材育成を推し進め、年度末には各病棟担当及び体制変更を行い、次年度での新体制に向けて体制強化を行った。

栄養指導件数は全体として個人栄養指導は若干増加傾向となった。要因として人員確保及び新人育成が順調に進んだことが考えられる。但し、経験の浅い管理栄養士が多数在籍している状況であり栄養指導や病棟業務での栄養管理の質の向上等、部門全体で課題改善に取り組んでいきたい。給食管理では患者満足度目標3.0点を初めて達成。今後も安定した給食管理及び業務効率化を更に図っていく。新たな取り組みとして診療報酬改定に伴い栄養管理手順・栄養スクリーニング・栄養アセスメントの変更、システム導入などをNST及び法人内施設（4病院）と協働して行った。また当院電子カルテ内給食オーダーリングシステムと給食支援システム（外部）との連携を進めるにあたり、給食オーダーリング画面の大幅改修を他部門・多施設と協働して行い改修に至った。引き続き連携稼働開始が出来るよう次年度も事業を進めていく予定であり、給食に関連したインシデント・アクシデント減少に繋がるよう進めていく。

14. 事務部門

【入院動態患者数（退院を含む）】

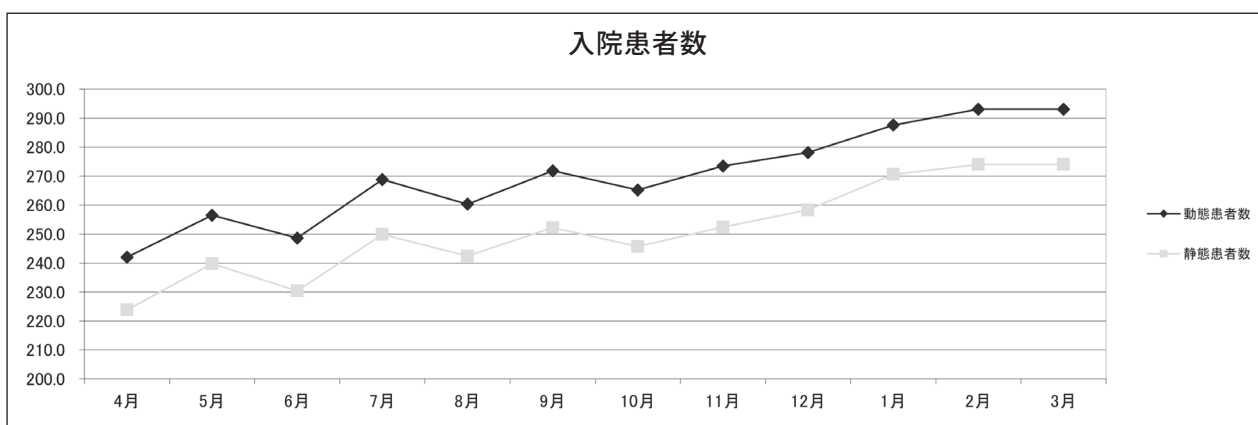
(人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	稼働率
242.0	256.5	248.6	268.8	260.3	271.8	265.2	273.5	278.1	287.6	293.1	289.4	269.6	95.6%

【入院静態患者数】

(人)

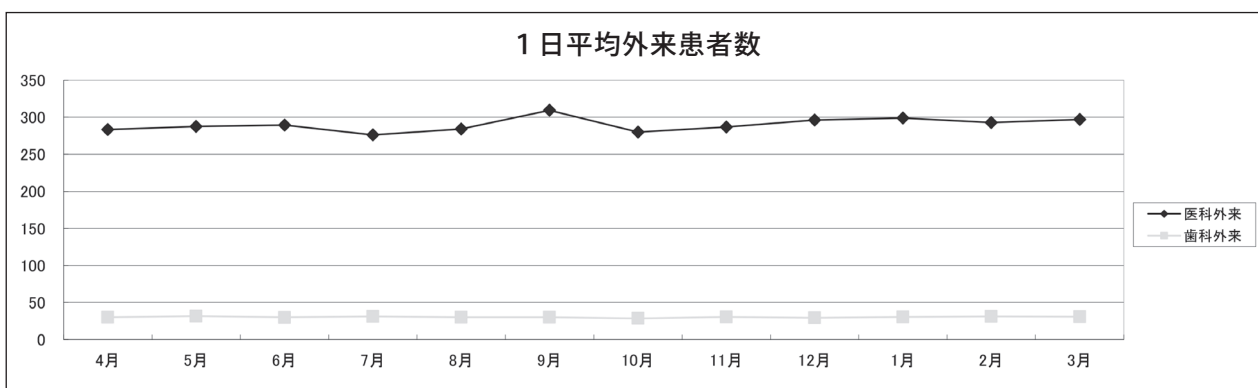
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	占床率
223.8	239.8	230.4	249.9	242.4	252.2	245.7	252.4	258.3	270.6	274.0	270.0	250.8	88.9%



【1日平均外来患者数】

(人)

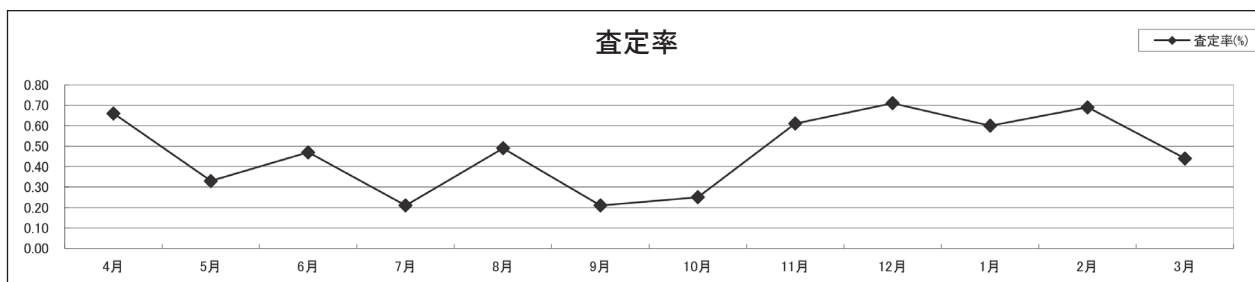
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
医科外来	283.4	287.6	289.6	276.2	284.2	309.4	280.2	286.8	296.5	298.8	293.1	297.0	290.2
歯科外来	30.2	31.6	29.9	31.1	30.0	30.2	28.5	30.6	29.3	30.3	31.1	30.8	30.3



【診療報酬に対する査定率】

(%)

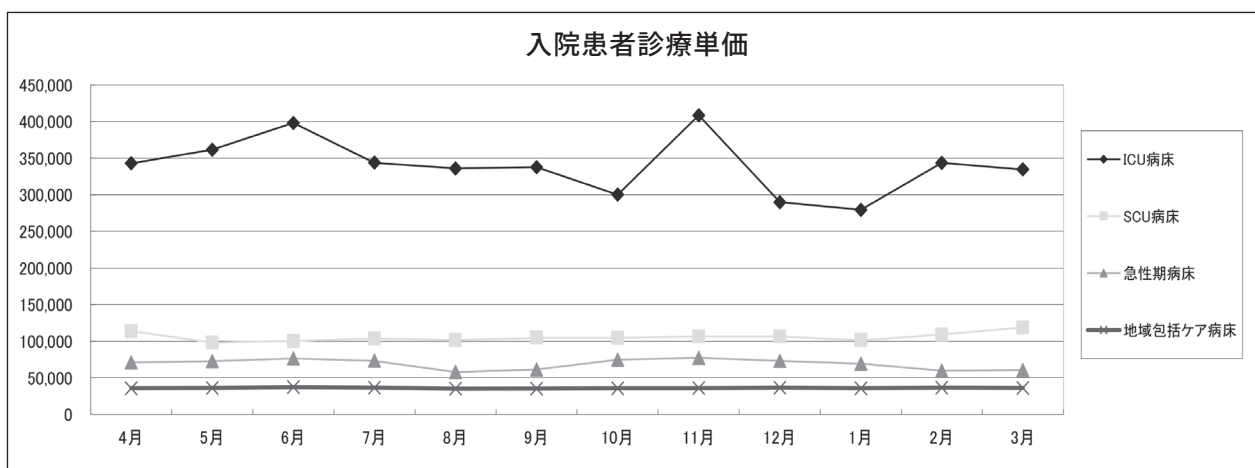
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
査定率(%)	0.66	0.33	0.47	0.21	0.49	0.21	0.25	0.61	0.71	0.60	0.69	0.44	0.47



【入院患者診療単価】

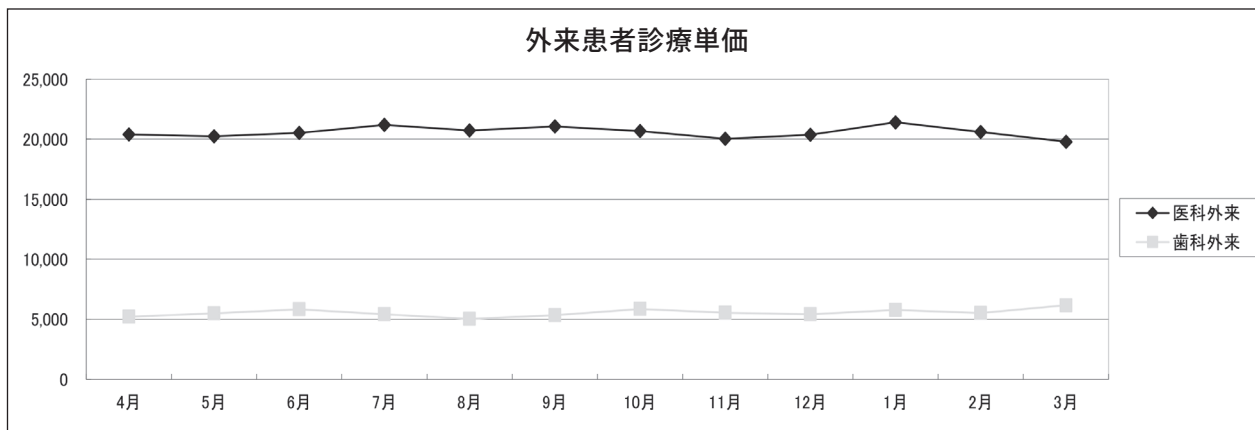
(%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
ICU 病床	342,985	361,492	398,061	343,739	335,930	337,802	300,125	408,528	289,893	279,547	343,435	334,537	339,673
SCU 病床	113,839	98,171	100,314	103,743	101,606	104,785	104,691	106,800	106,788	101,457	109,052	118,869	105,843
急性期病床	70,876	72,667	76,325	73,379	57,933	61,271	74,736	77,432	73,057	69,511	59,752	60,406	68,945
地域包括ケア病床	35,834	36,318	37,438	36,772	35,237	35,420	35,976	35,998	36,710	35,751	36,733	36,396	36,215
平均	64,911	66,550	69,593	67,466	64,245	67,311	68,035	70,382	66,897	64,036	67,377	67,851	67,055



【外来患者診療単価】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
医科外来	20,403	20,241	20,525	21,198	20,727	21,067	20,665	20,038	20,374	21,406	20,606	19,786	20,586
歯科外来	5,221	5,484	5,830	5,423	5,031	5,351	5,856	5,544	5,417	5,781	5,511	6,172	5,552



【2024 年度 主要医療機器・環境設備等導入一覧】

部 門	機 器（具）名
心臓・弁膜症センター	心音図装置一式
脳 神 経 外 科	IMAGE1 S TM Rubina TM -mORe to discover
	マイダレックス MR8 ドリルシステム
外 科	ICG クリアランスメーター (RK-1000 モデル A)
泌 尿 器 科	体外式結石破碎装置
肝 臓 内 科	汎用超音波画像診断装置
麻 酔 科	CADD Solis PIB ポンプ
	超音波診断装置 SONOSITE Px 用超音波プローブコンベックス
手術センター運営委員会	リチウムチャージャー 1 台・リチウムチャージバッテリー 6 台
	カセット式卓上型高圧蒸気滅菌器（ロングカセット付）
ICU 運 営 委 員 会	エアウェイマネジメントモバイルスコープ（気管支鏡）
救急医療運営委員会	生体情報モニター
看 護 部	ベッド・ベッド柵・オーバーテーブル 6 台
臨 床 工 学 部	生体情報モニタ（セントラルモニタ）
	透析用監視装置
放 射 線 技 術 部	血管造影装置 側面 X 線管球交換
臨 床 検 査 技 術 部	システム生物顕微鏡
	超音波画像診断装置 Vivid E95 Ultra Edition
	脳波計
薬 剤 部	薬剤管理指導支援システム
	注射調剤・監査支援システム
栄 養 管 理 部	HOMES と給食支援システムの連動に係るシステム開発及び改修
施 設 課	蒸気ボイラー更新
医 療 情 報 本 部	電話音声案内システム（IVR）
	RPA 導入費用

（概ね、購入金額が 100 万円を超えたもの）

15. 安全管理部

安全管理部 看護部課長 吉村 節子

I：構成員

林病院長補佐 吉村（安全管理専従者 看護部）

II：臨床活動

【施設基準】

医療安全対策加算 1 医療安全対策地域連携加算 1

【2024 年度目標】

職員の安全に対する関心を向上させ、組織全体で安全な医療の提供に取り組むことができる。

【活動内容】

◇医療安全研修

- ・ 新任医師オリエンテーション（4 月、6 月、10 月） 参加者：37 名
- ・ 新入職時研修 参加者：90 名
- ・ 看護部新入職時研修 参加者：36 名
- ・ 医療安全管理研修開始（A コース 5 回開催：6 月～11 月） 参加者：14 名
- ・ 中途採用者研修（5 月、6 月、7 月、8 月、9 月、11 月） 参加者：36 名

◇セーフティワーキンググループ活動

- ・ 会議 第 4 金曜日開催
- ・ 7 月「安全・安心いっぱい！月間」

病院テーマ：患者誤認対策の徹底 ～確認はすべての基本～

病院テーマをもとに各部門・部署でテーマを決め取り組んだ。また、テーマに沿った安全カルタを作成し、投票を行った。

1 位：看護部 手術センター 同 1 位：医療事務課 外来系 3 位：放射線技術部

- ・ 12 月「安全・安心いっぱい！月間」

テーマ『部署の good job（レベル 0 報告）イチ押し自慢』としてレベル 0 事例の報告を行いその中で最もよかった 1 事例を選択し、投票を行った。

1 位：薬剤部 2 位：臨床工学部 3 位：放射線技術部

◇事例検討会 16 回開催

◇白十字グループ安全管理協議会活動

◇医療安全対策地域連携

- ・ 医療安全対策加算 I - I 連携

公立学校共済組合九州中央病院、医療法人西福岡病院、医療法人博仁会福岡リハビリテーション病院、社会医療法人大成会福岡記念病院

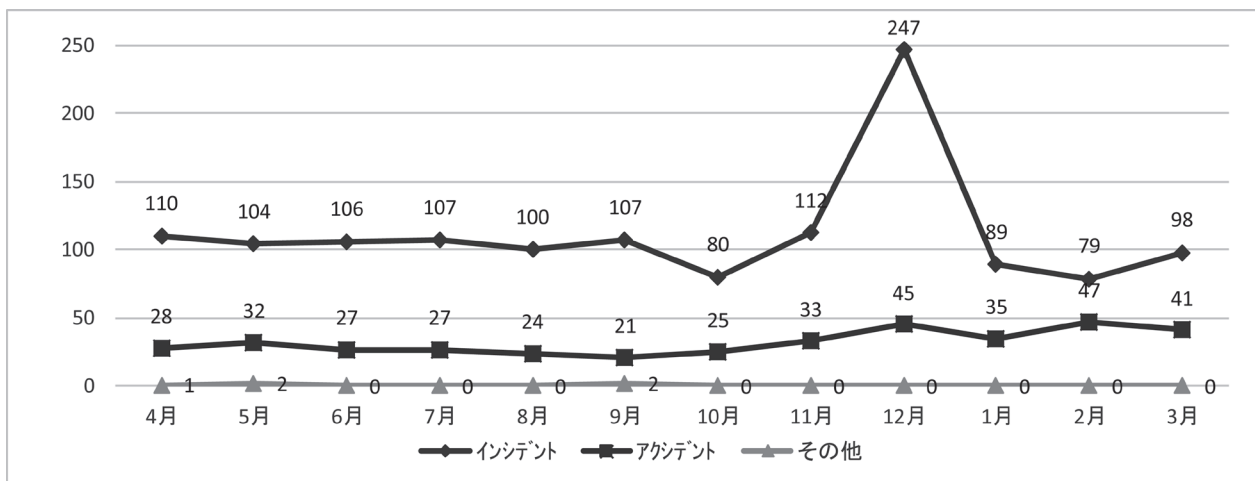
- ・ 医療安全対策加算 I - II 連携

糸島医師会病院

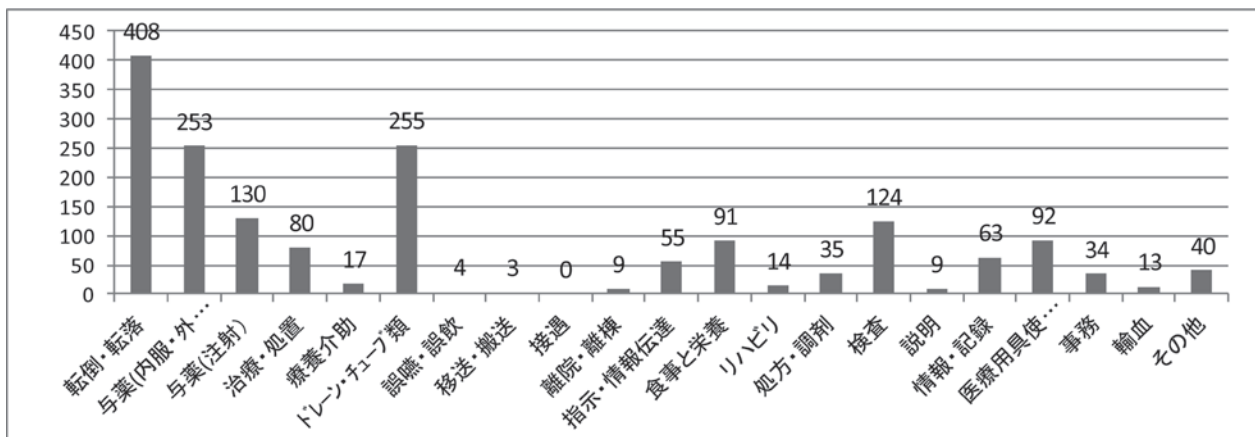
（社会福祉法人喜悦会 那珂川病院、医療法人輝松会 松尾内科病院、日本赤十字社 今津赤十字病院、医療法人 南川整形外科病院）

Ⅲ：業績

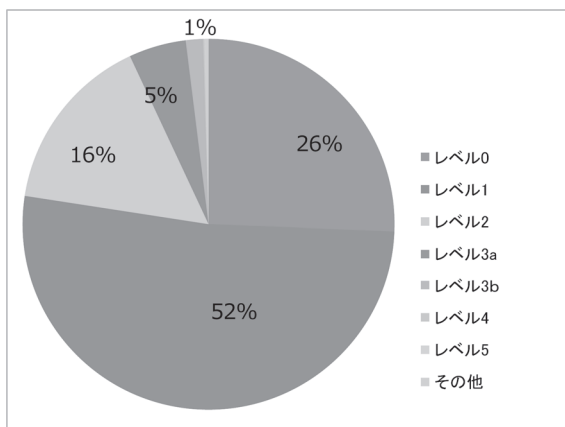
【インシデント・アクシデント報告統計】



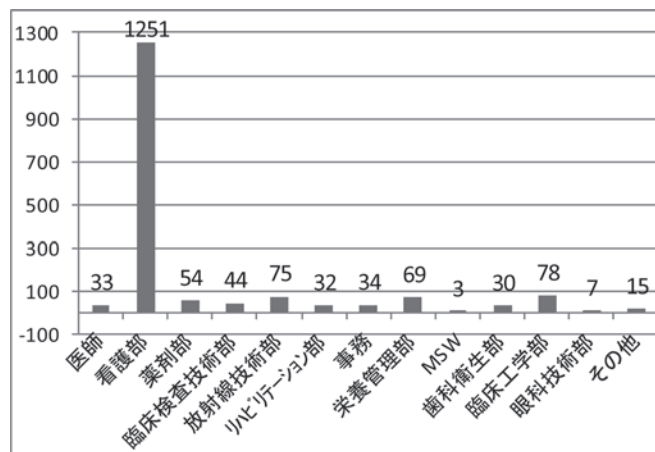
【分類別件数】



【レベル別件数】



【職種別報告件数】



Ⅳ：現状と展望

医療安全管理委員会、各部会と協働し活動を行った。アクシデントレベル3a以上（スキンテア事例含む）の発生事例は114件（2023年度97件）であり、そのうちレベル3b以上の事例は29件（レベル4：2件、レベル5：1件）であった。

転倒転落による事例 408 件（2023 年度 315 件）、チューブトラブル関連が 255 件（2023 年度 168 件）であった。転倒転落は、2023 年度のインシデント（レベル 0・1）の割合は全体の 66.3%に対して、2024 年度は 59.4%、アクシデント（レベル 2 以上）の割合は、2023 年度は 33.3%に対して、2024 年度は 40.6%と、増加した結果であった。次年度は転倒転落防止部会と協働し対策を検討する。

チューブトラブルに関しては、NG チューブや点滴針の再挿入はレベル 2 に変更したことで、2023 年度は 31%に対して、2024 年度は 43.6%という結果であった。次年度は自己抜去（抜針）しないようチューブトラブル検討部会と協働し対策を検討する。

2023 年度から 12 月の安全・安心いっぱい月間！で取り組んでいる『部署の good job（レベル 0 報告）イチ押し自慢』を今年度も実施した。その結果、2023 年度（12 月）のレベル 0 の報告件数が 121 件に対して、2024 年度（12 月）160 件と増加した。引き続きレベル 0 の報告件数を増やし、有害事象事例を現象できるよう、分析し対策を立案できるよう取り組んでいく。

医療安全対策地域連携では、加算Ⅰ・Ⅱ連携で施設訪問し、お互いの問題点や課題等に関する意見交換が活発にでき、業務改善につなげることができた。

16. 患者支援センター

センター長 阿部 裕典

I：構成員

センター長：阿部副院長

管理者：看護課長 1 名、事務課長 1 名、事務係長 1 名、看護主任 1 名、事務主任 1 名、MSW 副主任 1 名

他職員：事務職員 8 名（パート 1 名）、MSW 7 名、看護師 2 名、ケアマネージャー 1 名

II：2024 年度活動内容

新規紹介・救急車受け入れ件数ともに 2023 年度を上回り病床稼働は 95%を超えた。2024 年度始まりは急激な患者数の落ち込みを認め、新入院患者数増に向け目標数値を一部修正し、下半期は積極的な救急受け入れを行い、高稼働を維持することができた。一方で感染拡大シーズンは病床逼迫が常態化し、救急患者のお断り件数も顕著に増加した。そのため、今年度より早期転院搬送（下り搬送）の仕組みを構築し運用を開始した。近隣医療機関と提携し、安定した病床コントロール・救急受け入れができるよう現在も取り組みを継続している。

地域連携を強化するために、医療機関においては 5 年ぶりに「2024 白十字病院 地域医療連携～感謝のタベ～」をオリエンタルホテル博多にて開催した。総勢 82 施設 163 名（院内出席者含む）の方に参加いただき有意義な時間を設けることができた。地域貢献活動については、石丸校区の夏祭りに出店や合同防災訓練の開催、地域カフェ（毎月 1 回）を開催した。このような活動を通じて地域住民の皆様との交流を図り、地域の一員として誰もが住みやすいまちづくりに今後も貢献していきたい。

III：業績

患者支援センター業務内容 *（ ）内は前年度実績

入院時支援・入院会計窓口・病床管理・前方連携・後方連携

●入院時支援

総入院患者数 6,952 名（6,810 名）/ 救急車受け入れ台数 4,430 台（4,308 台）/ 病床稼働率 95.6%（91.8%）

平均在院日数 11.3 日（10.8 日）

急性期病棟：病床稼働率 95.5% 平均在院日数 11.2 日

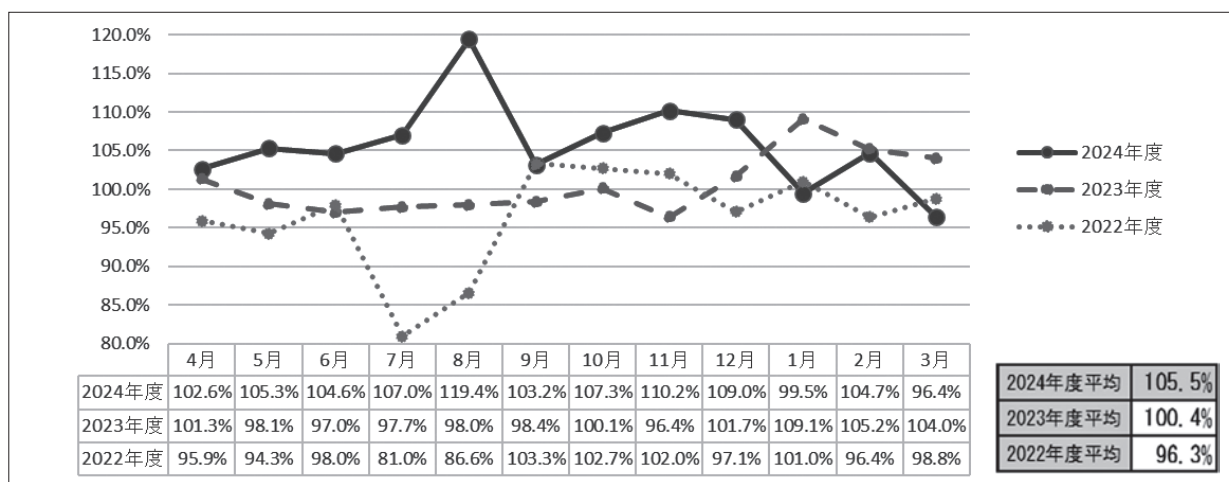
地域包括ケア病棟：病床稼働率 100.4% / 院内転床割合 58%（55%）/ 在宅復帰率 80%（78.4%）

入院時コーディネート介入件数 2,878 件（2,973 件）/ 入院時支援加算算定件数 745 件（794 件）

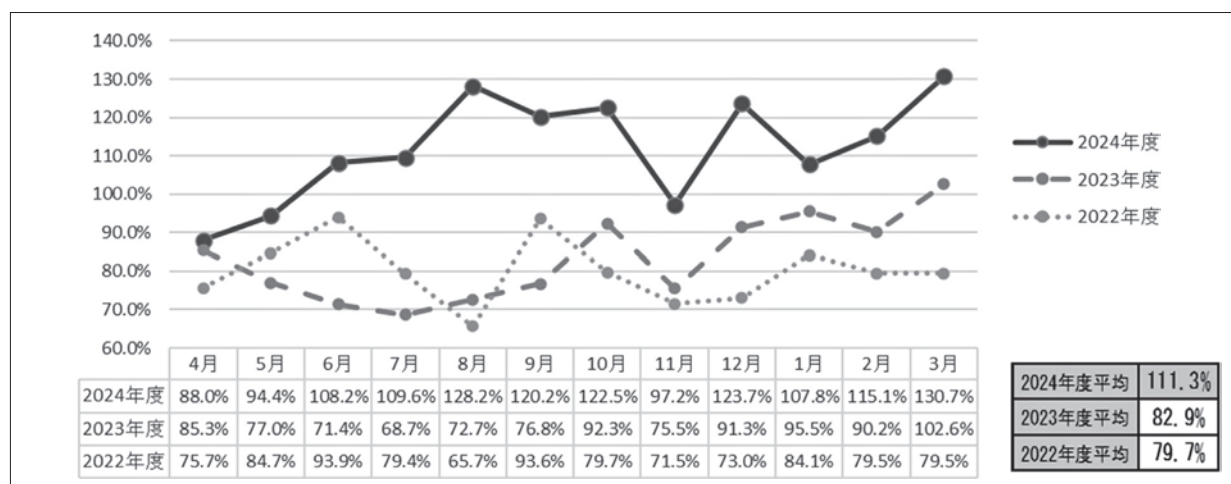
●前方連携業務

【登録医療機関数】 251 施設（2023 年度：256 施設 2022 年度：251 施設）

【地域医療支援病院 紹介率推移】



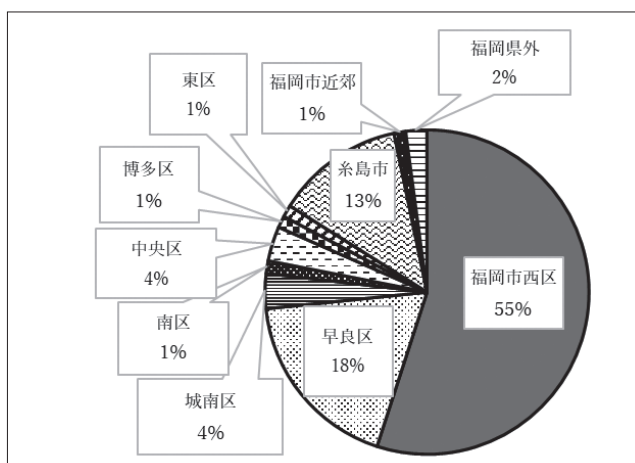
【地域医療支援病院 逆紹介率推移】



【診療科別紹介件数内訳】

	2022 年度	2023 年度	2024 年度
泌尿器科	978	1,041	1,053
消化器内科	736	776	853
放射線科	793	733	777
心臓血管内科	672	794	746
外科	630	651	711
歯科口腔外科	431	488	545
脳神経外科	553	584	539
形成外科	489	440	507
整形外科	478	487	495
脳・血管内科	422	444	425
肝臓内科	255	283	397
腎臓内科	344	316	366
糖尿病内科	269	253	270
心臓血管外科	211	228	245
乳腺外科	141	183	212
呼吸器内科	86	187	209
総合診療科			198
救急科	105	121	169
眼科	143	153	149
血液内科	25	33	30
内分泌内科	35	28	29
皮膚科	4	5	2
精神科	0	1	0
合計	7,800	8,229	8,927

【紹介元所在地】

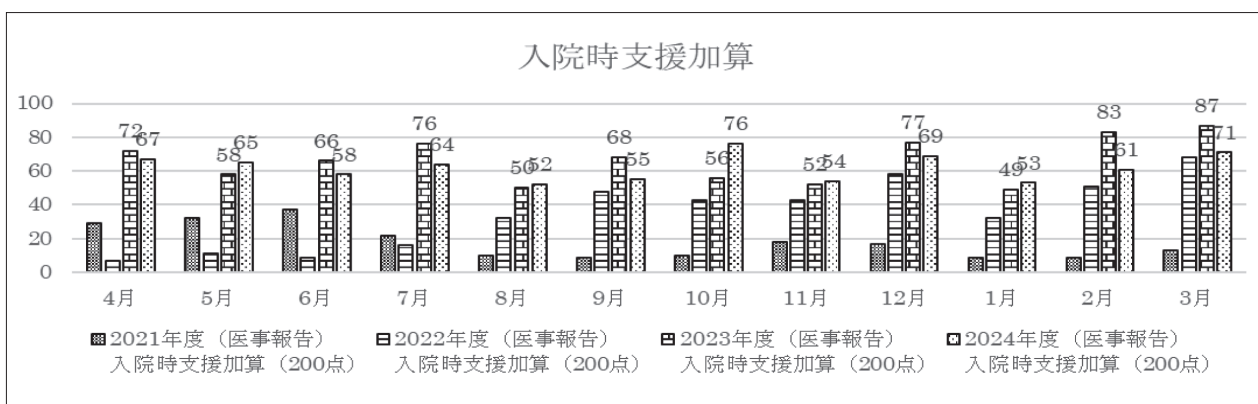
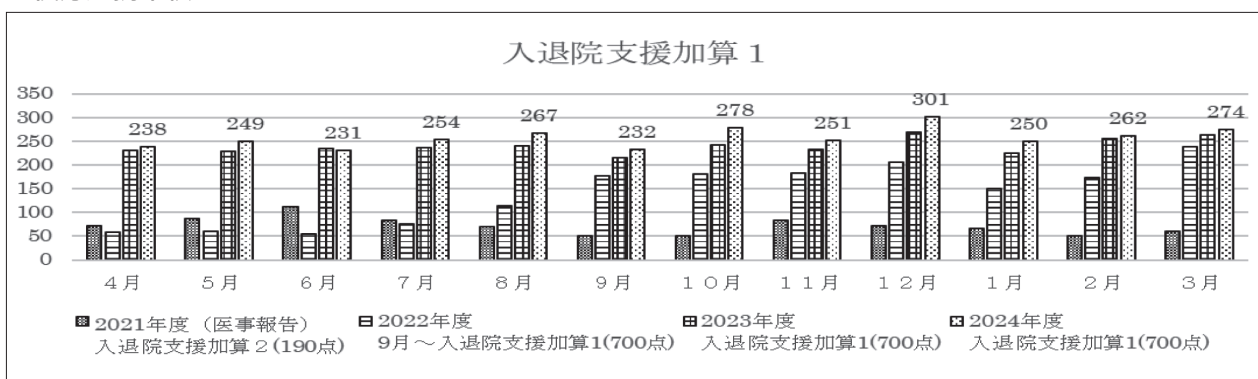


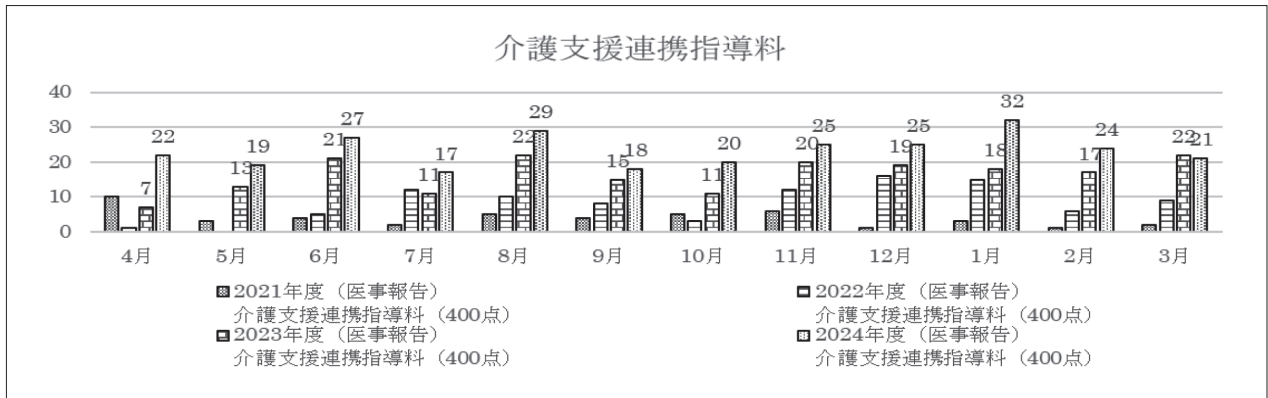
地区	件数
福岡市西区	4,910
福岡市早良区	1,639
福岡市城南区	311
福岡市南区	112
福岡市中央区	308
福岡市博多区	106
福岡市東区	106
糸島市	1,143
福岡市近郊	103
福岡県外	189
合計	8,927

【西区医師会学術講演会・啐啄会】

回数	開催年月日	演題	診療科	演者	出席者		
					院外	法人職員	合計
第 125 回	2024 年 5 月 15 日	泌尿器ロボット手術の最前線	福岡大学医学部	羽賀宣博	7	45	52
			腎泌尿器 外科学講座				
			主任教授・ 診療部長				
第 126 回	2024 年 7 月 17 日	大腸がんに対するロボット手術の現状と 今後の展望	福岡大学医学部	長谷川傑	22	46	68
			消化器外科学 教室教授				
第 127 回	2024 年 11 月 20 日	当院における放射線技術部の関わり～知 られざる診療放射線技師の姿～	放射線技術部	川口高志	10	47	57
			放射線技術部	山口広之			
第 128 回	2025 年 1 月 15 日	CKD 重症化予防のための医療連携	副院長／ 腎臓内科部長	木村廣志	10	32	42
第 129 回	2025 年 3 月 19 日	要介護品齢者における誤嚥性肺炎の実態 ～摂食咀嚼嚥下機能と栄養状態について～	歯科・歯科 口腔外科部長	嶋村知記	44	32	76
		「GLIM 基準」とは～白十字病院 NST の 取り組みについて～	栄養管理部部長	島井里佳			

●後方連携業績





新規入院・救急患者の増加に伴い、入退院支援加算・介護支援連携指導料の算定が順調に増加している。

IV：現状と展望

今後さらに高齢者急患の増加が想定されている。地域医療支援病院としての役割を発揮するためには、効果的な病床運用と救急受け入れ体制の構築が必要であり、これまで以上に地域医療機関との連携強化を目指す必要がある。そのためには、軽症救急患者の早期転院搬送のシステム構築・安定運用に向け早急に進めていく方針とした。

また、地域貢献においては、次年度は初の地域感謝祭等を企画中であり、地域住民の方々との交流を深めていきたいと考える。

17. TQM センター

TQM センター長 熊井 康敬

【2024 年度 TQM センター活動について】

I. 構成員

副院長兼 TQM センター長：熊井 康敬
薬剤部 部長：高津 宏典
看護部 課長：中里 友子
医療情報本部 課長：中島 貴宏
資材課 課長：長友 信明
臨床検査技術部 係長：尾上 由美
放射線技術部 主任：田中 良斉
リハビリテーション部 主任：古賀 研人
栄養管理部 副主任：石井 雅子
臨床工学部 副主任：岡村 純

II. 活動内容

◇ TQM センターミーティング開催 計 12 回（第 271 回 4 月 4 日～第 282 回 3 月 6 日）

◇患者さんのお声・職員のお声対応（回収、PDCA 会議、回答掲示）計 12 回の会議

◇いい仕事人の募集・表彰

第 46 回受賞者

山口 広之さん（放射線技術部）：動画作成

井手 めぐみさん（総合案内担当）：総合案内業務

◇職員満足度調査アンケートの実施（2024 年 2 月 5 日～2 月 18 日）

※ 2024 年度も外部委託により集計し、結果は HOMES 掲載済。

◇各種委員会一覧の取りまとめ

◇委員会活動報告と次年度目標の取りまとめ

◇全体研修の取りまとめ

2024 年度からの新たな取り組みとして、職員に対する全体研修の計画の取りまとめならびに実施報告の運用体制を構築した。

◇提案制度の運用

2024 年度は提案が全 18 件に及びそのうち 4 件を採用とした。2025 年度は表彰の再開を予定している。

- ・田嶋 夏実さん（資材課）：使用しなくなった消耗品をメルカリ利用でリサイクル
- ・川村 峰子さん（栄養管理部）：駐車場、人も車も安全 UP!
- ・平岩 穂乃佳さん（臨床工学部）：駐車場への監視カメラ設置もしくは注意喚起
- ・ネルソン咲子さん（患者支援センター）：古着の提供と再利用

◇ QC 活動

4 階南病棟において「SPD シール紛失の軽減に向けた取り組み」に対して介入を行い、一定の成果をあげることができた。

◇ e ラーニングシステム運用

＜コンテンツの登録＞

2024 年 4 月 「高次脳機能障害患者さんへの関わり方について」掲載

5 月 「嚥下調整食の作り方」動画掲載

2024 年度 個人情報保護研修会

「下腿周囲長の測定方法」掲載

挨拶運動についてのアンケート

6 月 2024 年度 DPC 戦略委員会研修掲載

7 月 安全カルタ投票

2024 年度 第 1 回感染対策研修会

2024 年度 第 1 回医療安全研修会

2024 年度 保険診療に関する研修会「療養担当規則」

8 月 2024 年度 セーフティマネジメント大会

医療情報プラザの患者さん用動画を掲載

9 月 「TENA あて方」動画掲載

2024 年度 医療機器管理部会研修「AED」

2024 年度 医療放射線管理部会

10 月 2024 年度 第 2 回感染対策研修会

「感染予防川柳」アンケート投票

10 月分 CE クイズ

11 月 11 月分 CE クイズ

2024 年度 ユマニチュード自己評価

2024 年度摂食嚥下理解度チェック

12 月 医療情報プラザ患者さん用動画掲載

「リハスタッフによる喀痰吸引」動画掲載

2025 年 1 月 2024 年度 身体拘束最小化に向けた研修

2024 年度 白十字病院在宅連携研修

2 月 部署の good job（レベル 0 報告）イチ押し自慢投票

2024 年度 医療廃棄物に関する研修会

ペイハラアンケート

3 月 2024 年度 第 2 回医療機器管理部会研修

安全倫理研修動画掲載、テスト

2024 年度 保険診療検討委員会研修

◇学会発表システムの運用と表彰

【優秀賞】 発表者：診療部（研修医） 板谷 太郎 さん

「スエヒロタケによって発症したアレルギー性気管支肺真菌症の一例」

第 344 回日本内科学会九州地方会

【優秀賞】 発表者：放射線技術部 山口 広之 さん
「脳動脈瘤治療最前線 CT での画像支援」

第 10 回福岡県診療放射線技師会学術大会

【優秀賞】 発表者：リハビリテーション部 坂本 翔平 さん
「病的骨折のリスクが高い患者へ他職種協同で行った退院支援」

第 49 回日本骨髄腫学会学術集会

【優秀賞】 発表者：臨床工学部 平岩 穂乃佳 さん
「ACT 測定におけるカートリッジ選択の有用性」

第 18 回九州・沖縄臨床工学会

【優秀賞】 発表者：看護部 吉村 節子 さん
「病院理念の実現に向けた透析センターの取り組み」

第 54 回看護学会学術集会

【優秀賞】 発表者：臨床検査技術部 佐藤 佑子 さん
「マンモグラフィ所見が石灰化のみであった超音波所見の検討」

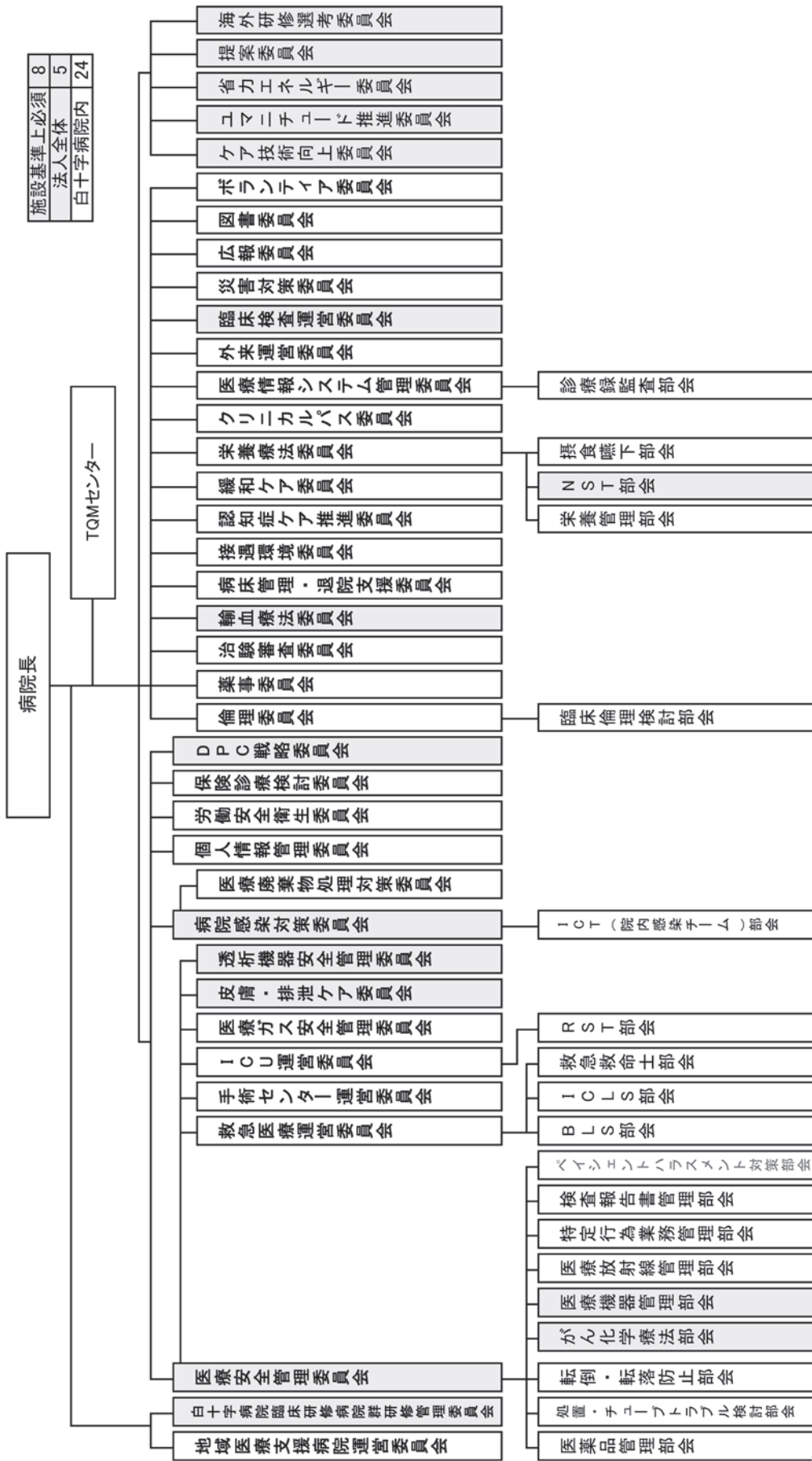
第 33 回日本乳癌検診学会学術総会

<まとめ>

当院は 2023 年度に病院機能評価の更新受審を終えましたが、TQM センターが担うべき役割としてご指摘をいただいたのが「全体研修の管理」でした。それを受けて、2024 年度から新たに運用を開始するべく、2023 年度の下半期からその仕組み作りに注力してきました。これによって、施設基準上開催すべき研修のほか、職種を問わず広く参加を募る専門的な研修が一覧表で可視化できるようになり、内容や開催時期を分かりやすく職員に周知することができました。研修終了後には所定の書式を用いた開催報告の提出を求めることとしていますので、今後はそれを材料に研修内容の評価とフィードバックを行い、会自体のさらなる質の向上に努めていきたいと思っています。

2025 年度は一部メンバーの交代もありますので、各セクションの担当者の見直しを行うとともに、職員意識調査で挙げた意見に対する具体的な施策の着手や提案制度表彰の再開など、より一層 TQM 活動を充実させ、病院機能の質の向上に貢献できるよう努めて参ります。

18. 各種委員会



医療ガス安全管理委員会

I：構成員

瀏野病院長、吉野事務長、浦田部長・井手（臨床工学部）、平井部長（麻酔科）、
川本主任（施設課）、馬場課長（看護部 手術センター）

II：臨床活動

1）医療ガス点検

- ・エア・ウォーター西日本株式会社による医療ガス（EOG、笑気、液化酸素、圧縮空気、バキューム）の年 1 回点検を実施し、異常なし。
- ・CE による医療ガス配管アウトレット 年 4 回点検実施し、異常なし

2）2024 年度医療ガス安全管理研修の開催

- ・医療ガス安全管理研修動画を作成し、全職員対象に視聴をすすめた

医療安全管理委員会

I：構成員

瀏野病院長、林病院長補佐、三戸医局長、吉野事務長、佐伯看護部長、森臨床検査技術部部長、
高津薬剤部部長、浦田臨床工学部部長、島井栄養管理部部長、樋口看護課長、
小川歯科衛生部課長、福井リハビリテーション部次長、村上システム開発室主任、
川口放射線技術部課長、岩崎眼科技術部係長、吉村安全管理部課長（医療安全管理者）
太田先生（顧問弁護士）、中村先生（弁護士）

II：臨床活動（部会含む）

1）医療安全管理委員会

【目標】

職員の安全に対する関心を向上させ、組織全体で安全な医療の提供に取り組むことができる。

【活動内容】

◇定例委員会は毎月第 3 火曜日に開催を行った。

◇医療安全推進月間「安全・安心いっぱい！月間」を 2 回 / 年開催

7 月 テーマ：患者誤認対策の徹底！～確認はすべての基本～

12 月 テーマ：部署の good job（レベル 0 報告）イチ押し自慢

◇院内研修

- ・医療安全研修会

内容：組織で取り組む医療安全

講師：九州大学病院 病院長補佐 九州大学病院 ARO 次世代医療センター 特任准教授

鮎澤 純子 先生

形式：対面、e-ラーニング

全体研修受講率：100%

- ・第 41 回セーフティマネジメント大会

7 月安全・安心いっぱい！月間の取り組みを、12 部門（部署）を A・B グループに分け、発表。

形式：e-ラーニング

全体研修参加率：99.0%%

投票結果

Aグループ	1位	放射線技術部	2位	看護部 5階北病棟	3位	栄養管理部
Bグループ	1位	総務課	2位	リハビリテーション部	3位	薬剤部

- ・医療安全・臨床倫理研修会

内容：DNARの倫理

講師：宮崎大学付属病院 臨床倫理部長 宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科教授

板井 孝太郎 先生

形式：対面、e-ラーニング

全体研修受講率：95%

◇ 2025年度 部会追加

4月に報告書管理部会、9月にペイシェントハラスメント部会追加

2) 医薬品管理部会

【部会目標】

部門横断的な処方、調剤、与薬プロセスの見直し

【活動報告】

- ・医薬品安全管理研修会の実施

【注射薬カリウム製剤投与時の注意と当院での対策について】

【医薬品管理体制について】

- ・診療メールの改修について

処方切れをメール多職種にも送れるようにシステム改修

- ・入院指示簿の改修について

内服・持参薬・注射実施画面で入院時薬剤変更指示が閲覧できるようにシステム改修

薬剤師指示の定型文を作成

指示簿名の一部変更（インスリン使用法⇒糖尿病注射薬）

- ・ハイパーパスの改修について

持参薬入力の際に中止薬がハイパーパスに表示されるようにシステム改修

退院時処方がハイパーパスに表示されるようにシステム改修

- ・アレルギー記載のフォントサイズ、色調の変更

- ・薬剤情報提供書の廃止（コストカットの観点。退院と外来は継続）

- ・持参薬中止処理の際の分包中止（コストカット）

- ・持参薬の運用方法の変更（ダムウェイターでの受け渡し可）

3) 処置・チューブトラブル検討部会

【部会目標】

1. 処置チューブトラブルに関するインシデント・アクシデントを減少する（2023年度171件）

2. 気切チューブ固定マニュアルを改訂し、頸部術後患者の気切管理が行える。

【活動報告】

- ・処置チューブトラブルに関するインシデント・アクシデントを部会で共有し、傾向と改善策を検討し、お知らせ掲載することによって周知を図るようにした（2回掲載）
- ・TOP 輸液セットを使用していたが、感染面や接続の簡便さを検討の上 JMS の輸液セットをサンプリングし、導入・切り替えを行った。
- ・ミゼアセーフの適正使用のため、業者による説明会を開催した。コロナウイルスの流行もあり、日程変更・延期となったが、3月に開催でき、既に導入しているミゼアセーフ W の正しい使用方法やミゼアセーフ X も導入を検討。
- ・気切チューブの固定は、サナダ紐による固定のみであったが、頸椎の術後の方向でたびたび固定をしないことや皮膚トラブルの観点からバンドタイプの導入を検討した。
- ・2024年2月までの処置チューブトラブルに関するインシデント・アクシデント件数は118件と昨年より減少しており、取り組みの成果が伺える。今後、ミゼアセーフの適正使用により更なるチューブトラブルの減少に向け取り組み継続する。

4) 転倒・転落防止部会

【部会目標】

レベル 3b 発生件数 12 件以内（2023 年度 22 件発生）

【活動報告】

- ・3b 事例の転倒分析
3b が発生したら、患者のもとへラウンドし、事後対策として当該部署へ部会から提案を行った。また、啓蒙ポスターを作成し、医療安全情報へ掲載した。
22 件 b 中、隔離だった患者を除きほぼすべての患者へラウンドできた。
- ・転倒転落防止策のフローチャート作成に向けた検討を行った。
- ・患者が丸イスに座っていて転倒した事例から、丸イスを患者に使用しないよう啓蒙ポスターを作成、掲示とスクリーンセーバーへ掲載した。
- ・患者説明用パンフレットの見直し
広報の協力を得て、入院前の患者や入院中の患者にみてもらえるように、ホームページ内に動画を作成した。タイトル：入院時転倒転落防止啓発動画
- ・当院の転倒に対する認識や対応について、入院のしおり内に組み込む形式で文章を改訂した。
- ・転倒後の外傷発生予防のため「ころやわセンサー付きマット」を 3 台新規購入し、各フロアで使用開始した。また、「ころやわ」各病棟 1 枚ずつ（6 階南病棟のみ 2 枚）設置した。

5) がん化学療法部会

【部会目標】

安全に化学療法を施行できる体制作りの構築

【活動報告】

- ・新規レジメン承認 全 14 レジメン承認
- ・免疫関連有害事象フローチャート作成
- ・化学療法パス新規作成（キートルーダパス）
- ・がん化学療法看護認定看護師による静脈穿刺開始
- ・抗がん剤投与時の制吐剤の見直し⇒ Day1 分を注射へ切り替え

- ・がん化学療法運営規定の一部改訂（状況をみて初回より外来化学療法導入可能な旨記載）
- ・化学療法システムの一部改修
- ・がん薬物療法体制充実加算算定開始（2024 年 8 月～）

《2024 年度》

※化学療法件数：1126 件（外来；983 件 入院；143 件） 中止；184 件

※連携充実加算算定件数（月 1 回 100 点）：449 件

※体制充実加算算定件数（月 1 回 150 点）：294 件

6) 医療機器管理部会

【部会目標】

1. 医療機器安全使用のための研修会の開催（e ラーニング等）
2. 安全安心な医療機器の提供
3. 院外の医療機器関連安全情報の収集と共有
4. HOMES 医療機器管理システムの改善
5. 高額医療機器整備計画の更新・購入（更新）時期の検討
6. 保守契約の検討・見直し

【活動報告】

- ・安全安心な医療機器提供を目的とした、医療機器安全管理体制の整備
- ・医療機器安全使用のための研修実施（e ラーニング）
- ・医療機器管理システムを利用した一元化管理の推進
- ・安全情報の収集と共有
- ・中長期高額医療機器整備計画の策定、更新
- ・保健所立入検査での指摘事項なし

7) 医療放射線管理部会

【部会目標】

1. 診療用放射線の安全利用に努める
2. 診療用放射線の安全使用のための研修会開催（e ラーニング等）
3. 医療被ばく低減のための線量管理実施
4. 放射線の過剰被ばくその他の放射線診療に関する相談や事例発生時の対応

【活動報告】

- ・部会の開催（2025 年 3 月）
- ・診療用放射線の安全使用のための研修会開催
「医療被ばくの基本的な考え方」（e ラーニングにて）
- ・医師への研修 「医療被ばくについて」 医局会にて開催（5 月）
- ・線量管理「MINCADI」にて実施
- ・被ばく相談の対応を実施

8) 特定行為業務管理部会

【部会目標】

1. 特定行為研修を修了した看護師が安全に特定行為を実践できる場、機会を提供できる
2. 実践した特定行為の評価ができる
3. 特定行為実践によりタスクシフト／シェアに貢献できる
4. ホームページを改訂する

【活動報告】

- ・第3木曜日（3か月毎）に定期部会を開催し、活動方法の検討や症例報告、評価を行った
- ・実施した特定行為は6,173件であり、作成した診療看護師のマニュアルに沿って実践することで有害事象はなく、介入も適切であった。
- ・診療看護師全員が特定における臨床実習指導者となった
- ・新メンバーの自己紹介をホームページに掲載した

9) 検査報告書管理部会

【部会目標】

1. 画像検査報告書、病理診断検査報告書の確認状況を把握し医療安全に貢献する
2. 画像診断報告書未確認状況を集計し定期的に関連部署へ伝達することで未確認レポートを減少させることができる

【活動報告】

- ・毎週自思惟される『火曜会』時に画像検査未確認を集計し医局へ提示した
- ・診療連絡協議会で前月の画像検査未確認件数を診療部長へ提示し確認を促した
- ・病理検査については、病理診断と臨床診断の解離がある場合に介入しカルテチェック、医師への連絡を行い治療の遅延や診断ミスがないように務めた
- ・2月の医局会で検査報告書の管理について説明を行った
- ・2024年度画像検査報告書未確認は2,688件だった

10) ペイシェントハラスメント対策部会

【部会目標】

ペイシェントハラスメントから職員を守る

【活動報告】

- ・院内ポスター掲示
- ・問題患者報告システムの活用
- ・コードーホワイトの運用開始
- ・職員アンケートの実施
- ・院内イントラに事例提示

病院感染対策委員会

I：構成員

病院長：渕野 泰秀

病院長補佐：林 修司

部長：井手 均

部長：三戸 隆裕

部長：松本 武格

部長：浅生 義人
事務長：吉野 典助
部長：佐伯 美穂子
部長：高津 宏典
部長：森 健一
部長：浦田 英明
次長：島井 里香
次長：福井 哲
課長：川口 高志
課長：宮崎 由佳
課長：小川 順子
課長：山口 佐月
係長：岩崎 聡
主任：入江 育美
和方 康貴

II. 臨床活動

- ・毎月の委員会で以下の項目の検討を行った。
MRSA 検出状況・耐性菌検出状況・血流感染発生状況・抗生剤使用状況・抗生剤使用動向分析・
抗生剤適正使用・血液汚染事故発生状況・院内特殊感染症発生状況・新型コロナウイルス・イン
フルエンザ発生状況
- ・新型コロナウイルスワクチン・インフルエンザワクチン・HB ワクチン・HPV ワクチン
- ・感染マニュアルの改訂・更新
- ・職員研修・院内広報活動
- ・感染対策向上加算 2 施設としての活動
感染対策向上加算 1 施設のカンファレンス 3 回 / 年参加
その内、新興感染症の発生等を想定した訓練 1 回 / 年参加
ICT 交流会 2 回 / 年参加
サーベイランス報告会 1 回 / 年参加
- ・感染対策向上加算 1 施設としての活動
感染対策向上加算 3 の施設とカンファレンス 1 回実施
感染対策向上加算 1 同士の相互チェック実施

ラウンド部会

- ・1 回 / 週 約 1 時間、4 職種（医師・看護師・薬剤師・検査技師）でミーティングを行い、以下の
内容を検討している。
抗生剤使用状況・抗生剤適正使用・MRSA や耐性菌検出状況・血流感染発生状況・
アウトブレイクの有無など
抗菌薬適正使用に関する介入件数：126 件
介入に対してその後の評価の実施
- ・必要時、病棟ラウンドの実施

- ・SSI サーベイランス・検査部門サーベイランスの実施

- ・環境ラウンドの実施：

病棟・外来部門：1 回 / 月 4 職種（医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師）によるラウンドを行い、チェックシートを用いて評価を行った。

評価を点数化して、各部署に結果のフィードバックを行った。

マニュアル検討部会

- ・マニュアル（疾患別感染対策一覧）一部改訂した。

教育・広報部会

- ・院内感染研修会の実施

	開催日	テーマ	対象者	参加人数 (受講者数・受講率)
1	4 月 1 日	感染対策の基礎	新入職員	受講者：89 名
2	7 月 6 日集合研修 e ラーニング	食中毒の予防について 抗菌薬適正使用について	全職員 委託業者	受講率：100%
3	e ラーニング	新型コロナウイルス感染症とインフルエンザウィルス感染症について 抗菌薬について	全職員	受講率：100%
4	5 月 16 日、6 月 17 日、7 月 16 日、 8 月 16 日、9 月 17 日、11 月 18 日	採用者研修 感染対策について	中途採用者	受講者：36 名

- ・感染対策委員会 Institute12 月 6 日耀光リハビリテーション病院主催開催 Zoom

「ケアスタッフへの PPE 着脱を実施して」感染制御部看護師発表

- ・感染 News 等、計 80 回 HOMES に掲載した。

ワクチン・結核検診部会

- ・インフルエンザワクチン接種率は 60%であった。
- ・HB ワクチンの接種は、新入職者、職員健診後に合わせて、タイムスケジュールを組んで実施した。
- ・HPV ワクチンのキャッチアップ接種を実施した。

Ⅲ：現状と展望

ICC は、2024 年度テーマ「標準予防策（手指衛生、環境整備）を遵守し、感染予防策を推進」とし、ICT の各部会での活動を行った。4 職種（医師・看護師・薬剤師・検査技師）で院内巡回は、メデイカル部門の手指消毒の遵守状況も確認し指導した。感染全体研修会については、前期・対面での集合研修を開催、後期は e ラーニングによる研修会を実施した。院内の感染対策の教育については、標準予防策個人防護具の着脱練習を行った。

感染対策向上加算 1 開催のカンファレンスに年 3 回カンファレンスに参加し感染対策向上加算 2（入院初日 175 点）と連携強化加算（入院初日 30 点）、サーベイランス強化加算（入院初日 5 点）の維持に努めた。ICT 交流会、サーベイランス報告会へ参加した。

2024 年 12 月に感染対策向上加算 1 を取得し、感染対策向上加算 3 の施設とカンファレンスを実施し感染対策向上加算 1 と相互チェックを実施した。

2025 年度の目的は、「標準予防策（手指衛生、環境整備）」を中心とした感染予防策を推進していく。

目標については手指消毒実施率 80%を目指し指導を行っていく。実施率の向上に伴いラビジェルの使用量向上も目指す。また新型コロナウイルスが感染拡大しないよう、症状のある職員の検査ができる体制の継続を行う。啓発活動では、院内発信と診療部各部門への働きかけをする。第一種協定指定医療機関であるため、今後の新興感染症を想定した訓練、病床の受け入れ体制を整備していく。

手術センター運営委員会

I：構成員

委員長：平井部長

泌尿病院長、林病院長補佐、阿部副院長、木村副院長、嶋村部長、住部長、藤原部長、福田部長、真鍋部長、小林部長、松尾部長、谷部長、浅生部長、納部長、徳永副部長、家村（医事課）、田中主任（放射線技術部）、豊田部長（臨床工学部）、馬場課長、森友主任、吉村主任（看護部 手術センター）

救急医療運営委員会

I：構成員

泌尿病院長、林病院長補佐、三戸部長、小林部長、西田部長、吉野次長、檜崎課長、山口係長、掛屋主任、長野主任、舩原主任、香月主任、松高副主任、山中係長

II：臨床活動

- 1. 救急医療応援体制を強化し、チーム医療を展開し救急患者の受け入れを行う。目標 4200 台
- 2. 救急蘇生部会のメンバーを統制し、急変時や蘇生時の対応ができる職員を育成する。
- 3. ワークステーション研修を実施し、より良い医療が地域住民に提供できるような指導を行う。
- 4. 救急救命士部会立ち上げ

III：業績

表 1 救急センター受診内訳

	救急車受け入れ件数	自主来院件数	合計
2022 年度	3,995 件	839 件	4,934 件
2023 年度	4,308 件	818 件	5,125 件
2024 年度	4,430 件	956 件	5,386 件

表 2 救急センター各種データ

	CPA 搬送	ICU への入院	外来からの手術室搬入	時間外緊急検査
2022 年度	50 件	363 件	45 件	70 件
2023 年度	54 件	338 件	82 件	208 件
2024 年度	47 件	315 件	51 件	211 件

IV：現状と今後の展望

救急救命士の新規雇用、救急センターと ICU との一元化等、救急受け入れ体制を強化し、今年度の救急車受け入れ台数は 4430 台と過去最高を記録したが、傾向としては高齢者と軽症の割合が増えている、ICLS 部会では、法人内認定急性期ナースと共同し、ICLS コースを開催（7 月、11 月、2 月）し、22 名が受講、インストラクターも 4 名が資格を取得した。BLS 部会では、全職員を対象に AHA、G2000 に準じた BLS 研修を実施し、受講率は 98.8%であった。

今年度、新規に立ち上げた救急救命士部会においては、各種マニュアルの整備、転院搬送訓練、福岡県病院救急救命士連絡協議会をホスト役として開催等活発に活動した。また、ハリーコールの症例毎に検討会を開催し、急変時対応を振り返り、職員の急変対応スキルの向上を図った。救急ワークステーションでは、福岡市消防本部から計 10 チームの受け入れを行い、研修プログラムに沿って病院実習を実施した。10 月には救急医療研修会を開催し、救急隊と意見交換会を行い顔の見える関係を築き、連携強化に努めた。

今後の展望としては、引き続き救急車の不応壽の要因分析等、PDCA を回し続け、救急車受け入れ台数更新を目指す。救急救命士の雇用により、救急隊との連携を更に強化し、ワークステーションでは、糸島消防本部からも新規での受け入れを計画している。病院救急車による患者搬送も増やしていき、公的な救急車の利用を減らす等、地域貢献にも繋げていく。次年度、新規取り組みとして、白十字版 RRS の立ち上げを計画している。急性期病院として、防ぎ得た死・急変を回避し、医療の質向上を目指す。

栄養療法委員会 (栄養サポートチーム (NST))

I：構成員

● NST コアメンバー (内訳)

医局	3 名
看護部	1 名
法人内認定看護師	3 名
薬剤部	1 名
検査部	1 名
リハビリ部	1 名
栄養管理部	4 名
事務部	1 名

II：臨床活動

【NST 回診状況】

● 介入症例数及び延べ回診者数 (2024 年 4 月～ 2025 年 3 月)

回診回数	49 回
新規介入症例数	553 名
延べ回診者数	1, 178 名
NST 加算算定件数	970 件
効果・改善あり	24. 1%

【病棟別介入症例数】

ICU	4 北	4 南	5 北	5 南	6 北	6 南	計
27	104	89	73	113	118	29	553

(件)

III：業績

なし

Ⅳ：現状と展望

栄養療法委員会は栄養管理部会・摂食嚥下部会・NST 部会の 3 部会にて構成されており、連携しながら活動を行った。

- ・栄養管理部会では濃厚流動食の見直しや給食管理に関わる事柄を中心に検討し改善に取り組んでいる。
- ・摂食嚥下部会では口腔ケア技術向上の為に e-ラーニングを使用した研修・テストを実施。
- ・NST 新規介入症例数は 553 例、延べ介入患者数 1,178 例、うち NST 加算算定件数 970 件（表参照）。
- ・診療報酬改定に合わせて新しい栄養スクリーニング・栄養アセスメントとして MNA-SF 及び GLIM 基準を導入し、その評価項目として下腿周囲長の測定などを追加、栄養評価・栄養管理手順及び NST 介入手順の見直しを行った。
- ・栄養管理手順の見直しにより介入症例数に変化が予想されたが、実際には延べ介入患者数に大きな変動は認められなかった。
- ・また管理栄養士 1 名が新たに NST 専門療法士に合格し資格取得することができた。資格を活かして NST 活動及び NST メンバーの質向上に努めていきたい。
- ・今後は NST の質向上や院内外での研修会開催や NST 活動を通じて栄養に関する啓発活動を強化し、病院全体の栄養に対する意識向上を目指していきたい。

地域貢献推進会議

Ⅰ：構成員

診療部：阿部裕典（議長）

事務部：松元 潤

事務部 総務課：横川亜希代（事務取扱責任者）

看護部：樋口文子

リハビリテーション部：古賀研人

栄養管理部：眞次亮弥

薬剤部：水之江峻介

在宅事業部：松本俊一

事務部（白リハ）：山下泰貴

地域医療連携課（白リハ）：西山侑里

リハビリテーション部（白リハ）：平井裕介（事務取扱責任者）

地域包括ケア推進本部（アドバイザー）：兼石 匠

Ⅱ：活動

①「いしまるしえ」の運営

◇白十字会主催健康講座

【2024 年度実績】

多職種協働のもと各部門が企画立案し健康講座を開催しました。2024 年度は計 20 の講座を企画・実施し、延べ 200 名弱の方々にご参加いただきました。

	日付	担当部署	テーマ	参加者
1	5 月 17 日	栄養管理部	健康づくり教室 1 期	9
2	5 月 24 日	歯科衛生部	健康づくり教室 1 期	10

3	5月31日	リハ部	健康づくり教室1期	10
4	6月12日	脳卒中センター	もしもの時に役立つ社会保障制度	15
5	7月12日	栄養管理部	健康づくり教室2期	6
6	7月19日	歯科衛生部	健康づくり教室2期	6
7	7月26日	リハ部	健康づくり教室2期	7
8	8月23日	診療部	職業体験	中止
9	8月24日	レストラン部	めんたいこ作り	20
10	8月28日	脳卒中センター	脱水	8
11	9月13日	栄養管理部	健康づくり教室3期	6
12	9月20日	歯科衛生部	健康づくり教室3期	5
13	9月27日	リハ部	健康づくり教室3期	8
14	10月30日	脳卒中センター	高齢者の食事のポイント	17
15	11月14日	在宅事業部	介護技術	11
16	11月29日	栄養管理部	おうちで始める薬膳料理	15
17	12月11日	脳卒中センター	脳卒中のリハビリ	9
18	12月21日	レストラン部	職場体験	中止
19	3月2日	白リハ	白リハ体験ツアー	21
20	3月13日	在宅事業部	頭皮ケア	8

◇ノルディックウォーク

全日本ノルディックウォーク連盟のインストラクター資格を有するスタッフが主導して月に3～4回ほどいしまるしえをスタート地点としてノルディックウォークを実施しています。毎回平均10名ほどの参加者があり、複数人で町内をウォーキングすることで運動の機会としてはもちろん、防犯や高齢者の見守りとしても機能しています。

◇自主グループ活動

「いしまるしえ」を活動拠点とし、介護予防や社会参加の場として活動する地域住民主体の活動を支援する取り組みを行っています。

	団体名	活動内容
1	ストーンサークル café	交流、創作活動、出前講座
2	あゆみらいサークル	健康体操
3	幸令者の会	健康体操
4	SUN サン会	健康体操
5	若草会	太極拳
6	ほっこり会	交流、創作活動、出前講座
7	ARUKO	健康体操

◇つながるカフェ

2024年5月より、いしまるしえを活用し地域カフェを開設しました。

「人と人・人とコト・人とモノ 様々なことがつながる場所。様々なつながりによってより良い生活へつながることを願って」をコンセプトとし、カフェの名称を「つながるカフェ」としました。

開催日時：1回/月 1回2時間 敢えて日時は固定せずより多くの方が参加できるよう配慮して

開催。

運営スタッフ：地域貢献推進担当が主となり、地域の事業所、行政機関、住民ボランティア等と連携して実施。

また、福岡市が推奨する認知症カフェの要件も満たしており、立ち上げに関する補助金の支給も受けています。

開催日時	運営	参加人数
5月21日(火) 13:00～15:00	住民ボランティア、介護サービスステーション福岡和仁会、レッツリハ事業部、通所リハ、ずっと一緒に、白十字(リハ部・栄養管理部)、ココカラファイン	23
6月26日(水) 14:00～16:00	住民ボランティア、介護サービスステーション福岡和仁会、白リハ(通所リハ)、白十字(リハ部)、ココカラファイン	20
7月30日(火) 13:00～15:00	コロナ感染拡大のため中止	
8月22日(木) 10:00～12:00	住民ボランティア、ココカラファイン、エヴァ福岡西、白十字会ケアプラン福岡	6
9月25日(水) 14:00～16:00	住民ボランティア、グループホームいしまる、ずっと一緒に	8
10月18日(金) 10:00～12:00	住民ボランティア、エヴァ福岡西、福岡市認知症地域支援推進員	7
11月16日(土) 10:00～12:00	住民ボランティア、白十字会ケアプラン福岡	18
12月24日(火) 11:00～13:00	住民ボランティア、白十字(看護部・リハ部)、メナード野方店、ドリームケア石丸、西第6地域包括支援センター	29
1月19日(日) 10:00～12:00	住民ボランティア、白リハ(通所リハ)、生の松原ハッピーガーデン	10
2月13日(木) 14:00～16:00	住民ボランティア、エヴァ福岡西、メナード野方店、ドリームケア石丸、ずっと一緒に、白十字会ケアプラン福岡、白十字(リハ部)	15
3月12日(水) 14:00～16:00	住民ボランティア、メナード野方店、生の松原ハッピーガーデン、グループホームいしまる、白十字会ケアプラン福岡、西区地域保健福祉課	19

②地域活動支援

地域で活動するふれあいサロン等の団体に対して、介護予防や自助・互助に対する意識の醸成、具体的活動の指導等を目的に出前講座を実施しました。

以下に2024年度の実績を記します。

	日付	テーマ	参加者数	会場	備考
1	4月4日	身体測定	10	いしまるしえ	SUN サン会
2	4月11日	ノルディックウォーク	5	1丁目集会所	楽楽体操
3	4月17日	ノルディックウォーク	25	城南公民館	なごやかサロン
4	4月18日	認知症予防	50	前原コミュニティセンターぬくもり	食生活改善推進委員会
5	4月19日	認知症予防		前原南コミュニティセンター	上町ゆうゆうサロン

6	4月25日	ノルディック ウォーク	28	女原	女原ふれあいサロン
7	5月9日	測定	6	石丸1丁目	楽楽体操
8	5月14日	認知症予防	13	美咲が丘第2集会所	ほっとカフェ
9	5月15日	フレイル予防	28	ウエストヒルズコミュニ ティセンター	ゆうゆうクラブ
10	5月20日	認知症予防	19	鬼崎邸	ふれあい竹戸サロン
11	5月21日	つながるカフェ	23	いしまるしえ	つながるカフェ
12	5月23日	地域活動の重要性	15	別府公民館	城南区社協食生活改善 推進部会
13	5月28日	認知症予防	28	原西公民館	おしゃべりサロン
14	6月6日	糖尿病について	23	別府	ピッコロサロン
15	6月7日	認サポ	33	博多	グリーンコープ
16	6月13日	百歳体操	6	石丸1丁目集会所	楽楽体操
17	6月20日	百歳体操	24	大町団地集会所	サロンおおまち
18	6月25日	認知症予防	9	桜井集会所	なごみ会
19	6月26日	つながるカフェ	20	いしまるしえ	つながるカフェ
20	6月27日	認知症予防	29	稲葉コミュニティセン ター	白うさぎの会
21	7月11日	コグニサイズ	5	石丸1丁目集会所	楽楽体操
22	7月23日	いきいき百歳体操	中止： コロナ	大町団地集会所	大町団地健康カフェ
23	7月24日	認知症予防	15	南風台集会所	よりあい処南風台
24	7月30日	つながるカフェ	中止： コロナ	いしまるしえ	つながるカフェ
25	8月19日	認知症予防	27	堤公民館	東油山サロン椿
26	8月22日	つながるカフェ	6	いしまるしえ	つながるカフェ
27	8月29日	介護予防概論	中止： 台風	別府公民館	城南区社協食生活改善 推進部会
28	9月11日	西区オレンジフェ スタ		西区保健所	西区医師会・西区地域 保健福祉課
29	9月18日	体操	12	いしまるしえ	ストーンサークル café
30	9月21日	いしまる祭り		石丸小学校	石丸校区自治協議会
31	9月24日	サンドイッチ教室	18	大町団地集会所	山崎製パン トーコー
32	9月28日	ノルディック ウォーク	30	いきいきホール	石丸校区自治協議会自 治協議会、西区地域保 健福祉課
33	10月8日	認知症予防	18	アーベイン四季集会所	フォーシーズン
34	10月10日	100歳体操	5	石丸1丁目集会所	楽楽体操
35	10月14日	相談ブース運営		ゆずのき	サロンめいゆう
36	10月16日	体操	15	いしまるしえ	ストーンサークル café
37	10月17日	ノルディック ウォーク	16	大町団地集会所	ロコモ予防
38	10月22日	体操	18	アーベイン四季集会所	フォーシーズン
39	10月24日	認知症予防	10	松国公民館	松国いきいきサロン

40	10月26日	RUN 伴	120	木の葉モール	福岡市 RUN 伴実行委員会
41	10月28日	認サポステップアップ講座	10	西市民センター	にしみん meet up
42	11月11日	認知症予防	21	東町公民館	東町ふれあいいきいきサロン
43	11月12日	ノルディックウォーク	14	生の松原集会所	生の松原ふれ愛サロン
44	11月14日	認知症予防	9	武公民館	武サロン
45	11月20日	体操	15	いしまるしえ	ストーンサークル café
46	11月26日	地域カフェ	13	大用団地集会所	大町団地健康カフェ
47	11月28日	認知症予防	12	別府公民館	城南区社協食生活改善推進部会
48	12月10日	ノルディックウォーク	16	アーベイン四季集会所	フォーシーズンズ
49	12月12日	体操	6	石丸1丁目集会所	楽楽体操
50	12月13日	体操	7	いしまるしえ	ARUKO
51	1月7日	糖尿病について	中止		野辺・福ノ浦サロン
52	1月17日	測定	6	いきいきホール	ARUKO
53	1月20日	認サポ	24	下山門公民館	下山門校区社協ボランティア講座
54	1月21日	測定	9	いきいきホール	幸令者の会
55	1月21日	測定	10	いきいきホール	あゆみらいサークル
56	1月22日	測定	9	いきいきホール	ノルディックウォーク
57	1月23日	測定	8	いきいきホール	さんさん会
58	1月24日	認知症予防	26	しろうお集会所	しろうおサロン
59	2月13日	認知症予防	14	芥屋区公民館	元気会
60	2月28日	認知症予防	17	西堂集落センター	笑話会
61	3月10日	認知症予防	26	百道浜公民館	百道浜ふれあいサロン
62	3月25日	ノルディックウォーク	12	生の松原集会所	生の松原ふれ愛サロン
63	3月26日	ノルディックウォーク	21	いしまるしえ	石丸校区自治協、西区地域保健福祉課

③地域貢献活動

◇いしまるまつりへの参画

2024年9月21日（土）石丸校区自治協議会主催の「いしまるまつり」へ白十字会福岡地区として初めて出店しました。模擬店の内容は射的を行い多くの子供たちの笑顔が見られました。

多数の白十字会福岡地区職員ボランティアの方々にご協力いただき盛会に終わりました。

今後も地域との顔の見える関係を築き上げるために校区行事への参加を進めていきます。

◇校区防災訓練への参画

2024年11月16日（土）石丸校区の防災訓練に参画しました。

いしまるしえを対策本部とし、避難行動要支援者の安否確認、連絡体制の確認等を行いました。ま

た白十字病院災害対策委員会が中心となり、防災広場にある防災かまど、テント、マンホールトイレなどの設備を実際に使用し校区の方々にご案内しました。

今後も校区自治協議会等とのコミュニケーションを図り地域課題の解決に向け協力していきます。

Ⅲ：現状と展望

2024 年度より地域活動に関する議論を行う場として地域貢献推進会議が新たに発足しました。いしまるしえの運用・地域活動支援・地域貢献活動を 3 本柱として地域の健康を育むまちづくりを進めて参ります。

特定行為業務管理部会

事務取扱責任者：看護部次長 金子 まりこ

Ⅰ：構成員

- ・ 住部長（心臓血管外科）、高津部長（薬剤科）、松元次長（診療情報管理課）、吉村課長（医療安全管理部）、坂本（診療看護師）、水迫（診療看護師）、金城（診療看護師）、斎藤（診療看護師）、金子次長（看護部）、牛島主任（クリティカルケア認定看護師）、入江主任（感染管理認定看護師）、与座（クリティカルケア認定看護師）、野口（脳卒中看護認定看護師）

Ⅱ：臨床活動

- ・ 第 3 木曜日（3 カ月毎）に定期委員会を開催し、活動方法の検討や症例報告、評価を実施した
- ・ 特定行為研修を修了した看護師が、安全に特定行為を実践できる場、機会を提供した
- ・ システム、プロトコルの見直しを実施した

Ⅲ：業績

- ・ 診療看護師、特定行為研修修了者の特定行為実施件数は 6173 件とタスクシフトに貢献した
- ・ 実施した特定行為において有害事象はなかった
- ・ 実施した特定行為の症例検討を実施し、知識、技術の向上に努めた。
- ・ 診療看護師全員が特定行為における臨床指導者となった。
- ・ 人材確保として、関係各所への調整や支援を行い、新たに診療看護師が 2 名加わった。
- ・ 新しいメンバーの自己紹介をホームページに掲載した。

Ⅳ：現状と展望

診療看護師の特定行為実践件数は 5744 件であり、タスクシフト / シェアに十分貢献できたと考える。特定行為修了者の実施件数においては 429 件である。部署の特性により実践する機会が限られているが、日々の臨床推論の指導による人材育成に関与できている。また、マニュアルに準じた実践により有害事象の発生はない。

今年度まで実践件数に着目してきたが、次年度からは診療看護師、特定行為修了者がそれぞれ目標を立て PDCA を回すことで、より質の高い実践ができ、現場の質の向上に貢献できるよう取り組んでいく。

19. 資格取得奨励支援制度利用状況

【2024 年度 資格取得奨励支援制度 申請結果（白十字病院）】

	部 門	資 格 名	申請者数	取得者数
支 援 資 格	看 護 部	AHA ACLS プロバイダー	3	2
		介護福祉士	1	0
		施設基準管理士	1	0
		糖尿病重症化予防（フットケア）研修	1	1
		日本運動器看護学会認定運動器看護師	2	0
		認定看護管理者教育課程（セカンドレベル研修）	2	2
		認定看護管理者教育課程（ファーストレベル研修）	4	4
	放 射 線 技 術 部	血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師	1	1
		放射線被ばく相談員	1	1
	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 部	呼吸療法認定士	2	1
		認定理学療法士（呼吸）	1	0
	臨 床 検 査 技 術 部	認定一般検査技師	1	0
		認定超音波検査士（体表臓器、循環器、消化器、泌尿器、産婦人科、健診、血管）	1	1
	栄 養 管 理 部	栄養サポートチーム専門栄養療法士	1	1
		糖尿病療養指導士（福岡県）	1	1
	事 務 部	施設基準管理士	1	1
支 援 資 格 計			24	16
奨 励 資 格	看 護 部	AHA BLS ヘルスケアプロバイダー	29	25
		ICLS 蘇生トレーニング	13	12
		ビジネス文書検定（3級）	1	0
		心電図検定 1 級・マイスター	1	1
		心電図検定 2 級	1	0
		心電図検定 3 級	3	2
		心不全療養指導士	2	1
	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 部	AHA BLS ヘルスケアプロバイダー	2	2
		CI 療法講習会	1	0
		パソコン検定（3級）	1	1
		心不全療養指導士	3	2
		認知神経リハビリテーション・ベーシックコース	1	0
		福祉住環境コーディネーター（2級）	2	2
		離床プレアドバイザー	2	2
	臨 床 検 査 技 術 部	ICLS 蘇生トレーニング	1	1
		特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	1	1
		二級臨床検査士（微生物学、病理学、臨床化学、血液学、血清学、循環生理学・神経生理学、呼吸生理学）	1	1
	臨 床 工 学 部	認定血液浄化関連臨床工学技士	1	1

	部 門	資 格 名	申請者数	取得者数
奨 励 資 格	事 務 部	サービス接遇検定（3 級）	3	3
		パソコン検定（2 級）	1	0
		ビジネスキャリア検定（労務管理 3 級）	1	0
		ビジネス実務マナー検定（3 級）	2	1
		ビジネス文書検定（3 級）	3	3
		ホスピタルコンシェルジュ（3 級）	3	3
		医療経営士（3 級）	1	0
		医療情報基礎検定	1	1
		院内がん登録実務初級者	1	1
		情報処理技術者（IT パスポート試験）	1	0
		情報処理技術者（情報セキュリティマネジメント試験）	1	1
		認定医療ソーシャルワーカー	1	1
		秘書検定（2 級）	2	2
	奨 励 資 格 計		87	70
	合 計		111	86

2024年度 白十字病院 年報

発行 社会医療法人財団白十字会 白十字病院

病院長 刈野 泰秀

--- 白十字病院 広報委員会・年報作成部会 ---

